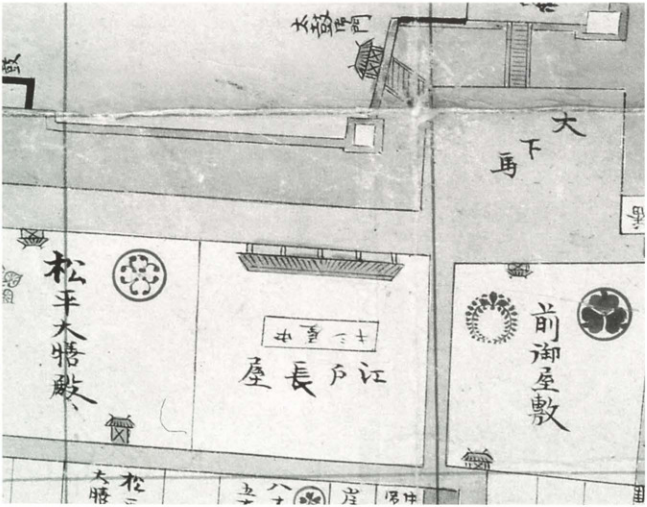
高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書　第２冊

高松城跡（江戸長屋跡Ⅱ）



2009年３月

高松市教育委員会

例　言

1．本書は高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書の第２冊で，高松市丸の内に所在する高松城跡（江戸長屋跡Ⅱ）の調査報告を収録した。
2．発掘調査及び整理作業については高松市教育委員会が実施した。
3．調査から報告書作成に至るまで，下記の関係機関ならびに方々の助言と協力を得た。記して謝意としたい。
香川県教育委員会，四国通商株式会社
4．高松城跡（江戸長屋跡Ⅱ）の調査は，文化財課文化財専門員小川賢・渡邊誠が行なった。
5．以下の業務については，委託業務として行なった。
遺物保存処理：㈱京都科学　遺物写真撮影：西大寺フォト
6．本書の執筆・編集は渡邊が行なった。
7．本書の挿図として，高松市都市計画図２千５百分の１「高松市街北部」を一部改変して使用した。
8．発掘調査で得られた資料は高松市教育委員会で保管している。
9．本報告書の高度値は海抜高を表し，方位は座標北を表す。
10．本書で用いる遺構の略号は次のとおりである。
SE：井戸　SK：土坑　SP：柱穴　SX：性格不明遺構
11．挿図の縮尺は，遺構の平・断面図が１／40，遺物のうち金属製品が１／２，土器が１／３，大型土器，瓦が１／４である。
12．土層および土器観察の色調表現は，新版標準土色帖（農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色表監修）に拠る。

目　次

第１章　調査の経緯と経過
第１節　調査の経緯……1
第２節　調査の経過……2

第２章　調査の成果
第１節　調査方法……2
第２節　土要遺構と基本層序……2
第３節　第２遺構面の遺構・遺物……5
第４節　第１遺構面の遺構・遺物……16
第５節　第１遺構面下層の遺構・遺物……35

第３章　まとめ
第１節　中世以前と近世初頭について……54
第２節　近世以降について……54

挿 図 目 次

第1図　高松城跡周辺発掘調査地位置図
第2図　調査地点土層序図
第3図　第2遺構面遺構配置図
第4図　SK204・208・227・228平・断面図，出土遺物
第5図　SK209・211・213・215・216平・断面図，出土遺物
第6図　SK219・224平・断面図，SK216・219・224出土遺物
第7図　SK226・SX201平・断面図，出土遺物
第8図　SX201出土遺物
第9図　SX202・SP211平・断面図，・出土遺物
第10図　SP222・237平・断面図，SP222・237・北西溝砂礫層出土遺物
第11図　第2遺構面調査時出土遺物
第12図　第1遺構面遺構配置図
第13図　SE101平・断面図，出土遺物①
第14図　SE101出土遺物②
第15図　SE101出土遺物③
第16図　SK101・SX101・SK103平・断面図，SE101・SK101・SX101出土遺物
第17図　SK101・SX101出土遺物
第18図　SK101・SX101・SK103出土遺物
第19図　SK104平・断面図，SK103・104出土遺物
第20図　SK105・106・107平・断面図，SK105・106出土遺物
第21図　SK108・116平・断面図，SK107・108・116出土遺物
第22図　SK108出土遺物
第23図　SK109・111・112平・断面図，SK108・109・111・112・116出土遺物
第24図　SK114・SP108・SK117平・断面図，SK111・112・114・117・SP108出土遺物
第25図　SK117・SP108出土遺物
第26図　SK118平・断面図，出土遺物
第27図　SK101・106・SP101・111・119平・断面図，出土遺物
第28図　第1遺構面整地土分布状況
第29図　第1遺構面下層遺構配置図
第30図　整地層出土遺物
第31図　SKb101平・断面図，整地層・SKb101出土遺物①
第32図　SKb101出土遺物②
第33図　SKb101出土遺物③
第34図　SKb101出土遺物④
第35図　SKb101出土遺物⑤
第36図　SKb102・104・111・113平・断面図，SKb101・102出土遺物①
第37図　SKb102出土遺物②
第38図　SKb104出土遺物
第39図　SKb104・111・113出土遺物
第40図　SKb106・108平・断面図，SKb106・108・113出土遺物
第41図　SKb109・112・SXb101平・断面図，出土遺物
第42図　第1遺構面調査時出土遺物①
第43図　第1遺構面調査時出土遺物②
第44図　江戸長屋跡調査区遺構配置図

写 真 図 版 目 次

図版1－1　第1遺構面検出状況（西から）
図版1－2　第1遺構面完掘状況（南から）
図版1－3　調査区西壁土層（東から）
図版1－4　調査区東壁土層（西から）
図版1－5　調査区北端土層①（南から）
図版1－6　調査区北壁土層②（南から）
図版1－7　調査区と長櫓（太鼓櫓台跡）
図版1－8　調査風景
図版2－1　SE101井積状況（東から）
図版2－2　SE101上層下層（東から）
図版2－3　SE101最下層井側検出状況（東から）
図版2－4　SK108土層堆積状況（東から）
図版2－5　SK109土層堆積状況（南から）
図版2－6　SK111・112完掘状況（南から）
図版2－7　SK118完掘状況（南から）
図版2－8　SP101土層堆積状況（南から）
図版3－1　SP108半截状況（東から）
図版3－2　SP108完掘状況（SK117から）
図版3－3　SP108・SK117完掘状況（北から）
図版3－4　第1遺構面下層遺構検出状況（南から）
図版3－5　第1遺構面下層遺構完掘全景（南から）
図版3－6　SKb104土層堆積状況（東から）
図版3－7　SKb101土層堆積状況（西から）
図版4－1　第2遺構面検出状況（南から）
図版4－2　第2遺構面完掘状況（南から）
図版4－3　SK212完掘状況（東から）
図版4－4　SK213完掘状況（北から）
図版4－5　SK215完掘状況（東から）
図版4－6　SX201完掘状況（東から）
図版4－7　SX201土層断面（西から）
図版4－8　第2遺構面調査区東側完掘状況（北から）
図版5　出土陶磁器
図版6　出土軒丸瓦①
図版7　出土軒丸瓦②
図版8　出土軒平瓦
図版9　出土瓦
図版10　出土遺物①
図版11　出土遺物②

第１章　調査の経緯と経過

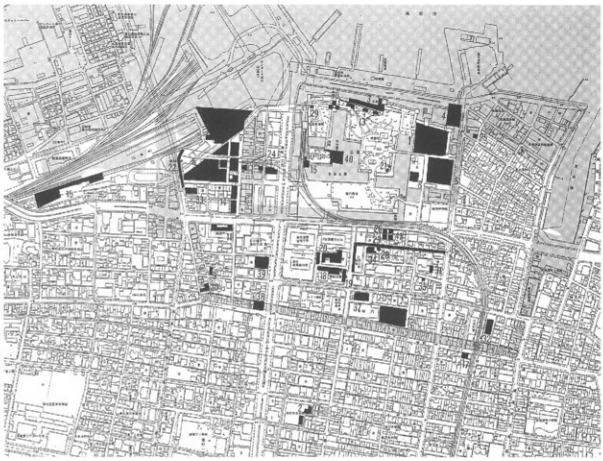
第１節　調査の経緯（第１図参照）

現在，旧高松城中堀の堀端に相当する都市計画道路高松海岸線は拡幅・整備事業が計画されている。この事業の実施にあたっては，当路線が国史跡高松城跡に北接していること，かつ高松城跡の武家屋敷地に該当していることから，事業主体である高松市（都市整備部都市計画課）と高松市教育委員会（以下，市教委）との事前協議を経て，市教委が拡幅工事の範囲について逐次，試掘調査を実施し，埋蔵文化財の包蔵状況の確認を行ってきた。

当調査地点についても同路線の拡幅部分に該当するもので，平成15年度に試掘調査が実施され，旧高松藩での広範囲にわたる武家屋敷地である江戸長屋に比定される地区であること，これと合わせて遺構・遺物の確認状況を考慮した結果，当地点も含め周知の埋蔵文化財包蔵地に該当するものと判断された。

平成20年３月21日付けで埋蔵文化財発掘通知（文化財保護法第94条第１項）が高松市から提出され，これに対し香川県教育委員会から事前に発掘調査を実施する旨の指導があった。

以上のような経緯のもと，同年４月から当地点の約62㎡を対象に市教委が発掘調査を実施することとなった。



第１図　高松城跡周辺発掘調査地位置図（1/10,000）

1．東ノ丸跡（県民ホール地区）　2．繩屋町道跡　3．水手御門　4．東ノ丸跡（県民小ホール地区）　5．東ノ丸跡（香川県歴史博物館地区）　6．西の丸町地区Ⅱ　7．西の丸町地区Ⅲ　8．作事丸　9．西内町　10．地久櫓　11．高松北警察署地区　12．内町　13．三の丸　14．西の丸町地区Ⅰ　15．地久櫓台　16．浜ノ町道跡　17．片原町道跡　18．丸の内地区　19．松平大膳家中屋敷跡　20．松平大膳家上屋敷跡　21三の丸，竜櫓台北側　22．西の丸町D地区　23．丸の内　24．寿町一丁目（無量寿院）　25．中堀，北浜町　26．丸の内，都市計画道路高松海岸線街路事業　27．丸の内，再生水管布設工事　28．丸の内，個人住宅建設　29．二の丸，玉藻公園西門科会所整備工事　30．外堀，西内町，共同住宅建設　31．丸の内，共同住宅建設　32．東町奉行所跡　33．西の丸町　34．丸の内　35．丸の内　36．鉄門　37．腰跡　38．外堀，兵庫町　39．寿町二丁目地区　40．天守台　41．江戸長屋跡Ⅰ・Ⅱ

第２節　調査の経過

発掘調査は平成20年４月１日から，同年４月28日の間で実施した。調査面積は約62㎡で，遺構確認面については２面と想定した。発掘調査工程どおり，１ヶ月で終了した。

以下，発掘調査期間中の主要な工程を記す。

４月１日：重機掘削，遺構面精査

４月２日～４月15日：第１遺構面および整地層下層の調査

４月16日：第２遺構面まで重機掘削

４月17日～25日：第２遺構面調査

４月28日：埋め戻し・撤収作業

整理作業については，高松市教育委員会文化財課円座整理事務所にて調査終了時から平成21年３月末までの期間で実施し，委託業務とした遺物写真撮影および遺物保存処理業務についても同期間内に完了した。

なお，地理的・歴史的環境については，高松市教育委員会編の「高松城跡（江戸長屋跡１）」を参照していただきたい。

第２章　調査の成果

第１節　調査方法

調査地は現道と宅地およびビルに挟まれた細長い区画で，現況は更地となっている。工程上の理由で，昨年度に調査区の南側を調査し，今年度の調査では街路拡幅範囲にあたる北側の調査を実施した。

調査の方法については，重機掘削の後，人力によって精査し遺構検出を行った。一部，整地層の除去など，人力での掘削を行った。遺構番号は検出した順にその平面の形態から想定した性格のものを付けた後，遺構掘削を行った。遺構図面，土層図等の作成を1/20縮尺で行った。

第２節　主要遺構と基本層序（第２・３図参照）

調査では２面において，中世および近世の遺構・遺物を確認した。ただし，第１遺構面については，整地面の下層においても遺構を確認している。調査時において各遺構面の出土遺物や層序から，概ね第２遺構面を中世段階，第２遺構面から第１遺構面の間の堆積層を近世段階の所産として捉えた。

調査地における各壁面の層序は南に隣接した高松城跡（江戸長屋跡Ⅰ）を参考にしながら調査を行ったが，基本的に同様な堆積状況であることが確認できたため，この調査を基準として，本書でもA～F層に大別している。ただし，いくつか異なる知見も得られた点もあり，それらを踏まえながら，記述を行っておく。

A層：表土に相当する整地層である。コンクリート塊他，戦災痕とみられる焼土層を含み，太平洋戦争後の所産と推定される。

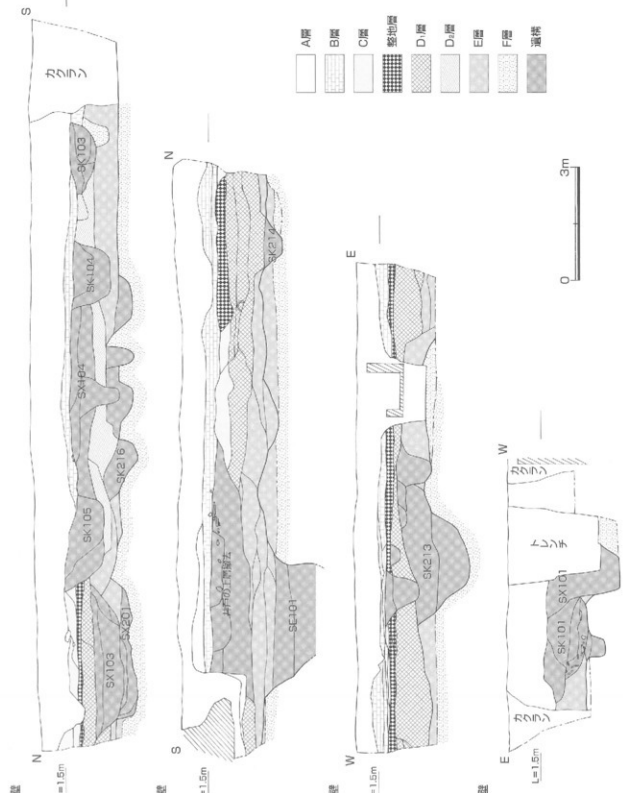
B層：薄く堆積した黒色を呈した砂混じりシルト層で，一部で瓦砕片や小礫を含み，A層および後述するC層との関係から，近・現代の所産と推定される。

C層：黄灰あるいは暗灰黄色を呈したシルト質極細砂である。焼土粒，炭を含む他，部分的に瓦片や黄色土を塊状に含む。概ねこの下位において，第１遺構面でD層を検出した。第１遺構面で確認した遺構の中には同系の埋土をもっているものもあり，このC層から掘り込まれたものもある。概ね19世紀前半以降の整地層と推定される。

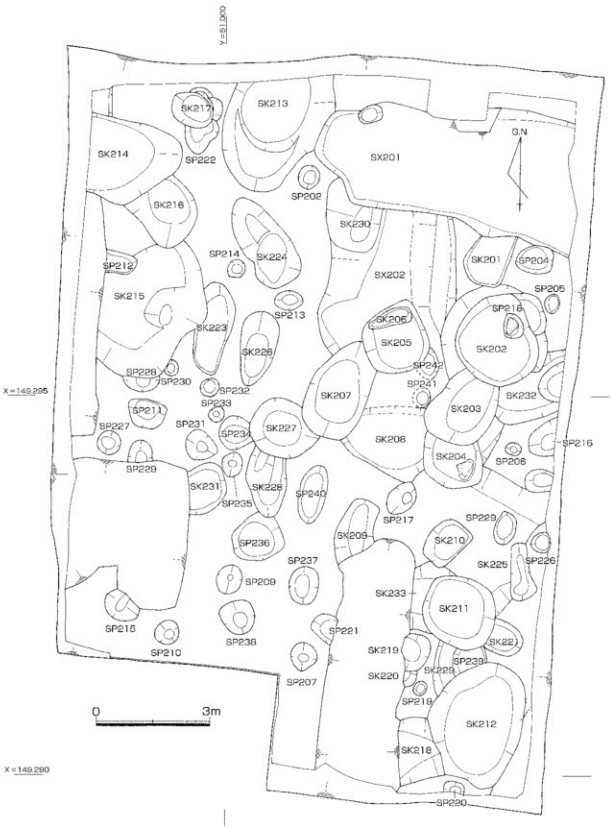
また，調査区の北側約1/4の範囲で，オリーブ黄色極細砂と灰色シルトとを細かく互層にして整地した層を確認した。

D層：第１遺構面として調査を行った面に相当する整地層である。炭・焼土粒を含んだ暗灰黄色もしくは暗灰黄褐色土もしくはシルトもしくは砂質土層で，瓦・礫を多く含む特徴をもつ。また，詳細にみると後述するように，整地土に細かな違いが認められた。また，この整地土を撤去して検出した面をD_2層とした。この面は第１遺構面下層として，遺構検出を行い，この面で確認できた遺構はSKb101のように呼称した。この面における遺構密度はそれほど高くなかった。出土遺物からD_1層が18世紀後半から19世紀以降，D_2層が17世紀前半～18世紀中頃の所産と推定される。先述したように，この面で確認された遺構の中には，C層から掘り込まれた遺構も含まれている。

E層：円礫をまばらに含み，黒褐～暗灰色を呈したシルト質土で，粘性があり，自然層が土壌化したものと考えられる。約20～30cm程度堆積しており，炭や赤褐色粒が混じって認められる。E層で確認された遺構は，先述したようにD～E層が形成される際に，部分的に行われた整地などがあり，その面から掘り込まれた遺構なども含まれているものと考えられる。そのため，遺構の年代は近世の所産の遺構も含まれているものの，中世のものが大半である。



第2図　調査地点土層序図（S＝1/50）



第３図　第２遺構面遺構配置図（S＝1/50）

F層：自然堆積とした砂礫層で，にぶい黄色砂を基盤として，砂礫から円礫が混じる。この面では明確な遺構は確認できなかったが，高松城西の丸町地区の調査（松本編2003）で確認されたような安山岩板石が数点出土し，遺物もいくつか採集できた。これより下位では，湧水を伴う。第2遺構面の調査後，可能な限り断ち割り調査を行ったが，F層よりも下位に存在する遺構は確認されなかった。

ただし，第1遺構面およびその下層の遺構群のほかに，第1遺構面下層から第2面までの間の堆積の中には，重層的に確認し得た部分的な整地層および遺構も存在しており，実際は細かく層位を区分できる可能性があるが，調査上の制約から行えなかった。周辺での調査成果から，想定される遺構面の検討作業も必要と考えられる。

第3節　第2遺構面の遺構・遺物

以下に報告する遺構の規模に関する記述については，残存部における値であり，必ずしも本来の大きさを示していない。

SK204（第4図）

調査区中央部やや東寄り，検出高0.8mで確認した長軸0.8 m，短軸0.27mの楕円形を呈する土坑である。北側はSK203に切られる。土坑中には角礫が残されていた。深度は0.27mで，埋土は黒褐色（10YR3/1）砂質土（やや粘性あり）の単層である。所属時期は，いずれも小片のため限定できないが，近世以降と考えられる。

出土遺物（第4図）

1は土師質土器小皿，2は中国産磁器の青花碗，3は軒平瓦，4は平瓦である。

SK205（第4図）

調査区中央部やや東寄り，検出高0.77mで確認した長軸0.88m，短軸0.72mの細長い楕円形を呈する土坑である。SK206に切られている。深度は0.08mで，埋土は黒褐色（2.5Y3/1）砂質土（炭・赤褐色砂粒を含む）の単層である。所属時期は，出土遺物がいずれも小片のため限定できないが，近世以降と考えられる。

出土遺物（第4図）

5は京・信楽系陶器碗，6は巴文軒丸瓦である。いずれも小片であり，詳細は不明である。

SK206（第4図）

調査区中央部やや東寄り，検出高0.75mで確認した長軸0.59m，短軸0.2mの隅丸方形状の土坑である。深度は0.08mで，埋土は暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土（赤褐色砂粒を含む）の単層である。SK205，SK207を切っている。所属時期は，出土遺物が小片のため限定できない。

出土遺物（第4図）

7は製塩土器の脚部片と考えられるもので，外面は削りで，内面はナデ調整で仕上げている。

SK207（第4図）

調査区中央部，検出高0.73mで確認した長軸1.38m，短軸0.78mの楕円形の土坑である。SK205に切られている。深度は0.4mで，埋土は黄灰色（2.5Y4/1）砂質土（拳大の角礫を含む）の単層である。所属時期は特定できない。

出土遺物（第4図）

8・11は土師質土器杯で，後者の口縁部付近には煤の痕跡が残っており，灯明皿として使用されていたものと考えられる。外底面には板状圧痕が残る。9・10は土師質土器小皿である。

SK208（第4図）

調査区のほぼ中央部，検出高0.72mで確認した長軸1.1m，短軸0.85mの三角形状を呈する土坑である。西側がSK207，東側がSK203・204に切られている。深度は0.17mで，埋土は黄灰色（2.5Y4/1）砂質土の単層である。所属時期は特定できない。

出土遺物（第4図）

12は土師質土器杯である。

SK227（第4図）

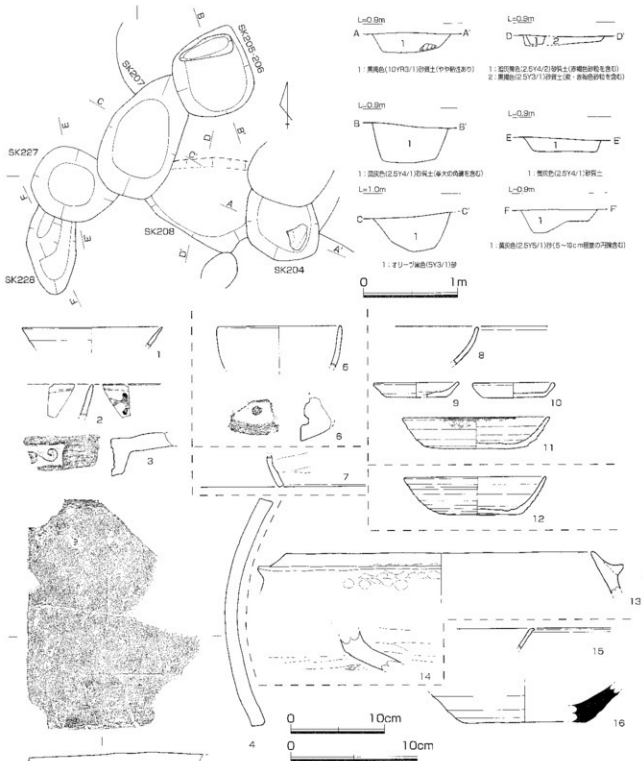
調査区のほぼ中央，検出高0.74mで確認した直径約0.75mの円形に近い土坑である。SK228を切って，SK207に切られている。深度は0.35mで，埋土はオリーブ黒色（5Y 3/1）砂の単層である。所属時期は出土遺物から14世紀以降と考えられる。

出土遺物（第4図）

13は足釜BⅡもしくはBⅢ型式で，突帯の貼り付けおよび器面調整に伴う指押えの痕跡が顕著に残る。14は土師質土器の甕である。破片であるが，外面に板ナデの痕跡，内面には刷毛目調整後板ナデを施した痕跡が残る。

SK228（第4図）

調査区の中央部よりやや南西側，検出高0.73mで確認した長軸0.83m，短軸0.55mの細長い楕円形の土坑である。南東部はテラス状を呈し，北側に細長い落ち込みを伴う。SK227に切られている。深度は0.25mで，埋土は黄灰色（2.5Y5/1）砂（5～10程度の円礫を含む）の単層である。所属時期は出土遺物から12世紀中頃以降と考えられる。



第４図　SK204～208・227・228平・断面図（S＝1/40），出土遺物（S＝1/3，1/4）

出土遺物（第４図）

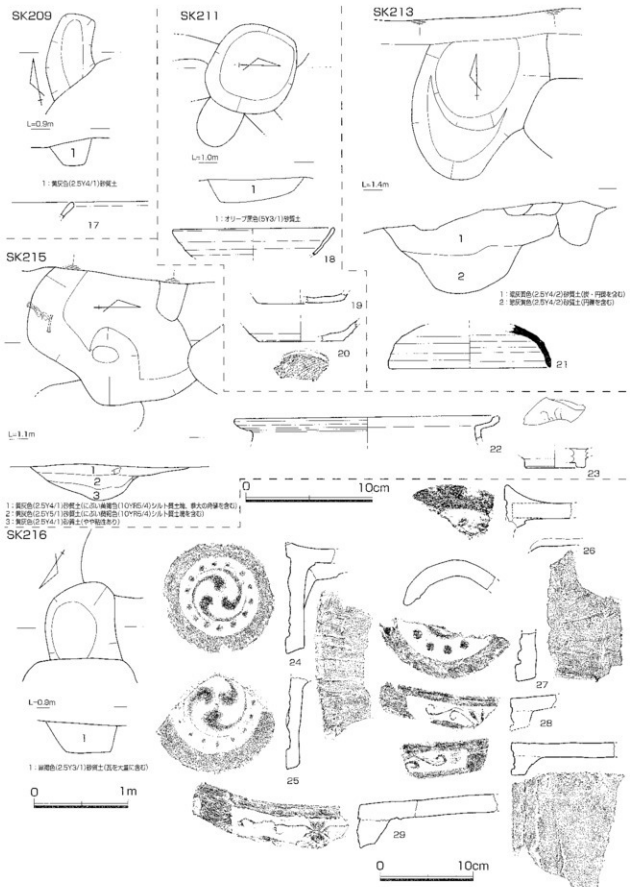
15は白磁碗のⅤ類―３もしくは４である。16は須恵器甕もしくは壺の底部である。

SK209（第５図）

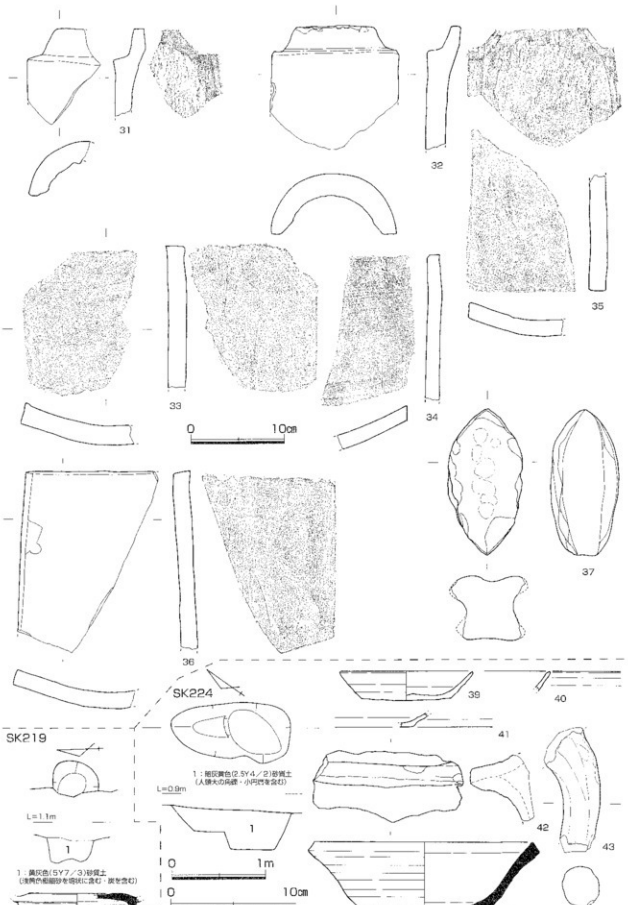
調査区の中央部からやや南東部，検出高0.81mで確認した長軸0.74m，短軸0.5mの三日月状を呈する細長い土坑で，南側は試掘トレンチによって壊されている。深度は0.23mで，埋土は黄灰色（2.5Y4/1）砂質土である。出土遺物は17のほかに，小片のため図化できなかったが，瓦器の破片がある。所属時期は出土遺物が小片であるため特定できない。

出土遺物（第５図）

17は土師質土器杯の破片である。



第5図　SK209・211・213・215・216平・断面図（S＝1/40），出土遺物（S＝1/3，1/4）



第6図　SK219・224平・断面図（S＝1/40），SK216・219・224出土遺物（S＝1/3，1/4）

SK211（第５図）

調査区の南東部，検出高0.73mで確認した一辺が約1mの隅丸方形の土坑である。深度は0.17mで，埋土はオリーブ黒色（5Y3/1）砂質土の単層である。所属時期は出土遺物が小片であるため，不明である。

出土遺物（第５図）

18～20は土師質土器杯である。18はヘラ切り，20は糸切りである。

SK213（第５図）

調査区の北西部，検出高0.75mで確認した長軸1.5m，短軸1.25mの大型の楕円形を呈する土坑で，SX201によって東側を切られている。南側にテラスがある。深度は0.75mで，埋土は２層に分けることができ，上層に暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土（炭・円礫を含む），下層に暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土（円礫を含む）が堆積していた。所属時期は近世以降と考えられる。

出土遺物（第５図）

21は須恵器の杯蓋で，TK209型式併行と考えられる。図化できた遺物の他に施釉陶器細片，土師質土器杯（皿），丸・平瓦の小片が出土している。

SK215（第５図）

調査区の西壁付近，検出高0.79mで確認した長軸1.88m，短軸1.39mの不整形の土坑である。SK216・SP212に切られ，SK223，SP228・230を切っている。深度は0.26mで，埋土はほぼ水平堆積しており，第１層が黄灰色（2.5Y4/1）砂質土（にぶい黄褐色（10YR 5/4）シルト質土塊，拳大の角礫を含む），第２層が黄灰色（2.5Y5/1）砂質土（にぶい黄褐色（10YR 5/4）シルト質土塊を含む），第３層が黄灰色（2.5Y4/1）砂質土（やや粘性あり）である。所属時期は出土遺物から19世紀中頃以降と考えられる。

出土遺物（第５図）

22は軟質施釉陶器鉢である。23は瀧泉窯系青磁碗で，Ⅰもしくは Ⅱ型式のものと考えられる。見込み部に文様が施され，蛍み付けから高台の内側は露胎である。出土遺物はこの他に小片のため図化できなかったもので，瓦質土器，土師質土器，骨片などがある。

SK216（第５図）

調査区の北西部，検出高0.77mで確認した一辺が約0.8mの隅丸方形を呈すると考えられる土坑である。北側をSK214に切られている。深度は0.21mで，埋土は黒褐色（2.5Y 3/1）砂質土（瓦を多量に含む）の単層である。所属時期は出土瓦から17世紀前半以降と考えられる。

出土遺物（第５・６図）

24～27は巴文軒丸瓦で，24・25はⅣ類である。26は断面の剥離状況から接合式である。27の丸当面にはほとんどなく砂の付着が著しい。28～30は軒平瓦で，28は三葉文を中心飾りとして，巌手を左右に２転させるもので，佐藤分類（佐藤2003）Ⅴ類の19に近い。29は宝珠文を中心飾りとして，巌手を左右に同じ方向に２つ配置するものである。軒平瓦はいずれも平瓦部に断面波状の切り込みを入れて顎部の粘土を接合して，瓦当面を成形している。そのため，瓦当部の裏側および凸面の瓦当部付近はヨコナデ調整が明瞭に残るものが多い。31～32は丸瓦で，31は凹面に粗い布目を残す。33～36は平瓦で，横方向にナデ調整で仕上げるもの，縦方向のナデ調整で仕上げるものなど様々である。33・35・36の凹面には糸（鉄線）切り痕が残る。37は整形時の指押さえの痕跡が著しい。37は土錘である。

SK219（第６図）

調査区の南東隅部，検出高0.88mで確認した，直径約0.4mの円形を呈する土坑である。西側を試掘トレンチによって壊されている。深度は0.21mで，埋土は黄灰色（5Y7/3）砂質土（浅黄色極細砂を塊状に含む・炭を含む）の単層である。所属時期は特定できないが，古代以降と考えられる。

出土遺物（第６図）

38は須恵器の蓋と考えられる破片である。出土遺物はこの他に土師質土器片がある。

SK224（第６図）

調査区の中央部やや北西より，検出高0.76mで確認した長軸1.3m，短軸0.58mの西側がやや尖った形状を呈する楕円形の土坑である。北西側にはテラスがある。深度は0.45mで，埋土は暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土（人頭大の角礫・小円礫を含む）の単層である。所属時期は，出土遺物から中世以降と考えられる。

出土遺物（第６図）

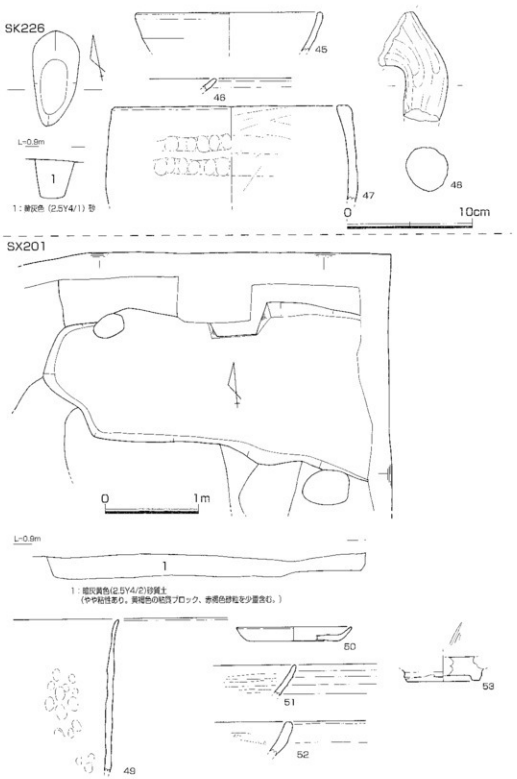
39～41は土師質土器小皿，42は破片で器面の磨滅が著しいため詳細は不明であるが，竈の破片の可能性が高い。43は足釜の脚部，44は須恵器鉢である。

SK226（第７図）

調査区の中央部やや西側，検出高0.74mで確認した長軸1.0m，短軸0.45mの楕円形を呈する土坑である。深度は0.42mで，埋土は黄灰色（2.5Y 4/1）砂の単層である。所属時期については明言できないが，中世以降と考えられる。

出土遺物（第７図）

45は土師質土器椀である。46は土師質土器小皿である。47は土師質土器の鍋で，体部外面の粘土接合部と考えられる部分に指押さえが帯状に集中している。内面は板状のナデ調整で平滑に仕上げている。48は土師質土器の足釜の脚部である。出土遺物はこの他に須恵器片がある。



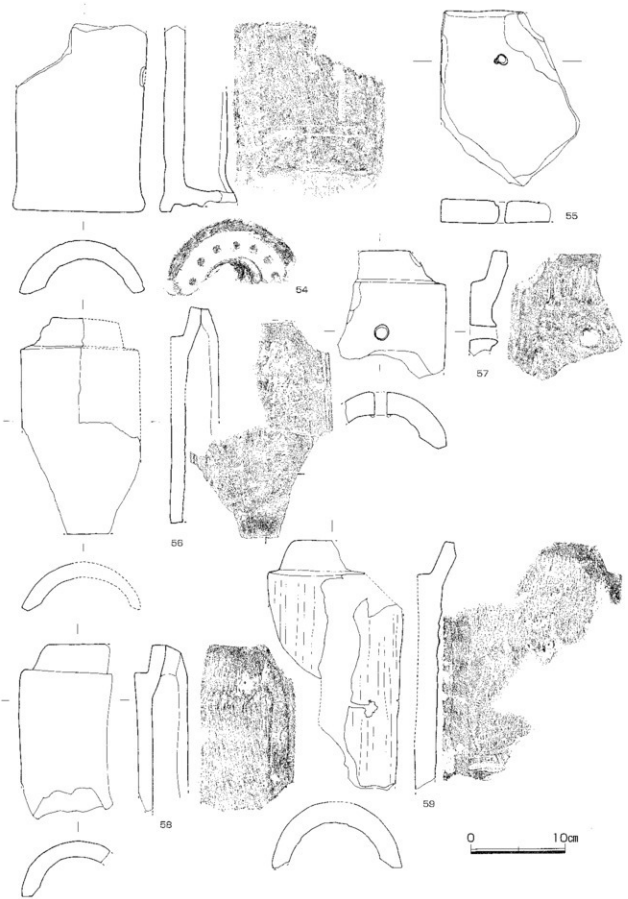
第７図　SK226・SX201平・断面図（S＝1/40），出土遺物（S＝1/3）

SX201（第７図）

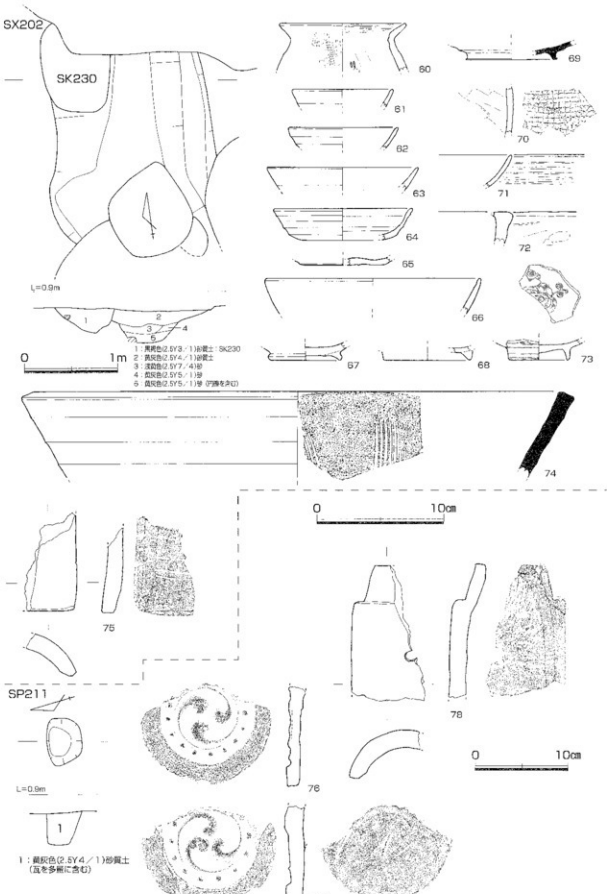
調査区の北東隅部，検出高0.73mで確認した長軸3.5m，短軸1.6mの大型方形の土坑状を呈する遺構である。SP204に切られ，SK201・213・230，SX202を切っている。深度は0.29mで，埋土は暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土（やや粘性があり，黄褐色の粘質ブロック，赤褐色砂粒を少量含む）の単層である。所属時期は軒丸瓦の存在から近世以降と推定できる。東壁の土層から数度に渡って掘り返されたと考えられる遺構である。

出土遺物（第７・８図）

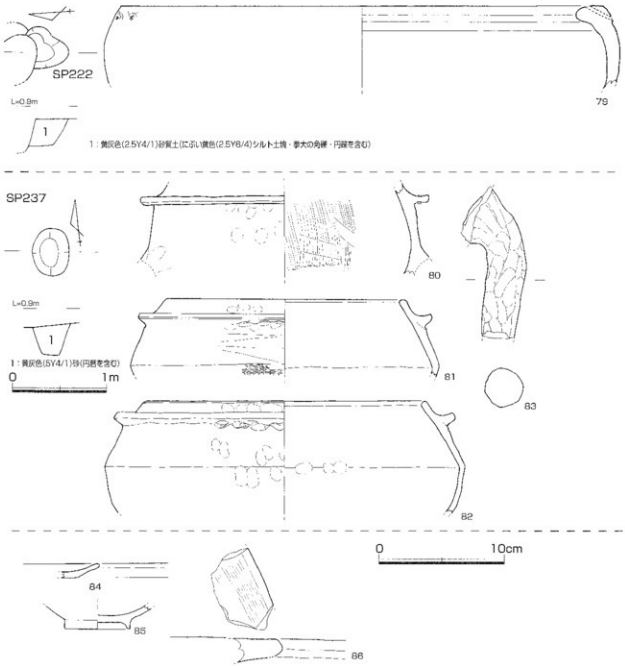
49は弥生土器の細頸壺の口頸部で，外面は調整が著しいが，内面には指押えの痕跡が多数認められる。50は土師質



第8図　SX201出土遺物（S＝1/4）



第９図　SX202・SP211平・断面図（S＝1/40），出土遺物（S＝1/3，1/4）



第10図　SP222・237平・断面図，SP222・237・北西隅砂礫層出土遺物（S＝1/3）

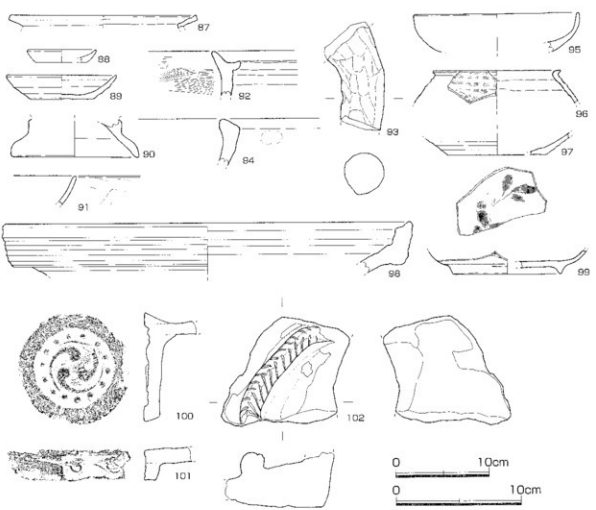
土器小皿で，ヘラ切りである。51は土師質土器椀で，横方向のヘラ磨き調整で内面を仕上げている。52は土師質土器の口縁部で，明確な器種は特定できないが，口縁部内面は刷毛目調整後，ナデ調整によって仕上げている。53は龍泉窯系の青磁碗である。54は軒丸瓦，55は平瓦，56～59は丸瓦である。54の丸瓦部と56の凹面にはコビキB，57～59には布目が認められる。55は平瓦であるが，厚手で平瓦に釘孔が認められ，詳細な用途は不明である。出土遺物は図化できた遺物の他に，染付，須恵器細片がある。

SX202（第９図）

調査区中央やや北側，検出高0.81mで確認した長軸2.35m，短軸1.67mの遺構で，SX201，SK202・205・206・207・208・230に切られており，本来の形態を留めていない。東側にテラスを残す。深度は0.43mで，埋土は４層に分層でき，第１層は黄灰色（2.5Y4/1）砂質土，第２層は浅黄色(2.5Y7/4)砂，第３層は黄灰色(2.5Y5/1)砂，第４層は黄灰色（2.5Y5/1）砂（円礫を含む）である。中世前半期の（13～14世紀代）遺物が多いが，所属時期は肥前系磁器から17世紀中葉以降と考えられる。

出土遺物（第９図）

60は弥生土器と考えられる小型の甕である。外面が縦方向の刷毛目調整，内面は口縁部のみ横方向の刷毛目調整，体部は縦方向のケズリを施す。61～65は土師質土器



第11図　第２遺構面調査時出土遺物（S＝1/3，1/4）

小皿で，64・65はヘラ切りである。66～68・71は土師質土器椀の口縁部もしくは高台部である。71の外面は横方向のヘラ磨きによって仕上げている。69は須恵器椀の高台で，佐藤分類（佐藤2000）のAⅡと考えられる。70は瓦質土器の甕体部片で，外面は格子目叩き，内面は板状工具によるナデ調整である。72は土師質土器甕である。73は肥前系の染付碗である。74は備前系須恵器の擂鉢である。75は丸瓦で，凹面にコビキBが認められる。出土遺物は図化できたものの他に，瓦質土器細片，須恵器細片，平瓦がある。

SP211（第９図）

調査区の西壁中央部，検出高0.73mで確認した長軸0.5m，短軸0.37mの隅丸の台形を呈するピットである。深度は0.34mで，埋土は黄灰色（2.5Y4/1）砂質土（瓦を多量に含む）である。所属時期は出土瓦から近世以降と考えられる。

出土遺物（第９図）

76・77は三巴文軒丸瓦で佐藤分類のⅣ類である。78は丸瓦で，凹面にはコビキBが認められ，凸面にも釘孔が認められる。この他に図化できなかったものに平瓦片がある。

SP222（第10図）

調査区北西部，検出高0.77mで確認した長軸0.5m，短軸0.34mのやや不整形のピットでSK217に切られている。深度は0.27mで，埋土は黄灰色（2.5Y4/1）砂質土（にぶい黄色（2.5Y6/4）シルト土塊・炭火の角礫・円礫を含む）である。所属時期は特定できない。

出土遺物（第10図）

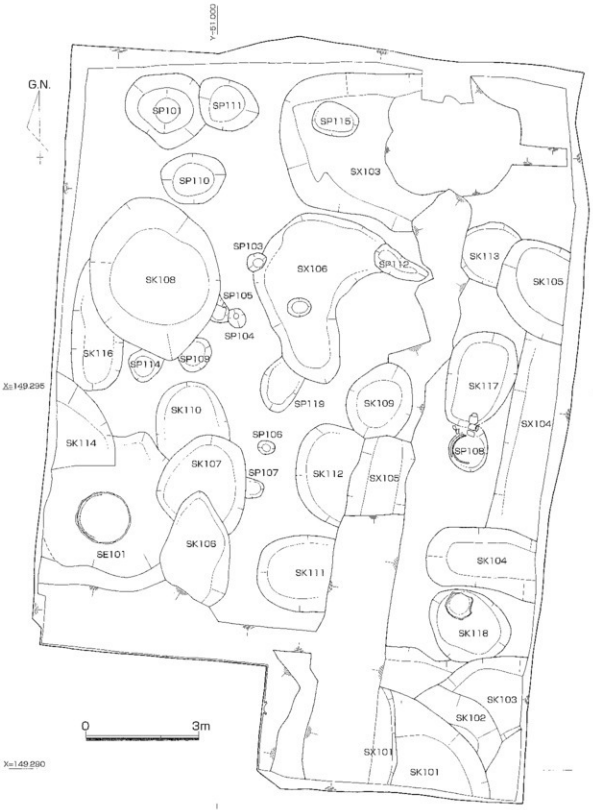
土師質土器の大型の鍋である。口縁部に内面側から２つの小さな穴をあける。内外面ともにナデ調整である。

SP237（第10図）

調査区南中央部，検出高0.74mで確認した長軸0.38m，短軸0.3mのやや楕円形を呈するピットである。深度は0.31mで，埋土は黄灰色（5Y4/1）砂（円礫を含む）である。所属時期は出土遺物から13世紀中頃以降と考えられる。

出土遺物（第10図）

80～83は土師質土器足釜で，80が佐藤分類のＢⅠで，



第12図　第１遺構面遺構配置図（Ｓ＝1/50）

内面は刷毛目調整によって仕上げている。81・82はＡＩで，いずれも胴部最大径で屈曲し，内面はナデ調整で仕上げている。前者は体部下半を格子目叩きで整形している。

その他の出土遺物（第10・11図）

遺構に伴うものではないが，自然堆積層の上面から遺物が出土した。84は土師質土器小皿，85は土師質土器椀，86は土師質土器の甕の口縁部片である。

また，同じく遺構に伴うものではないが，第２遺構面の調査時に出土した遺物が87～102である。87は弥生土器の甕の口縁部，88は土師質土器小皿，89は土師質土器杯，90は土師質土器の高台状を呈するもの，91は土師質土器椀の口縁部である。92・93は土師質土器足釜で前者はＢⅡ型式である。内面は横方向の刷毛目調整である。94は土師質土器鉢，95は瀬戸・美濃系陶器の小鉢，96は施釉陶器の壺で，外面は盛絵である。97は軟質施釉陶器の鍋底部，98は備前系陶器擂鉢である。99は肥前系磁器の染付皿で，内面見込み部に草花文を施す。100は三巴文軒丸瓦で，佐藤分類のⅣ類である。101は軒平瓦，102は小片のため，用途は不明であるが，鬼瓦などの特殊な瓦の一部と考えられる。

第４節　第１遺構面の遺構・遺物

遺構面を精査すると，調査区の南東隅にはコンクリート構築物，南側には試掘時のトレンチ，中央部やや東側には南北に走る暗渠排水，その最北部には取水枡があり，既に撹乱されている状況であったが，第12図のように井戸をはじめとして多くの遺構を確認することができた。以下に詳述していく。

SE101（第13図）

調査区の南西隅に位置し，SK106・107・114によって切られており，本来の形状は留めていない。検出高は1.31mであるが，井側の状況から本来は検出面よりもさらに上層から掘り込まれたものと考えられる。井戸の廃棄後に井側の中は埋められており，その上層部分には，井側の破片が包含されていた。そのため，井側の上層部分は廃棄の際，もしくは後世の造成などに伴って破壊され，廃棄されたものと考えられる。その際に掘削したと考えられる北側からの掘り込みの痕跡が調査区西壁の上層でも確認でき，SE101の北側で確認できたSK114はそれに伴うものと考えられる。掘り方は直径約2mの円形を呈していたものと考えられる。

井側は土師質製で，残存しているものは３層分であった。下の井側の口縁部を覆うように上層の井側を重ねており，上層のものが若干大きくなっている。最下層の口縁部が見える程度まで湧水が認められた。最下層の井側は，調査上の制約から最下部まで検出は行っていない。そのため，確定はできないが，基本的に高さ0.9m，直径0.6mのものを３段重ねで，井戸としていたものと考えられる。

後世の撹乱以下の井側中の埋土はにぶい黄褐色(10YR4/3)土(炭・赤褐色砂粒を多量に含む)の単層であった。掘り方の堆積状況は，第13図のように，中央と外側で分層でき，褐灰色粘質土の１層および暗灰黄色／黄灰色粘質土の２層と褐灰色粘質土３層および黄灰色砂質土の４層の大きく２つに分けることができる。垂直方向で土層が分層できるので，作業時に井側の周辺を取り囲むように枠などを設置した可能性がある。それゆえ，井側を設置し，井側周辺を埋めもどし，さらに，外側を埋めもどすという作業工程で進んだものと推察される。

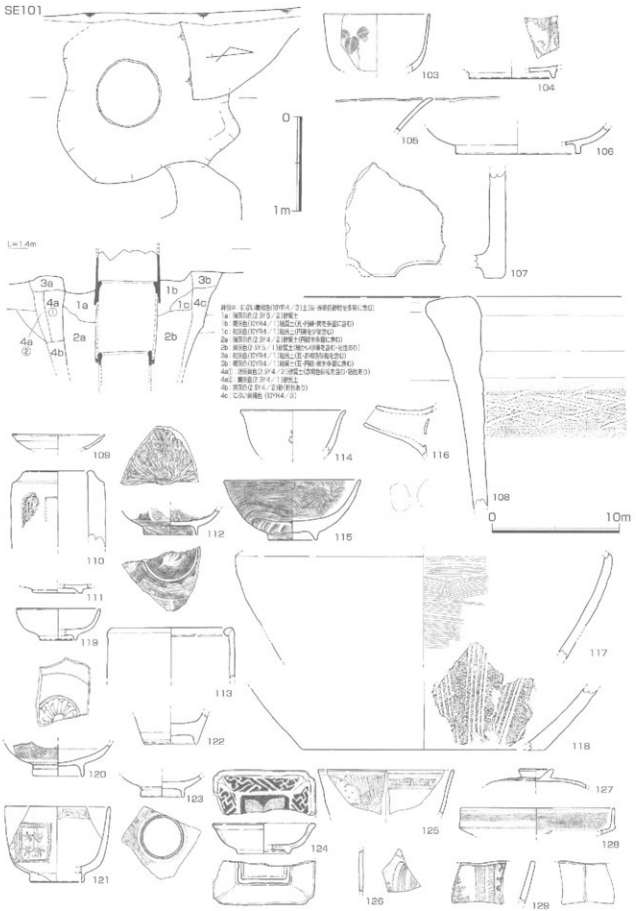
所属時期は，井側の形状および掘り方下層の出土遺物から，19世紀後半以降と考えられる。

出土遺物（第13～16図）

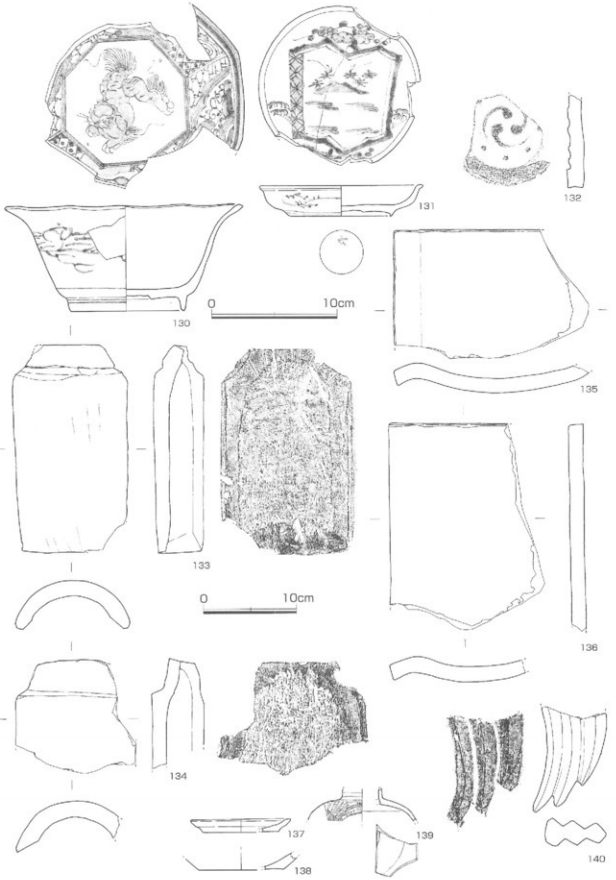
井側中から出土したものが103～107で，108が井側そのものである。

103～105は瀬戸・美濃系磁器である。103が碗で，外面には草花文を施す。104は皿である。105は青磁鉢である。106は淡路系磁器の黄釉皿である。107は土師質土器の焜炉もしくは火鉢の底部片である。108は土師質土器の井側で，外面の口縁部付近にナデによって作り出した幅広の突帯に斜格子状に刺突文を施す。そのほかはナデ調整を施す。井側は先述したように，3つ重ねられていたが，いずれも同等品である。

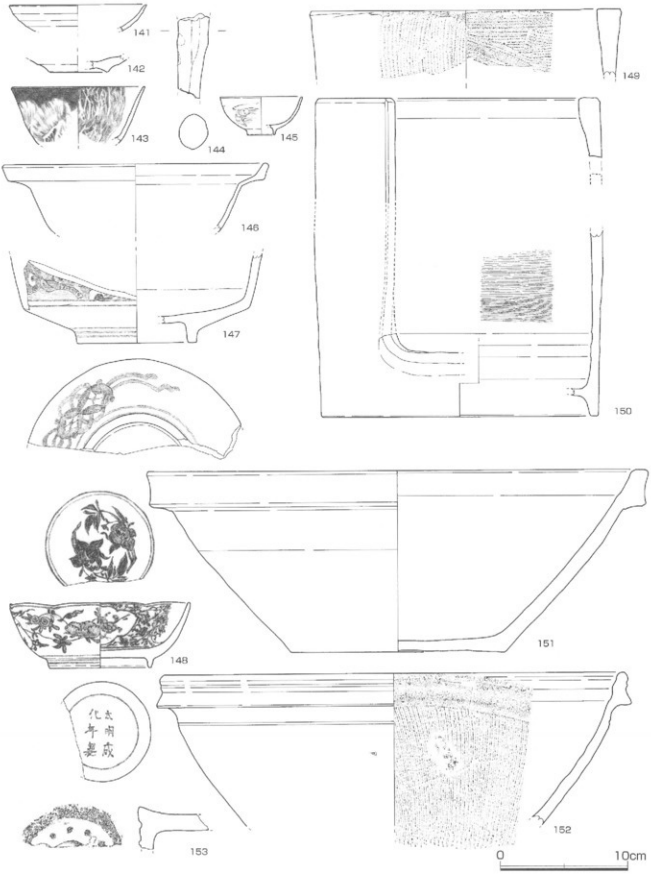
109～136はSE101の掘り方の上層から出土したものである。109は備前系陶器の灯明皿で，口縁部に煤が付着している。110は焼塩壺である。破片のため判然としないが，体部の中央部には印刻が認められる。111は瓦器椀底部である。112・115は肥前系陶器刷毛目碗で，後者の内面見込み部は釉をかきとっている。113は施釉陶器の火入れである。114は施釉陶器の碗である。116は軟質施釉陶器の土瓶である。127は軟質施釉陶器の蓋である。117は弥生土器の鉢の体部片で，内面には横方向の刷毛目調整が施されている。118は土師質土器の擂鉢の底部で，擂り目は使用による磨滅が著しい。119～123・125・128～131は肥前系磁器で，119が紅猪口，120が広東碗，121が碗，122は桶形猪口，128が皿，129は色絵の皿もしくは鉢，130は鉢である。131は皿である。131は蛇ノ目凹型高台で，高台内に焼き継ぎ印である「六」の字が認められる。また，割れたのを補修した痕跡も認められる。124・126は瀬戸・美濃系磁器で，124は責型成形の型打皿で，陽刻と染付で文様を施す。132～136は瓦片である。132は三巴文軒丸瓦で佐藤分類のⅣ類である。133・134は丸瓦で，前者は玉縁部が短い。凹面は133が



第13図　SE101平・断面図（S＝1/40），出土遺物①（S＝1/3）



第14図　SE101出土遺物②（S＝1/3，1/4）



第15図　SE101出土遺物③（S＝1/3）

コビキB，134が布目を残す。135・136は桟瓦である。

137～140掘り方の下層から出土したものである。137は土師質土器小皿である。138は陶器の甕の底部で，糸切りである。139は肥前系磁器の蓋である。140の用途は不明であるが，特殊な瓦の破片と考えられる。

141～156がSE101の検出時に出土したものである。141・144は土師質土器で，141は杯，144は足釜の脚部である。146・149・150は瓦質土器で，146は鍋で，149と150は焜炉と考えられるものである。149は内外面ともに非常に粗い刷毛目調整で仕上げている。142は肥前系陶器の灰釉皿で，143は陶器の刷毛目碗である。151・152は備前系陶器の鉢で前者が捏鉢，後者が擂鉢である。145・147・148は肥前系磁器で，145は紅猪口，147は鉢で内底部は無釉である。148は皿で，高台部には「太明成化年製」の銘款がある。153～155は三巴文軒丸瓦で，いずれも佐藤分類のⅣ類である。154の丸瓦部凹面には布目が残る。156は丸瓦で，凹面には縄足叩きが残る。

小片のため図化できなかった遺物の中には，須恵器細片，京・信楽系陶器片，平瓦，鉄釘，骨片などがある。

SK101・SX101（第16図）

調査区の南東隅部で確認した切りあった土坑である。SK101はSX101を切っており，SX101の大部分が試掘トレンチによって壊されている。検出高はSK101が1.3m，SX101が1.1mである。上層断面から現方ともに本来の掘り込み面は標高1.4m前後であったと考えられる。いずれも本来の形態を留めていないが，SK101が長軸1.35m，短軸1.21mで，SX101が長軸1.25m，短軸0.47mを測る。

SK101とSX101の境界が曖昧で，ともに掘り下げたために，遺物を区別して取り上げることができず，出土遺物は双方のものとして，新しい遺構であるSX101に帰属させる形で取り上げている。このためSK101・SX101出土遺物として報告している。

深度はSK101が0.49m，SX101が0.63mである。SK101の埋土は，オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂質土の第1層，オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂質土（明褐色ブロック・炭を含む）の第2層がSK101の埋土であるのか否かは判断できなかったが，SK101の確実な埋土はオリーブ褐色（2.5Y3/3）砂質土（黄色土を少量含む）の第3層，オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂質土（瓦を多量に含む）の第4層である。SX101の埋土は黄灰色（2.5Y4/1）粘質土で瓦を多量に含んでいた。所属時期は出土遺物から18世紀第3四半期から19世紀以降である。

出土遺物（第16～18図）

157・159は土師質土器小皿である。160～170は大型の土師質土器である。160は鍋，161は甕，162・163は焙烙，164～169は鉢である。内面に擂痕もしくは板状工具によるナデ調整の痕跡が明瞭に認められる場合が多い。169は口縁部ややドに突帯を貼り付け，平坦面を作り出すために削っている。170は火鉢で，3脚になるものと考えられる。171・172は瓦質土器で，前者が羽釜，後者が焜炉と考えられる。158・173は備前系陶器の灯明皿である。前者の口縁部周辺には煤が付着する。174・176・178～180・196が京・信楽系陶器で，174・196は碗，176は端反碗，178は平碗，179・180は急須および蓋である。175は肥前系陶器の碗である。182・192は瀬戸・美濃系陶器で前者が鉢，内面見込み部には目跡が残る。後者は水滴である。177は陶器の刷毛目碗である。199は肥前系陶器の碗で，高台には「木下弥」という刻印が認められる。181は施釉陶器皿もしくは鉢，183は施釉陶器鉢である。184～191・193～195・197・198・200は肥前系磁器で184・185は小杯，186～189は紅猪口，190・191・195・197は碗もしくは皿で，内面見込み部に釉剥ぎが認められる。193は蓋，198は青磁の蓋，200は皿である。201・202は三巴文軒丸瓦で，佐藤分類のⅣ類である。201の外縁付近に笵割れが認められる。203は菊丸瓦で佐藤分類のⅠ類である。204は軒平瓦で，陽刻線による四葉の花弁をもつ花文を中心飾りとし，唐草を蕨手状に展開させるもので，佐藤分類の軒平瓦Ⅶ類の28・29に近い。205は平瓦である。

小片のため図化できなかった遺物の中には，肥前系磁器片，肥前系陶器片，備前系陶器片，土師質土器片などが出土している。

SK103（第16図）

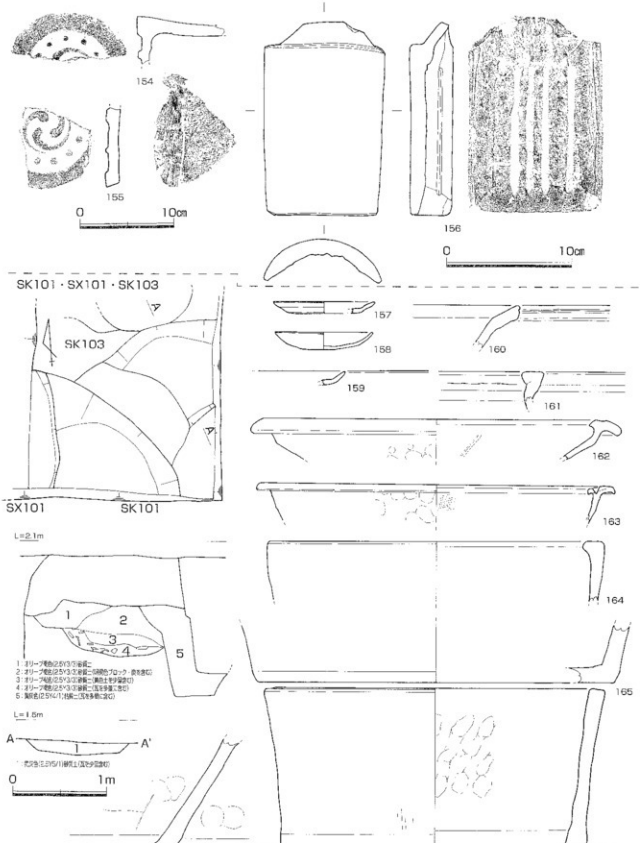
調査区の南東隅部，検出高1.33mで確認した長軸1.15m，短軸1.09mの土坑である。SK102によって切られ，調査区外に延び，本来の形態は不明である。深度は0.19mで，埋土は黄灰色（2.5Y5/1）砂質土（瓦を少量含む）の単層である。所属時期は，18世紀第4四半期以降と考えられる。

出土遺物（第18図）

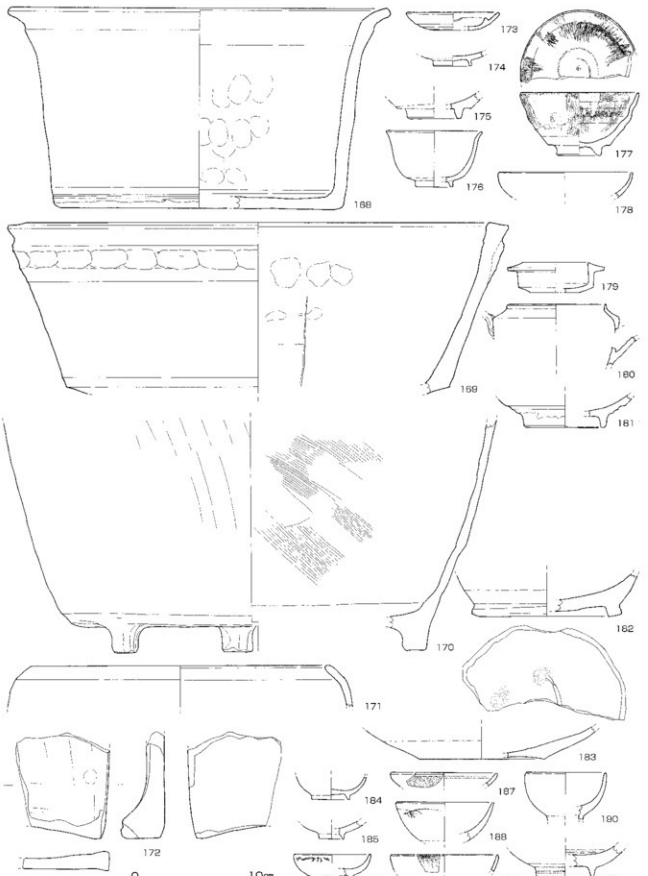
206～208が土師質土器で，206・207は焙烙，208・216は鉢で，後者は渦状に突帯を貼り付けている。209は軟質施釉陶器の急須取手で，210は陶器裏底部である。214は備前系陶器の擂鉢で，擂目は使用による磨滅が著しい。215は備前系陶器の瓶の体部である。211・212は肥前系磁器の小杯もしくは紅猪口と考えられる。213は磁器碗である。217は三巴文軒丸瓦で，丸瓦部に釘穴が認められる。218は蕨手状に唐草を展開させる軒平瓦である。

SK104（第19図）

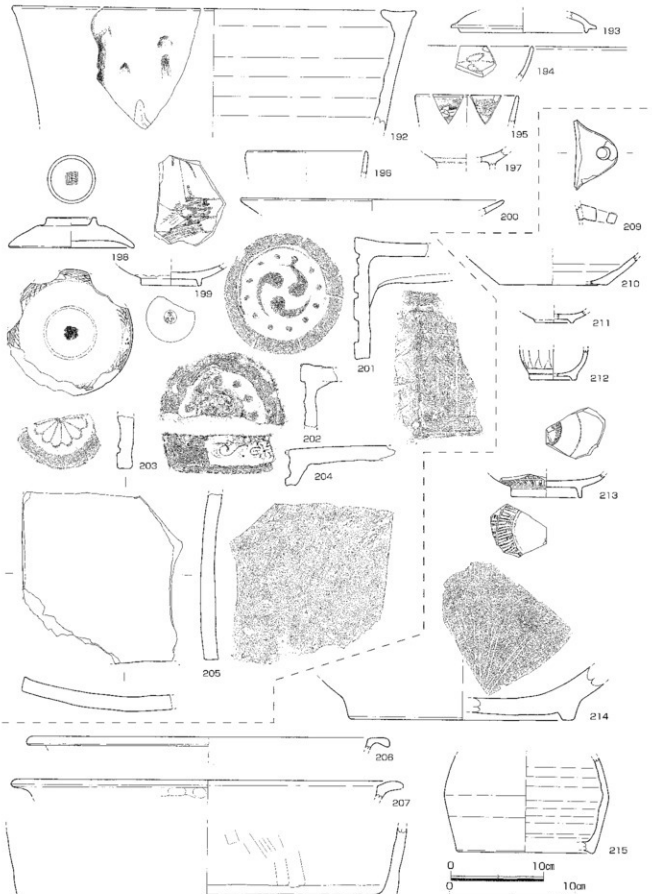
調査区の南東隅部，検出高1.37mで確認した長軸1.48m，短軸0.83mの溝状を呈する土坑である。東側は調査区外へと延びている。深度は0.35mで，埋土は黄灰色（2.5Y5/1）シルト質極細砂（鉄分沈着・炭を含む）



第16図　SK101・SX101・SK103平・断面図（S＝1/40），SE101・SK101・SX101出土遺物（S＝1/3，1/4）



第17図　SK101・SX101出土遺物（S＝1/3）



第18図　SK101・SX101・SK103出土遺物（S＝1/3, 1/4）

の半層である。所属時期は，出土遺物から18世紀第３四半期以降と考えられる。

出土遺物（第19図）

219は上師質土器の焙烙である。外面は指押さえ，内面には粗い刷毛目調整が施されている。220～222は京・信楽系陶器碗で，220・221は丸碗で，222は筒碗である。223は肥前系の胴脂染付の碗である。224は灰釉陶器の丸碗である。225は堺・明石系陶器の擂鉢で，白神分類（白神1992）のⅠ類である。226～230は肥前系磁器で，226は小杯もしくは紅猪口で，227・229は碗，228は鉢，230は大皿である。231は鉢物を模った瓦の破片である。破片のため詳細は不明である。この他に貝（アカニシ）が出土した。

SK105（第20図）

調査区北東隅部，検出高1.3mで確認した長軸1.25m，短軸0.92mのやや楕円形を呈する土坑である。深度は0.32mで，埋土は黄灰色（2.5Y5/1）砂礫混じりシルト質極細砂（焼土粒・炭・円礫を含む）の単層である。所属時期は出土遺物から18世紀前半以降と考えられる。

出土遺物（第20図）

232は上師質土器小皿で，233は土師質土器焙烙である。234～237は陶器で，234は備前系の灯明皿，235は京・信楽系の丸碗，236・237は肥前系で，前者は刷毛目装飾の鉢，後者は火入れである。238～241は肥前系磁器で，238が小杯，239が碗，240・241は鉢である。240は内面を袋刷ぎで文様を施し，241は内面見込み部に蛇ノ目釉剥ぎを施す。この他に平瓦の細片が出土している。

SK106（第20図）

調査区の南西隅部，検出高1.36mで確認した長軸1.37m，短軸0.92mの北側がやや尖った形状の楕円形を呈する土坑である。SK107，SE101を切っている。深度は0.3mで，埋土は黒褐色（2.5Y3/1）土（２～３cm程度の砂礫・炭・円礫を含む）の単層である。出土遺物は18世紀第４四半期以降を示しているが，SE101との切り合い関係からSK107の時期はSE101より新しい時期と考えられる。そのため，出土遺物は遺構の所属時期を直接示すものではない。

出土遺物（第20図）

242・243は土師質土器の杯もしくは小皿である。244・248は備前系陶器の灯明皿で，煤が残る。249～252は陶器の碗で，249は京・信楽系の小杉碗，250もその可能性がある。251は丸碗，252は京・信楽系の端反碗である。253は肥前系の陶胎染付の火入れである。245～247は瓦質土器で，245が碗，246・247は焜炉である。247の底部にはやや不規則に円形の透かしが現状で５つ施されている。254は肥前系青磁香炉で，255は瀬戸美濃系磁器の皿である。256は三巴軒丸瓦で，佐藤分類のⅣ類である。丸瓦部には釘穴が，円面にはコビキBが認められる。257・258は軒平瓦で，257はクローバー形に中心飾りを陽刻線で表現するもので，佐藤分類のＸＸⅠ類に該当する。

小片のため図化できなかった遺物の中には，瀬戸・美濃系陶器片，施釉陶器片，軟質施釉陶器片，土師質土器片，貝（アカニシ）がある

SK107（第20図）

調査区の南西隅部，検出高1.35mで確認した直径1.2mの円形状を呈する土坑である。SE101を切り，SK106に切られている。深度は0.35mで，埋土は暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂質土（瓦・円礫を含む）である。出土遺物は18世紀第４四半期以降を示しているが，SE101との切り合い関係からSK107の時期はSE101より新しい時期と考えられる。そのため，出土遺物は遺構の所属時期を直接示すものではない。

出土遺物（第21図）

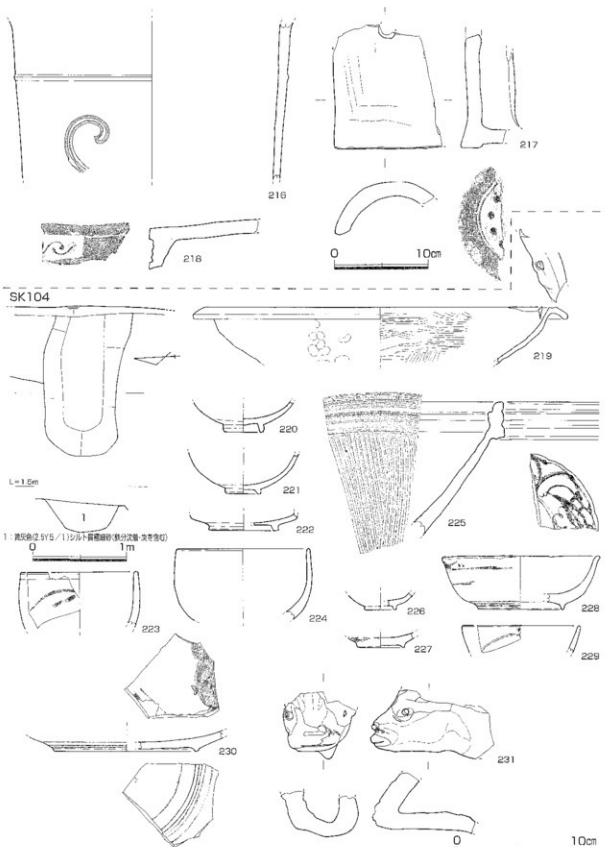
259は瓦質土器の羽釜である。260～263は肥前系磁器で，260～262が紅猪口，262は笹文が施される。263は碗である。264は陶器の上絵の鬢盥である。265は三巴文軒丸瓦の佐藤分類のⅣ類である。小片のため図化できなった遺物の中には，肥前系磁器片，京・信楽系陶器片，備前系陶器片，貝（アカニシ）がある。

SK108（第21図）

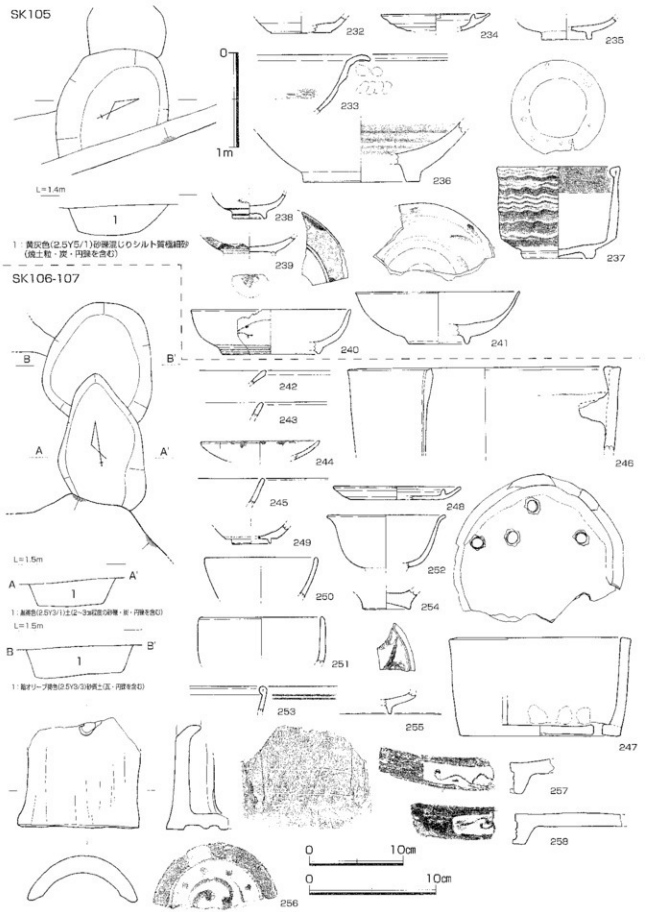
調査区の西調中央部，検出高1.36mで確認した長軸2.2m，短軸1.7mの楕円形を呈する土坑である。SK116・SP101・105・109・114を切っている。深度は0.46mで，埋土は暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土（瓦を多量に含む）の単層である。17世紀代に位置づけられる瓦が多数出土しているが，出土遺物から所属時期は18世紀第４四半期以降と考えられる。そのため，瓦溜は近隣で葺かれていたものが，この段階に廃棄され，埋められたものと考えられる。

出土遺物（第21～23図）

266は土師質土器足釜の脚部で，267は上師質土器焙烙である。268・269は肥前系の陶器の碗で，270は備前系の陶器瓶もしくは人形施利である。271～277は肥前系の磁器で，271が雨降り文を施す紅猪口である。272は広東碗で，内底見込み部には「寿」の文字が認められる。273～276は皿で，275の内底見込み部は釉をかきとっている。高台部および釉をかきとった箇所に目跡が残る。277は瓶である。278～284は三巴文軒丸瓦で，282は佐藤分類のⅡ類で，その他はⅣ類である。278・280・281・283はいずれも瓦当の亮側と端部に塗いナデを施す。284の瓦当の裏側はナデ調整が顕著に残る。285～292は軒平



第19図　SK104平・断面図（S＝1/40），SK103・104出土遺物（S＝1/3，1/4）



第20図　SK105・106・107平・断面図（S＝1/40），SK105・106出土遺物（S＝1/3，1/4）

瓦である。285は蕨手状に展開させる唐草文である。286～290は中心飾りを三葉文の陽刻線で表現するもので，佐藤分類のⅤ類に該当する。286は中心飾りから，双方に長い唐草が展開し，その先端が上向きに小さく丸く収まり，その外側に３つの花蕾がある子葉が配される。その唐草の下側に２条平行して子葉が展開する。佐藤分類のⅤ類の中でも11と考えられる。287は中心飾りから蕨手状に唐草を左右に２回転させる。288～290は中心飾りから左右に二つの唐草が上下異なる方向に展開するもので，Ⅴ類の中でも18・19に近いものと考えられる。289には笵傷が認められる。291は「Ａ」字形を中心飾りの意匠とするもので，佐藤分類のⅩⅢ類である。唐草は「Ａ」字形の下からのび，２転する。292は小片であり，詳細は不明である。軒平瓦はいずれも，顎部を貼り付けによって成形しているものと考えられる。293は丸瓦で，凸面は縦方向のナデ調整を施し，凹面には布目を残す。294・295は平瓦で，いずれも凹凸面ともにナデ仕上げである。295は凹凸面の調整を施した後に，端部調整を行ったものと考えられる。

SK116（第21図）

調査区の西側中央部，検出高1.28mで確認した長軸1.74m，短軸0.69mの溝状を呈する土坑である。SK108・114によって切られている。深度は0.52mで，埋土は暗オリーブ褐色（2.5Y3/1）砂質土の単層である。所属時期は出土遺物から，18世紀第３四半期以降と考えられる。

出土遺物（第23図）

296～298は土師質土器小皿で，297・298は糸切りである。299は土師質土器擂鉢で，内面は刷毛目調整を行った後に，擂目を施している。300・301は肥前系磁器で，前者が紅猪口，後者が碗で，外面には鉄釉を掛け，内面には透明釉を掛けている。302は青銅製のキセルの吸口である。

SK109（第23図）

調査区のほぼ中央部，検出高は1.33mで確認した直径約１mの円形に近い土坑である。SX105によって切られている。土坑の堆積は２層に分層でき，上層が浅黄色（2.5Y7/4）シルト質極細砂，下層が黄灰色（2.5Y4/1）粘質土（炭化物を含む）である。土師質土器を掘るために，掘り方を埋めた土は土坑西側が暗灰黄色（2.5Y5/2）砂質土（褐色ブロック・炭化物を少量含む）で，東側が暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土（円礫・木を少量含む）である。所属時期は特定できないが，18世紀第３四半期以降と考えられる。

出土遺物（第23図）

303は土師質土器の甕である。粘土接合位置と考えられる箇所に指押さえが帯状に認められる。

SK111（第23図）

調査区の中央部の南側，検出高1.4mで確認した一辺約１mの隅丸方形状を呈する土坑である。試掘トレンチによって東側半分は壊されている。埋土は黄灰色（2.5Y6/1）砂質土（明褐色の花崗岩の砂礫，3～5cmの砂礫を含む）の単層である。所属時期は19世紀代と考えられる。

出土遺物（第23・24図）

304・305は土師質土器小皿で，306は杯である。305は佐藤分類のＡⅥ形式，306はＡⅩ形式で，いずれも糸切りである。308は土錘である。長さ5.15cm，幅3.7cmを測り，外面は指押さえで整形している。307・309・314は京・信楽系陶器で，307が碗，309は平碗で，309は見込み部に呉須と錆絵で染め付ける。314は台灰釉高台の仏飯器で，高台の下には墨書で「岩」と書かれている。310は肥前系陶器の刷毛目皿である。311は備前系陶器の（甲）鉢である。312は磁器碗で，313～317は肥前系磁器である。313は白磁の半球碗，315～317は碗である。図化できたものの他に瀬戸・美濃系陶器がある。

SK112（第23図）

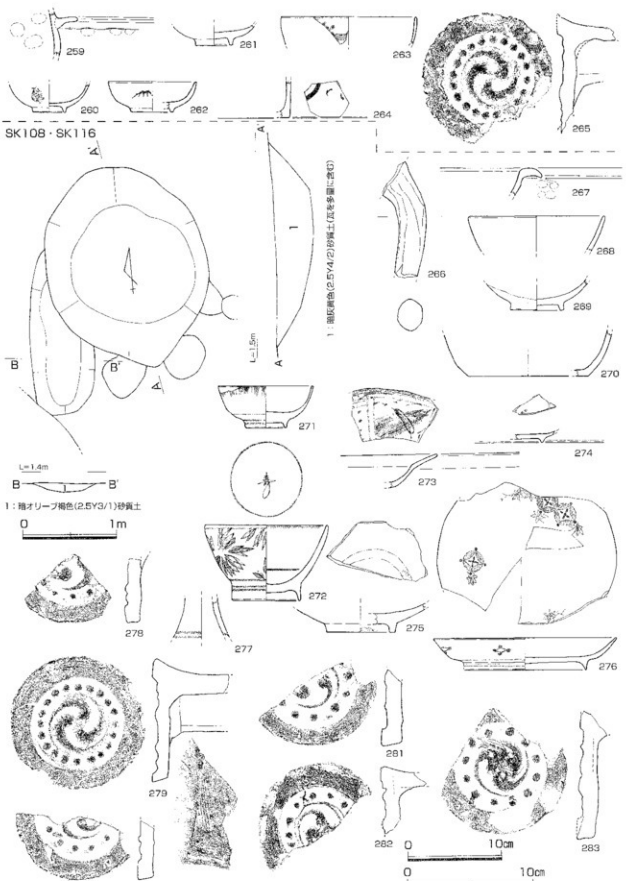
調査区の中央部やや南側，検出高1.35mで確認した長軸1.26m，短軸0.8mの隅丸方形状を呈する土坑である。SX105によって切られている。深度は0.22mで，埋土は暗灰黄色（2.5Y8/2）砂質土（粘性あり・３cm程度の礫を含む）の単層である。所属時期は，限定できないが，近世以降であることは間違いない。

出土遺物（第24図）

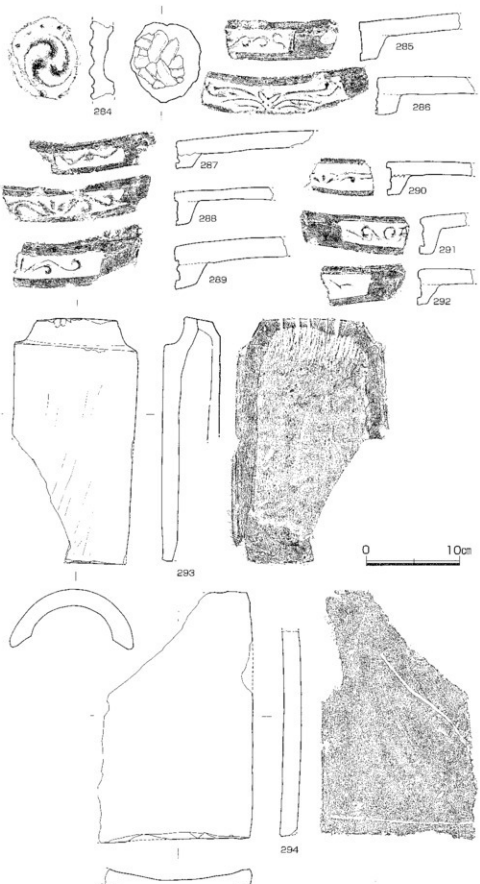
315は土師質土器小皿である。316・317は肥前系の磁器碗で，316は半球碗で，外面に松の文様が施される。318・319は三巴文軒丸瓦で佐藤分類のⅣ類に該当する。図化できたもののほかに京・信楽系陶器細片，軒平瓦がある。

SK114（第24図）

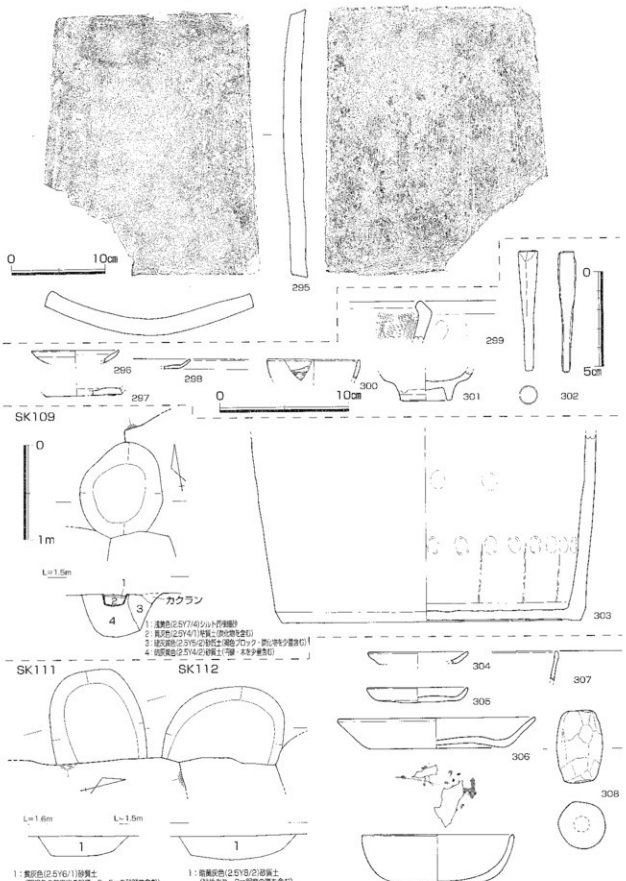
調査区の西側中央付近，検出高は1.28mで確認した長軸1.2m，短軸1.0mの土坑である。遺構検出面の段階ではSE101に切られているように見えたが，SE101の箇所で述べたように，本来はSE101を切っていたと考えられる。そのため，掘り込みも西壁の状況から本来は1.4m前後と考えられる。深度は0.29mで，埋土は灰色（5Y4/1）砂混じりシルト（小円礫・瓦を含む）の単層である。出土遺物の時期は18世紀前半以降の可能性が高いが，先にも述べたように，SE101周辺の遺成に伴う攪乱土坑である可能性が高く，所属時期は井戸よりも新しいものと考えられる。



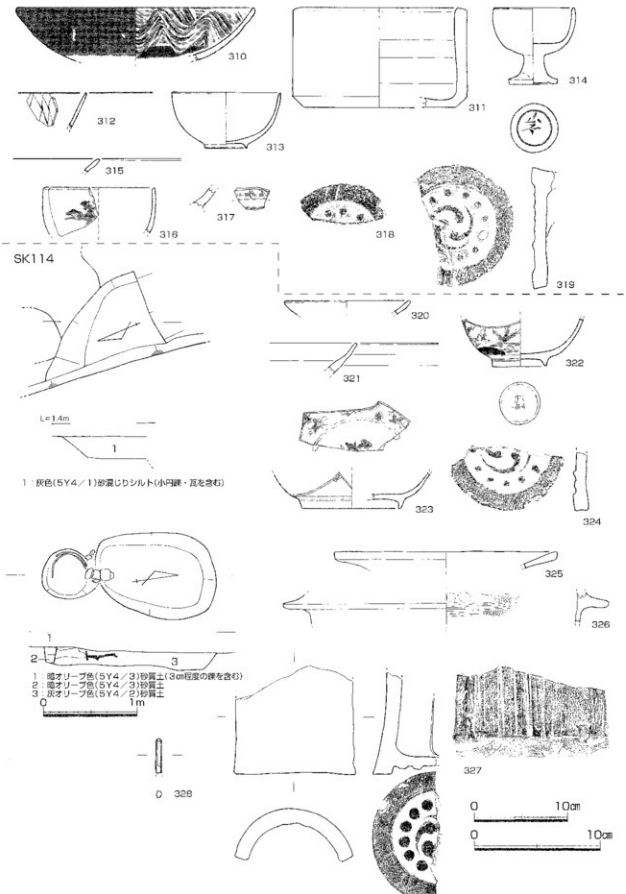
第21図　SK108・116平・断面図（S＝1/40），SK107・108出土遺物（S＝1/3，1/4）



第22図　SK108出土遺物（S＝1/4）



第23図　SK109・111・112平・断面図（S＝1/40），SK108・109・111・116出土遺物（S＝1/2，1/3，1/4）



第24図　SK114・SP108・SK117平・断面図（S＝1/40），
SK111・112・114・117・SP108出土遺物（S＝1/3，1/4）

出土遺物（第24図）

320は土師質土器小皿，321は杯である。322・323は肥前系磁器で，前者が碗，後者が鉢である。322の底部外面には「大明年製」の文字が印刻されている。324は三巴文軒丸瓦で，佐藤分類のⅣ類である。小片のため図化できなかった遺物の中には，丸瓦の細片，用途不明の金属製品がある。

SP108・SK117（第24図）

調査区の中央部東側で確認したピットと土坑である。検出高は1.32mである。SP108は直径約0.55mの円形のピットで，SK117は長軸1.27m，短軸0.92mの楕円形の土坑である。SP108とSK117は別の遺構番号を付与しているが，本来は一連の遺構で，トイレ遺構と考えられる。SP108に土師質土器の鉢が便槽として埋め付けられていたが，その土師質土器は半裁されて，それを二重に巡らしていた。そして，排泄物を溜めておく，もしくは別の場所に廃棄するためにかきだす場所がSK117と考えられる。SP108とSK117は丸瓦で接続されていた。堆積状況は，便槽の南側の上層が暗オリーブ色（5Y4/3）砂質土（3cm程度の礫を含む）で，下層が暗オリーブ色（5Y4/3）砂質土で，その他の部分は灰オリーブ色（5Y4/2）粘質土であった。SP108の周辺では，土師質土器の小皿がまとまって出土しており，廃棄に伴う祭祀の可能性が考えられる。所属時期は特定できないが，出土遺物から18世紀後半から19世紀初頭以降と考えられる。

出土遺物（第24・25図）

SK117出土遺物が325～330，SP108出土遺物が331～339である。325は弥生土器の壺の口縁部である。326は土師質土器の羽釜で，内面は刷毛目調整で仕上げられている。327は三巴文軒丸瓦で，凹面には補足叩き締めの痕跡が認められる。328は断面が不規則な六角形で，紫灰色を呈する石製品である。小片であり，用途等は不明である。329～332は丸瓦で，凸面は縦方向のナデ調整によって仕上げている。凹面はいずれの狙い布目を残すが，329はコビキBが，332は補足叩き締めの痕跡が認められる。

333～337は土師質土器の小皿，338は杯である。小皿は，いずれも佐藤分類のA Ⅵ形式である。底部が残るものはすべて糸切りである。いずれもにぶい橙色を呈し，胎土も酷似している。339は土師質土器鉢である。外面は剥落が著しく，内面に板状工具による横方向のナデ調整が認められる。

図化できなかった遺物の中には，SK117から備前系陶器片，平瓦，SP108から肥前系陶器片，丸瓦片がある。

SK118（第26図）

調査区の南東隅部，検出高1.33mで確認した土坑である。SK103に切られている。陶器の鉢の底部が据えられており，便槽であったと考えられる。深度は0.13mで，埋土はオリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土（褐色砂粒・礫を含む）の単層である。所属時期は，出土遺物から18世紀後半以降と考えられる。

出土遺物（第26図）

340は土師質土器の小皿で糸切りである。341は京・信楽系陶器の碗である。342～344は肥前系磁器で，342は碗，343は小杯，344は上絵の香炉もしくは火入れである。345は土師質土器の鉢である。346は陶器の受底部で，底部の内外面には重ね焼きを示す砂目が残り，黒青で「モ止」の字が認められる。焼成時に割れた痕跡が認められ，失敗品を転用したものと考えられる。347－1～3は同一個体と考えられるもので，土師質土器の甕の一部と考えられる。緑色の施釉が認められる。348は青銅製の鍵状製品である。軸部は断面方形で，円形の穴が空けられている部分は楕円形の板状を呈する。

SX104（第27図）

調査区の東壁，検出高1.33mで確認した長軸2.6m，短軸0.65mの溝状を呈する遺構である。東側はさらに調査区外に延びる。深度は0.24mで，埋土は黄灰色（2.5Y5/1）砂礫混じりシルト質極細砂の単層である。所属時期は出土遺物から特定できない。

出土遺物（第27図）

349は備前系陶器の甕の底部と考えられる。図化できたものの他に土師質土器細片がある。

SX106（第27図）

調査区のほぼ中央部，検出高は1.33mで確認した長軸2.3m，短軸1.24mの三日月状を呈する遺構である。SP103・112に切られ，SP119を切っている。深度は0.23mで，埋土はオリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土である。所属時期は出土遺物から18世紀後半と考えられる。

出土遺物（第27図）

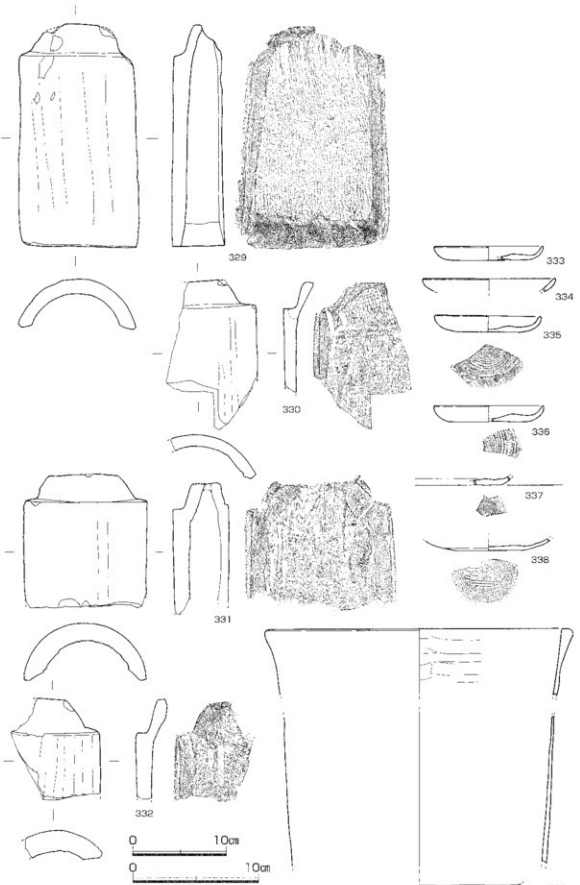
350は肥前系の陶胎染付の碗である。貫入が認められる。

SP101（第27図）

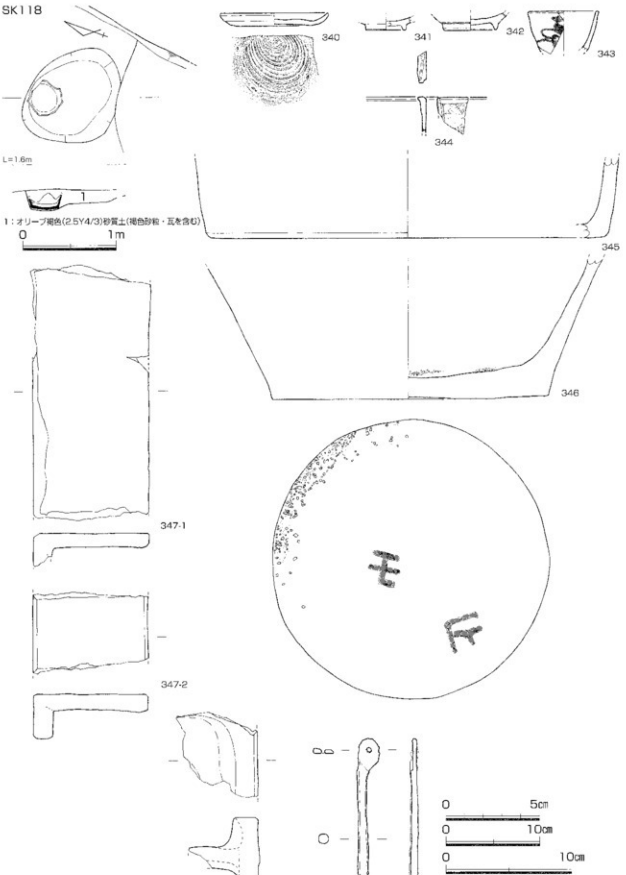
調査区北西部，検出高は1.29mで確認した長軸0.74m，0.6mのやや不整形のピットである。深度は0.15mで，埋土は上層からにぶい黄色（2.5Y6/3）シルト質極細砂，暗オリーブ褐色（2.5Y3/3）砂質土が互層になっており，その下に，オリーブ褐色（2.5Y4/3）砂質土，オリーブ黄色（5Y6/4）極細砂（層を含む）の順に薄く堆積している。所属時期は不明である。

SP111（第27図）

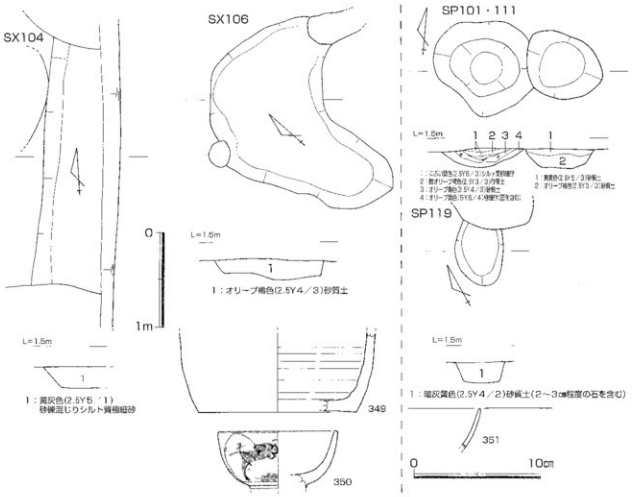
調査区北西部，検出高は1.29mで確認した長軸0.8m，短軸0.68mのやや不整形な楕円形のピットである。



第25図　SK117・SP108出土遺物（S＝1/3，1/4）



第26図　SK118平・断面図（S＝1/40），出土遺物（S＝1/2，1/3，1/4）



第27図　SX104・106・SP101・111・119平・断面図（S＝1/40），出土遺物（S＝1/3）

SP101を切っている。深度は0.19mで，埋土は2層に分層でき，上層が黄褐色（2.5Y5/3）砂質土，下層がオリーブ褐色（2.5Y3/3）砂質土である。

SP119（第27図）

調査区中央部，検出高は1.33mで確認した長軸0.6m，短軸0.5mの楕円形を呈するピットである。SX106に切られている。埋土は暗灰黄色（2.5Y4/2）砂質土（2～3cm程度の石を含む）の単層である。所属時期は出土遺物からは特定できない。

出土遺物（第27図）

351は磁器碗の口縁部片である。

第5節　第1遺構面下層の遺構・遺物

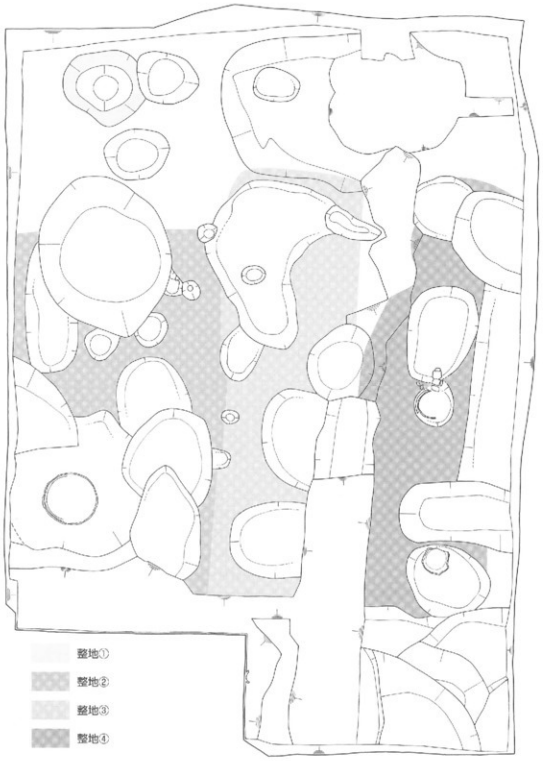
整地層について（第28・29図）

第1遺構面として認識した整地層は，第28図のように土質や色調および分布から詳細にみると，大きく4つに分類することができた。これをそれぞれ整地1～4と呼称することとした。ただし，整地3と4は基本的に上質および色調が同じで，分布域が分かれるだけであり，本来は同時期に造成されたものの可能性はある。今回の調査では別物として判断して，遺物の取り上げを行っている。色調および土質は，整地1がオリーブ黄色（5Y6/4）極細砂（墨を含む），整地2が浅黄色（2.5Y7/3）シルト質土，整地3と4が黄褐色（2.5Y5/4）土（丸・赤褐色砂粒，炭を含む）である。調査時は整地2と3の切り合い関係を確認したところ，整地3の後に，整地2が造成されたことが明らかとなった。いずれにしても，この第1遺構面として認識した整地層を撤去し，その下層の遺構の有無の確認を行った。その結果，第29図のように，整地3と4の下層から遺構を確認することができたので，調査を行った。確認できた遺構については，先述したようにSKb101のように表記している。整地の施工時期は，いずれも出土遺物から，18世紀前半～中頃の時期に収まるものと考えられる。

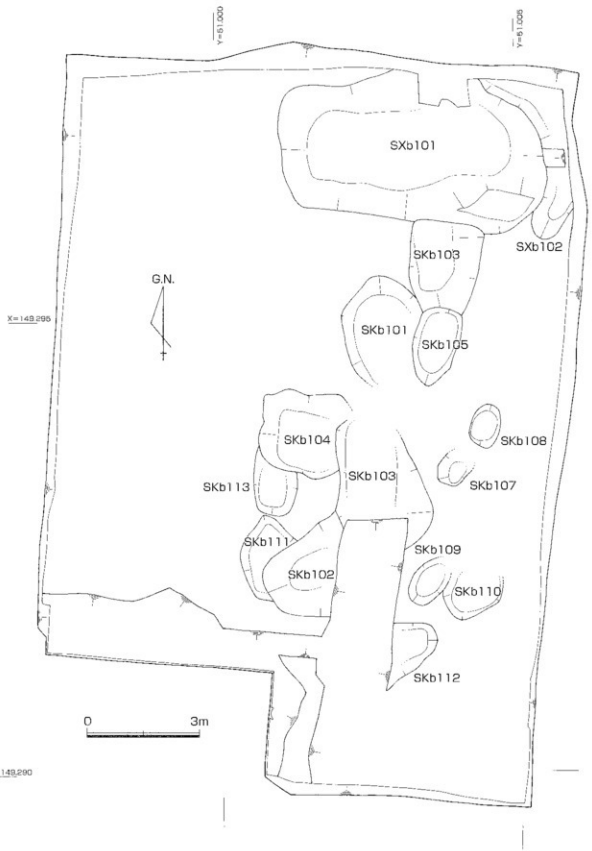
出土遺物

整地1（第30図）

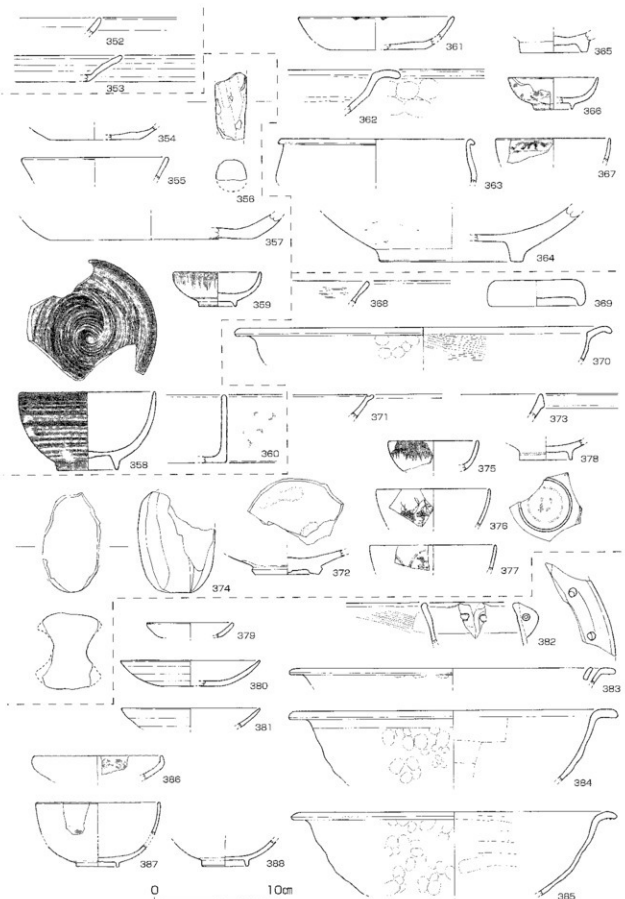
352・353が出土遺物である。352は土師質土器小皿で，



第28図　第１遺構面整地土分布状況（Ｓ＝1/50）



第29図　第１遺構面下層遺構配置図（S＝1/50）



第30図　整地層出土遺物（S＝1/3）

353は杯である。この他に，須恵器細片，瓦の細片が出土している。

整地２（第30図）

354～360が出土遺物である。354が土師質土器小皿で，355が丸器椀で，356が土師質土器の足釜脚部である。357は瓦質土器の底部である。358は肥前系陶器の刷毛目碗である。360は施釉陶器の上絵の彩釜である。359は肥前系磁器の紅猪口である。この他に小片のため図化できなかったものの中には京・信楽系陶器片，瓦片がある。

整地３（第30図）

361～367が出土遺物である。361は土師質土器杯で，LI緑都付近には煤が付着しており，灯明皿として使用されていたことが分かる。362は土師質土器の焙烙である。363・364は陶器で，363が壺，364は肥前系陶器の大型鉢で，外面は削りによって成形している。365～367は磁器で，365が中国産の碗，366・367が肥前系で，各々，紅猪口，碗である。この他に施釉陶器片，貝（アカニシ）が出土している。

整地４（第30図）

368～378が出土遺物である。368～370は土師質土器で368が椀，369は土師質土器の塩焼壺の蓋で内面に布目が認められる。370は焙烙である。374は土鍾である。371～372が肥前系陶器で，371が鉢，372が碗である。高台は削り出しで，内面見込み部には目跡が認められる。373は中国産白磁碗で，Ⅳ類である。375～378は肥前系磁器で，375は雨降り文を施す紅猪口，376～378は碗である。378は高台に「大明年製」と記されている。この他に瓦の細片が出土している。

整地層除去に伴って出土したその他の遺物（第30・31図）

379～401は整地層を除去する際に，SE101周辺について一定程度掘り下げた際に出土した遺物である。379は土師質土器小皿で，380～381は土師質土器杯である。380は内外面の全面が煤けている。382は土師質土器の羽釜で，耳の部分が残る。383～385は焙烙である。いずれも外面は指押さえが顕著に認められ，内面は丁寧にナデ調整で仕上げている。386～388は京・信楽系で，386は平碗，387・388は丸碗である。389は青磁碗である。390は堺・明石系陶器の擂鉢である。391・392は肥前系陶器で，前者が刷毛目文を施す大型の鉢，後者は小型の鉢で，表面には化粧土が認められる。393～401は肥前系磁器である。393・394は紅猪口，395・396が丸碗，397・398は小杯，399は火入れ，400は鬢盥，401は皿である。398・401の高台には「大明年製」の銘款がある。

SKb101（第31図）

調査区の中央部やや東側，検出高は1.2mで確認した長軸1.41m，短軸1.06mの楕円形を呈する土坑である。上層の遺構によって南側の一部が削平されている。深度は0.46mで，埋土は３層に分層でき，第１層が黄灰色（2.5Y4/1）粘質土（瓦を少量に含む），第２層が暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土（瓦を多量に含む），第３層が灰黄褐色（2.5Y7/4）浅黄色・シルト質粘質土，第４層がにぶい黄褐色（2.5Y6/3）砂質土（瓦少ない）である。第１・２層は多量の瓦を含んでおり，不要になった瓦の廃棄土坑と考えられる。所属時期は出土遺物から18世紀半ば以降と考えられる。

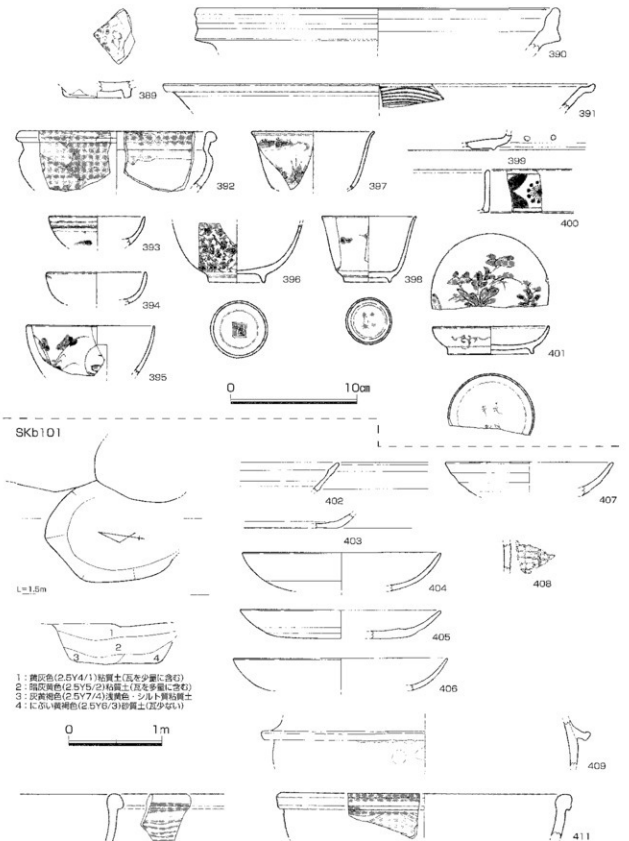
出土遺物（第31～36図）

102～407は土師質土器の杯で，佐藤分類のⅩⅡ形式に該当するものと考えられる。408は土師質土器の足釜の体部片で，外面は格子目叩き，内面はナデ調整で仕上げている。409は土師質土器の足釜で佐藤分類のＢⅢである。410・411は肥前系陶器の刷毛目文様を施す鉢である。412・413は備前系の擂鉢で，414は壺の体部である。415は磁器碗である。416～421は三巴文軒丸瓦で佐藤分類のⅣ類である。418の凸面には刷毛目状の調整痕跡が認められる。418～420は釘穴をもつ。422～424が軒平瓦である。422は宝珠文を中心飾りにもつもので，陽刻線で輪郭を表し，その内部にレリーフ状の宝珠本体をあしらう。唐草は中心飾りの側面から２転する。佐藤分類のＸＸ類の104に該当する。423は陽刻線による四葉の花弁をもつ花文を中心飾りとし，唐草を蕨手状に展開させるもので，佐藤分類の亜類の29である。424は破片であるが，唐草の状況から佐藤分類のⅩⅣ類の49に該当する。425～435が丸瓦である。427は行基式で，その他は玉縁式である。425の凸面は粗い刷毛調整後，ナデ調整を施している。多くの凸面は縦方向のナデもしくは磨き調整を施している。凹面にコビキＢが認められるものが425・426・427・429・430・433で，狭い布目が残るものが426・428・432・434・435である。いずれの凹面も広端部および側端部にヘラ削りを施す。432には釘穴が認められる。436～438が平瓦である。凹凸面ともにナデ調整によって仕上げている。

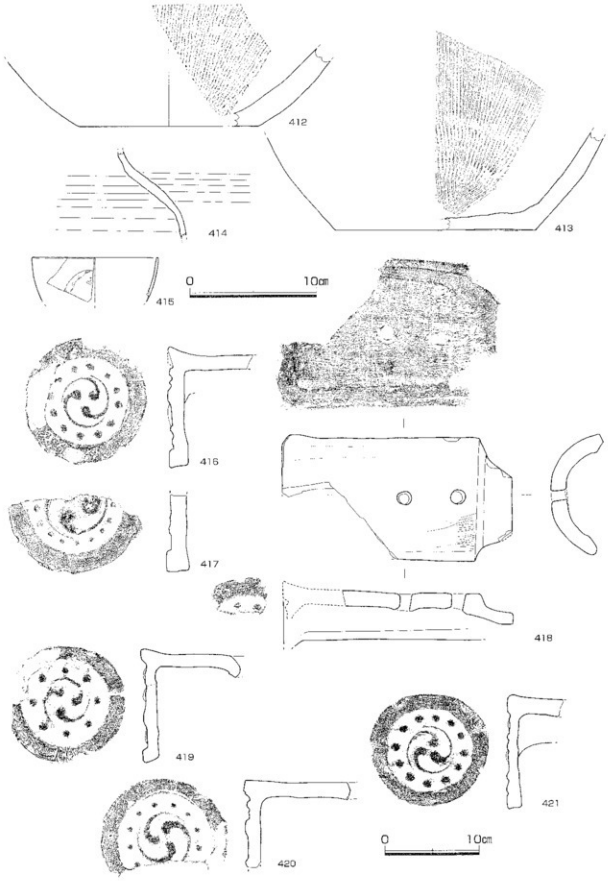
図化できなかったものの中には肥前系磁器片がある。

SKb102（第36図）

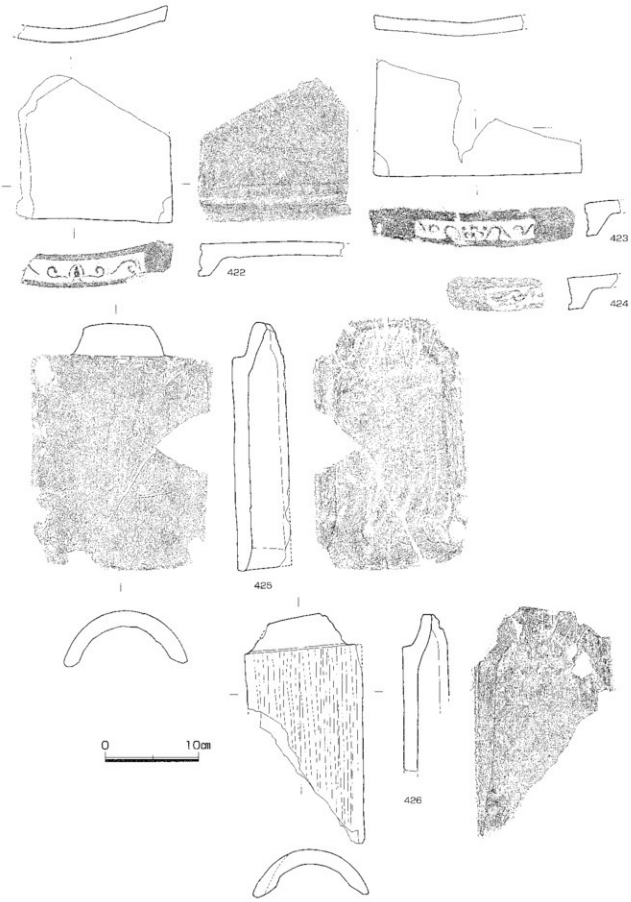
調査区の中央部の南側，検出高は1.4mで確認した長軸1.38m，短軸0.97mの楕円形を呈すると考えられる土坑である。SKb103，試掘トレンチによって大部分が削平されている。深度は0.6mで，埋土は大きく４層に分層でき，第１層が暗灰黄色（2.5Y5/2）粘質土（炭・砂礫を含む），第２層が暗灰黄色（2.5Y4/2）粘質土（炭・赤褐色砂粒を含む），第３層が灰黄褐色（10YR4/2）砂質土（遺物・赤褐色砂粒を多量に含む），第４層が灰黄褐色（10YR4/2）砂質土である。所属時期は18世紀中頃以降である。



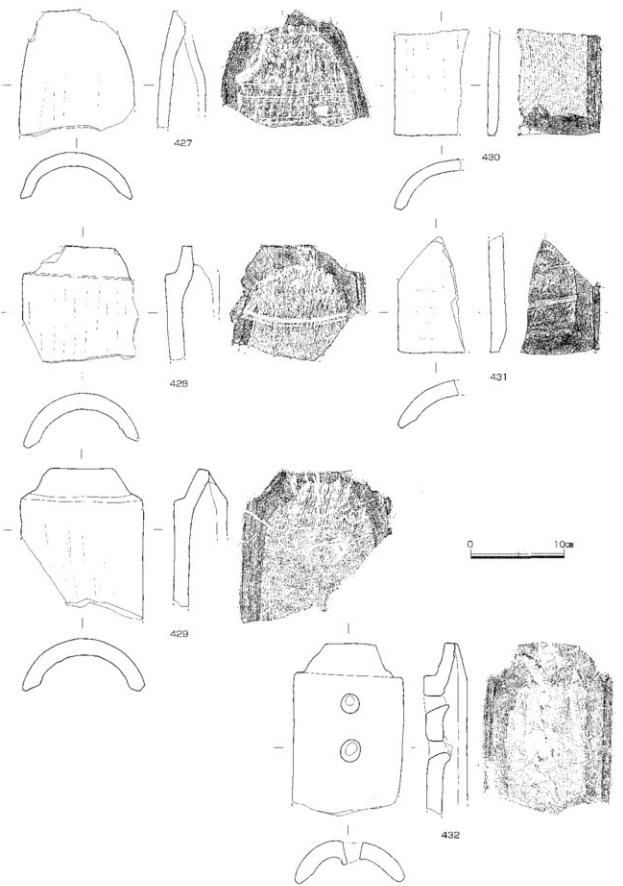
第31図　SKb101平・断面図（S＝1/40），整地層・SKb101出土遺物①（S＝1/3）



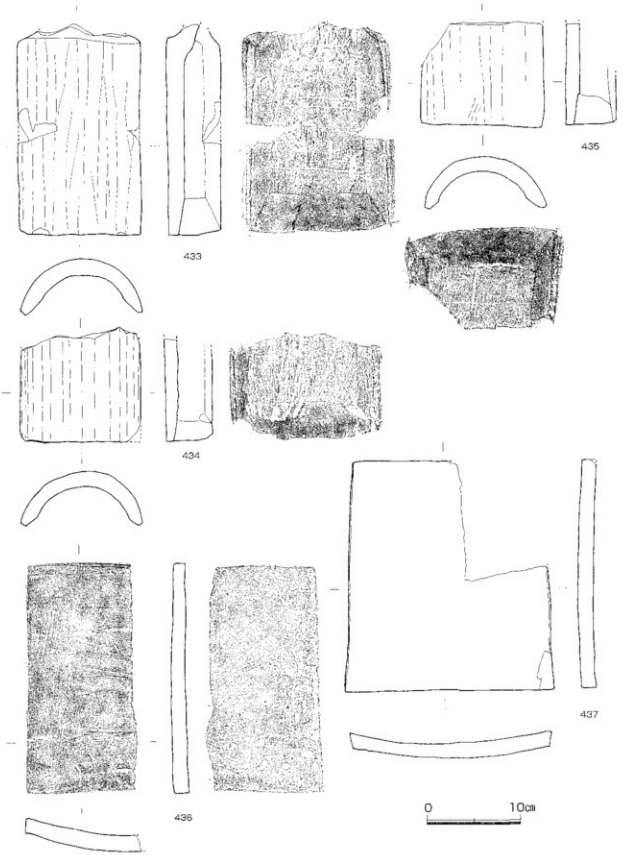
第32図　SKb101出土遺物②（S＝1/3，1/4）



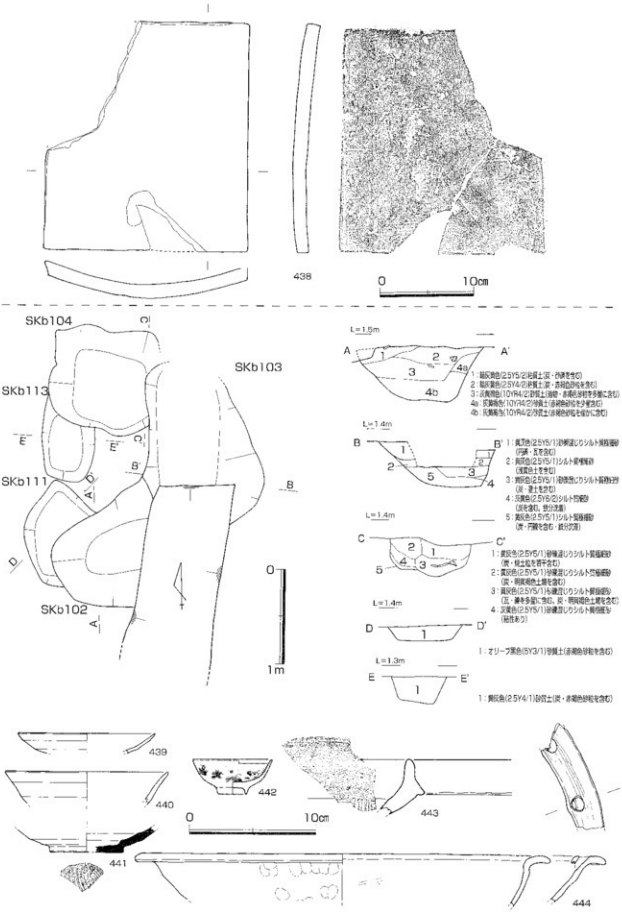
第33図　SKb101出土遺物③（S＝1/4）



第34図　SKb101出土遺物④（S＝1/4）



第35図　SKb101出土遺物⑤（S＝1/4）



第36図　SKb102・104・111・113平・断面図（S＝1/40），SKb101・102出土遺物①（S＝1/3，1/4）

出土遺物（第36・37図）

439は土師質土器の小皿，440は杯である。441は須恵器椀で，底部には板状圧痕が認められる。442は肥前系磁器の紅猪口である。443は備前系陶器の擂鉢である。444は土師質土器の焙烙である。445・446は丸瓦である。445の凹面には布目，446の凹面にはコビキBが認められる。凸面は縦方向の磨きおよびナデ調整で仕上げている。

このほかに，遺構とは判断できなかったが，SKb102と104との間の整地層からまとまって遺物がまとまって出土したため，ここで合わせて報告しておく。

447～449が土師質土器杯で，449の口縁部には煤が付着しており，灯明皿として使用されていたと考えられる。450は土師質土器足釜の脚部である。451～453は陶器碗で，451は京・信楽系で，上絵で花文を施す。453は肥前系の刷毛目碗である。454～457は肥前系磁器である。454・455は紅猪口，456・457は碗である。458は型押しの人形である。459は三巴文軒丸瓦で，佐藤分類のⅣ類である。460・461は丸瓦で，いずれも凹面にコビキBが認められる。460は釘穴が2箇所に認められる。462は石製の鞴もしくは硯転と考えられるもので，炭の付着が認められる。図化できたものの他に瓦質土器の細片，平瓦が出土している。

SKb104（第36図）

調査区の中央部．検出高は1.24mで確認した一辺約1.1mの隅丸方形状の土坑で，SKb103に切られ，上層の遺構によって削平されている。深度は0.47mで，埋土は5層に分層でき，第1層が黄灰色（2.5Y5/1）砂礫混じりシルト質極細砂（炭・焼土粒を若干含む），第2層が黄灰色（2.5Y5/1）砂礫混じりシルト質極細砂（炭・明黄褐色土塊を含む），第3層が黄灰色（2.5Y5/1）砂礫混じりシルト質極細砂（瓦・礫を多量に含む。炭・明黄褐色土塊を含む），第4層が灰黄色（2.5Y5/1）砂礫混じりシルト質極細砂（粘性あり）である。所属時期は出土遺物から18世紀前半と考えられる。

出土遺物（第38・39図）

463～485は土師質土器で，463～477は小皿でほとんどが佐藤分類のAⅦ形式である。479～483は杯，484・485は焙烙である。小皿・杯の底部の残っているものは，いずれも糸切りである。478・486～487は陶器で，486は肥前系の端反皿。478・487は備前系で前者が灯明皿，後者が鉢底部と考えられる。488～506は肥前系磁器である。488～493が紅猪口，494～502が小杯もしくは碗，503は仏飯器，504・506が皿，505は鉢である。502の高台には「福」，505の高台には「大明成□　□製」の銘款がある。507は京・信楽系陶器の小型の盃状を呈するものである。508は折れ曲がっているが，鉄釘である。509は三巴文軒丸瓦で佐藤分類Ⅳ類である。510は丸瓦である。509・510ともに丸瓦部に釘穴が2つある。511は平瓦で，凹面には横方向のナデ調整が顕著に認められる。この他に備前系陶器瓶・甕，鉄釘がある。

SKb103（第36図）

調査区の中央部やや南東寄り．検出高は1.27mで確認した長軸1.4m，短軸1.25mの土坑である。土壙の遺構および試掘トレンチによって南北双方が削平されている。遺構の上面はSX105によって削平されており，堆積の本来の状況が不明瞭であるが，現状の深度は0.47mである。残存部分から埋土は5層に分層でき，第1層が黄灰色（2.5Y5/1）砂礫混じりシルト質極細砂（円礫・瓦を含む），第2層が黄灰色（2.5Y5/1）シルト質極細砂（浅黄色土を含む），第3層が黄灰色（2.5Y5/1）砂礫混じりシルト質極細砂（炭・壁土を含む），第4層が灰黄色（2.5Y6/2）シルト質細砂（炭を含む。鉄分沈着），第5層が黄灰色（2.5Y5/1）シルト質極細砂（炭・円礫を含む・鉄分沈着）である。

小片のため図化できなかったが，土師質土器鍋，平瓦が出土した。

SKb111（第36図）

調査区の中央部南側．検出高は1.24mで確認した長軸1.12m，短軸0.75mのやや不整形な楕円形を呈する土坑である。SKb102によって切られている。深度は0.17mで，埋土はオリーブ黒色（5Y3/1）砂質土（赤褐色砂粒を含む）の単層である。所属時期は出土遺物からは特定できないが，他の遺構より少なくとも18世紀前半以降と考えられる。

出土遺物（第39図）

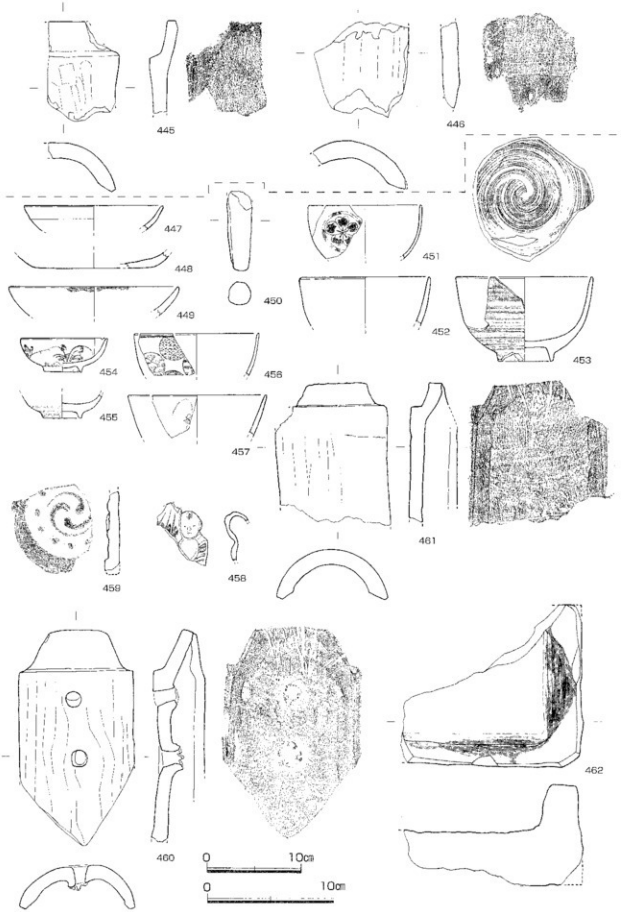
512は土師質土器足釜で佐藤分類のBⅣである。513は京焼の陶器碗で，高台部には「清水」という刻印が認められる。この他に瓦の細片が出土した。

SKb113（第36図）

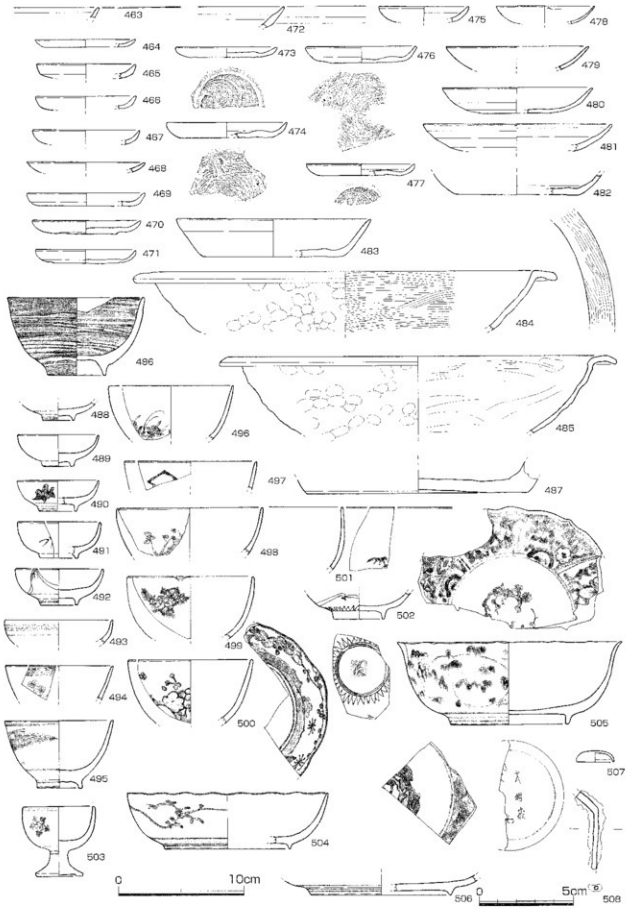
調査区の中央部やや南側．検出高は1.18mで確認した隅丸方形を呈する土坑である。SKb104によって切られている。深度は0.29mで，埋土は黄灰色（2.5Y4/1）砂質土（炭・赤褐色砂粒を含む）の単層である。所属時期は，出土遺物から18世紀前半と考えられる。

出土遺物（第39・40図）

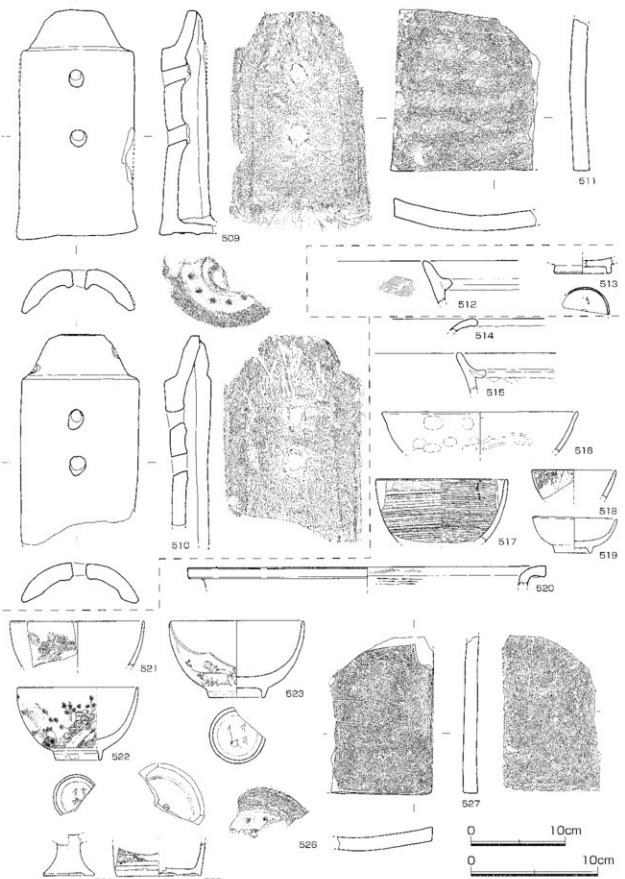
514・515・520は土師質土器で，514・520が焙烙，515が足釜で，佐藤分類のBⅢである。516は瓦器碗である。517は肥前系陶器の刷毛目碗である。518・519・521～525が肥前系磁器である。518・519は紅猪口，521～523は丸碗，524は台底輪高台の仏飯器，525は蛇ノ目凹型高台の蕎麦猪口である。522・523の高台にはいずれも「大



第37図　SKb102出土遺物②（S＝1/3, 1/4）



第38図　SKb104出土遺物（S＝1/2，1/3）



第39図　SKb104・111・113出土遺物（S＝1/3, 1/4）

明年製」の崩れた銘款が認められる。526は三巴文軒丸瓦で，佐藤分類のⅣ類である。527は平瓦で凹面は横方向，凸面は縦方向のナデ調整が顕著に認められる。528は丸瓦である。529は鉄釘である。530は青銅製の用途不明品である。袋状になった先端部には小さな穴があいている。この他に貝が出土している。

SKb106（第40図）

調査区の北東部，検出高は1.3mで確認した長軸1.22m，短軸0.91mの隅丸方形を呈する土坑である。SXb101，SKb105に切られている。深度は0.51mで，埋土は黒褐色（7.5YR3/1）砂質土（赤褐色砂粒を少量含む）の単層である。所属時期は出土遺物から17世紀初頭以降と考えられる。

出土遺物（第40図）

531・532は土師質土器で，531が足釜の脚部，532が椀である。533は備前系陶器の大甕の口縁部である。534は丸瓦で凹面にはコビキBが認められる。535は台石と考えられる石製品である。この他に瓦器細片，平瓦，鉄製品がある。

SKb108（第40図）

調査区の中央部東側，検出高は1.25mで確認した長軸0.58m，短軸0.44mの楕円形を呈する土坑である。埋土は暗灰黄褐色（2.5Y4/2）砂質土（やや粘性あり）である。所属時期は出土遺物からは特定できない。

出土遺物（第40図）

536は軒平瓦の平瓦部である。瓦当顎部を接合するためのカキ目が凸面側に認められる。

SKb109（第41図）

調査区の南東部，検出高は1.28mで確認した長軸0.6m，短軸0.42mの楕円形の土坑である。上層の遺構によって一部を削平されている。深度は0.22mで，埋土は黒褐色（2.5Y3/1）砂質土である。所属時期は出土遺物から17世紀前半以降と考えられる。

出土遺物（第41図）

537・538は土師質土器の小皿もしくは杯である。539は中国産と考えられる磁器の皿である。540は肥前系陶器の京焼風の碗の体部と考えられる。この他に瓦の細片がある。

SKb112（第41図）

調査区の南東部，検出高は1.27mで確認した長軸0.9m，短軸0.6mの土坑である。試掘トレンチによって西側を削平されている。深度は0.27mで，埋土はオリーブ褐色（2.5Y4.2）砂質土の単層である。所属時期は出土遺物からは特定できない。

出土遺物

541は京・信楽系の陶器碗で，542は施釉陶器の鉢である。この他に土師質土器の細片が出土している。

SXb101（第41図）

調査区の北東部，検出高は1.29mで確認した長軸3.54m，短軸1.95mの隅丸方形状の遺構である。SKb106を切っており，後世の排水溝によって削平されている。深度は0.42mで，埋土は3層に分層でき，第1層が黒褐色（2.5Y3/1）砂質土，第2層が黒褐色（2.5Y3/1）砂質土（炭・赤褐色砂粒を僅かに含む），第3層が黄灰色（2.5Y4/1）砂質土（5～10cm程度の礫を含む）である。所属時期は出土遺物から17世紀中頃以降と考えられる。

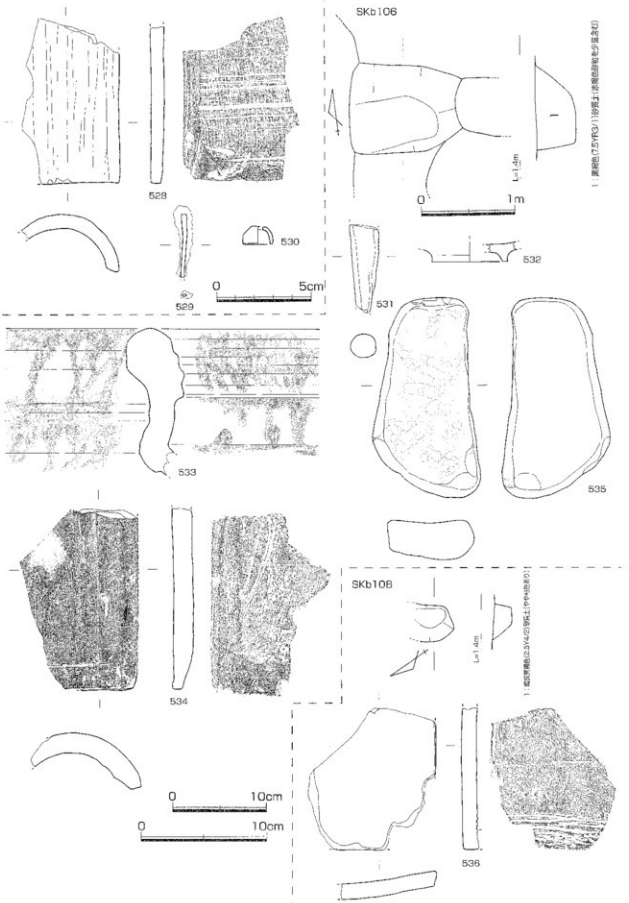
出土遺物（第41図）

543は弥生土器の甕と考えられる。544～546は土師質土器で，544が甕の口縁部，545が椀，546が足釜脚部である。547は須恵器壺の口縁部と考えられる。548・549は肥前系陶器で溝縁皿である。550～552が肥前系磁器の碗で，553は中国産の磁器碗である。554は平瓦である。凹面は横方向，凸面は縦方向のナデ調整を施す。555は鉄釘である。この他に骨片が出土している。

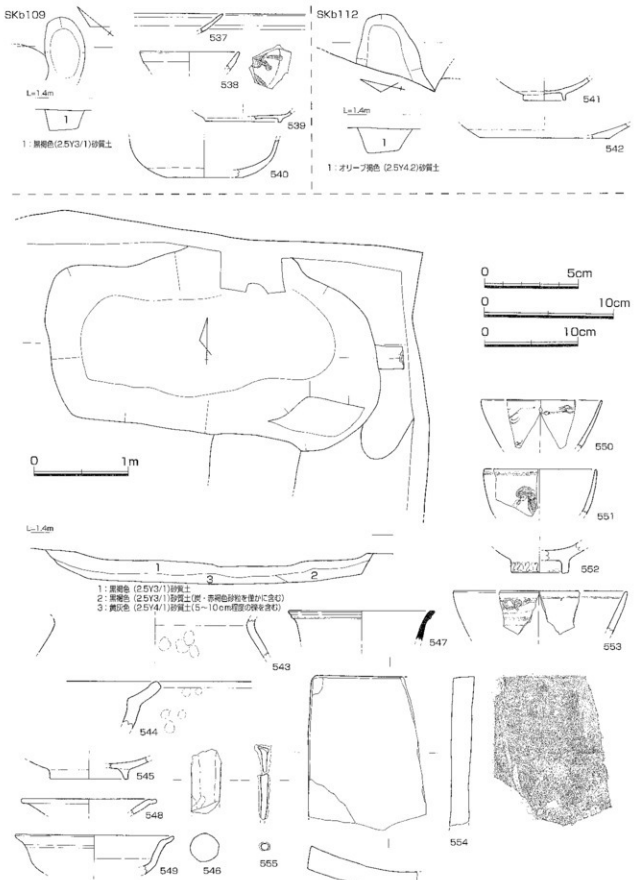
その他の遺物（第42・43図）

第1遺構面の調査に伴って出土したものが556～564である。556は土師質土器の羽釜で，外面はナデ調整もしくは指押えで整形・仕上げを行い，内面は細かい刷毛目調整で仕上げを行っている。胎土の状況から粘土紐の積み上げ成形であることが明らかとなった。557は瓦器椀で，外面は指おさえ，ナデ調整で整形および仕上げを行い，内面は磨き調整を行っている。558・559，561～563は肥前系磁器で，558が蓋，559が皿，561・562が紅猪口，563が碗である。560は京・信楽系陶器の鬢盥で，外面には菊花文を施す。564は三巴文軒丸瓦で佐藤分類のⅣ類である。玉縁部付近に釘穴があけられている。

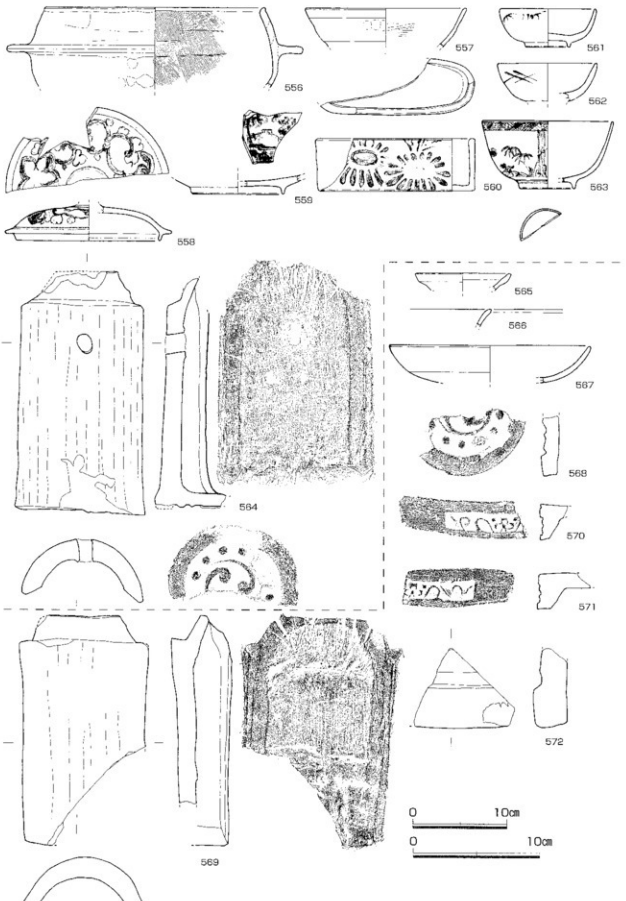
565～574は第1遺構面下層に伴って出土したものである。565は土師質土器小皿，567が土師質土器杯である。566は磁器で端反碗の口縁部と考えられる。568は三巴文軒丸瓦で佐藤分類のⅣ類である。570・571は中心飾りを四葉の化弁をもつ花文を陽刻線で表現するもので，唐草は中心飾りの下から3点する。佐藤分類の冒類-29に該当する。569・573・574は丸瓦で，凸面は縦方向のナデ調整で仕上げられており，内面には布目もしくはコビキBの痕跡が残る。574は，斜方向に瓦当状のものがつくものである。572は用途不明の瓦である。



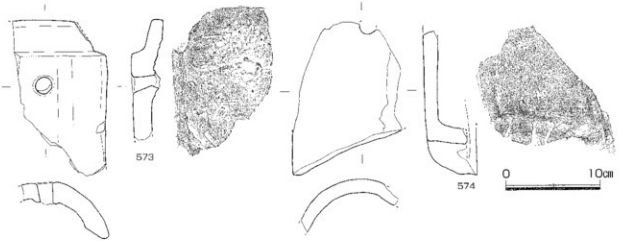
第40図　SKb106・108平・断面図（S＝1/40），SKb106・108・113出土遺物（S＝1/2，1/3，1/4）



第41図　SKb109・112・SXb101平・断面図（S＝1/40），出土遺物（S＝1/2，1/3，1/4）



第42図　第１遺構面調査時出土遺物①（S＝1/3，1/4）



第43図　第１遺構面調査時出土遺物②（S＝1/4）

第3章　ま　と　め

昨年度報告した調査成果（小川編2008）とも合わせて，遺構配置図を作成したものが第44図である。ただし，昨年度報告した遺構図に付与していた座標に誤りがあったため，この第44図で訂正している。

第１節　中世以前と近世初期＝第２遺構面

今回の調査でも，第２遺構面において，中世以前と考えられる遺構が複数確認できたものの，昨年度の調査同様，出土遺物が少なく，遺構の時期を特定することができないものがほとんどであった。また，遺物が出土したものでも，遺構の時期を特定できたものは少なく，明確な時期比定のもと，調査地の土地利用状況について検討するには，やや資料が乏しい状況である。そのため，全体的な遺跡の様相としては昨年度で述べた見解と変化がなく，弥生時代後期以降，砂堆状に集落などの居住空間が展開していたことは明らかである。その一方で，第２遺構面では近世の遺構面もしくは近世初頭に掘り込まれた遺構がいくつか認められ，特にSK216のように17世紀初頭に位置づけられている瓦が多数出土し，近世初期に近隣に瓦葺きの建物の存在を示唆する廃棄土坑なども確認できた。第１遺構面調査時にも同様な時期に比定できる瓦が多数出土している。屋敷の状況などを今回の調査成果では読み取ることはできないが，これらの瓦の資料は小川氏によって既に整理されているように（小川編2008），生駒期から松平期初期の武家屋敷の存在を示す資料と言える。

第２節　近世初期以降

第１遺構面の下層遺構は17世紀代～18世紀中頃にかけてのものが主体を占め，第１遺構面の基盤層となった整地土は18世紀前半段階に造成されたことが推測される。これが享保３年（1718）の高松大火に関連する可能性があるが，特定する根拠に欠ける。また，高松大火後に，調査地北側の道を南へ５間拡張したことが「小神野夜話」の記述から知られているが，本調査区ではそれを示す痕跡を見出すことはできなかった。ただし，19世紀前半段階と考えられる第１遺構面上層には，調査区の北側約1/4の範囲に渡ってオリーブ黄色極細砂と灰色シルトによって整地された範囲が確認された。この整地は建物に伴う可能性もあるが，北接する中堀に沿った道がこの段階に拡張された可能性を想定させるものでもある。

第１遺構面では，18世紀後半から19世紀に比定できる井戸（SE101），トイレ遺構（SP108・SK117，SK118）などの生活に関連する遺構が認められた。これらの遺構を時期別に塗り分けたのが第44図である。これを見ると18世紀後半から19世紀初頭にかけての遺構が集中し，昨年度の調査区，今年度の調査区の南側に19世紀中頃～後半の遺構が集中することが明らかとなった。当該地は，高松城下を描いた絵図などによれば，18世紀代には「御用屋敷」もしくは「前ヤシキ」という記載が見られ，19世紀代には「江戸長屋」という記載が見られ，呼称が変化していることがわかる。このことは当該地の建物の性格の変化や建物の建替えなどが背景にある可能性が考えられる。この点を先の遺構の変遷と関連付けて考えるならば，このような建物の呼称／性格の変化と遺構の変遷が概ね対応していることが分かる。

以上のような点が調査成果として挙げることができるものの，明治15年に太鼓橋から外曲輪に向かって撮影されたと考えられる写真（ケンブリッジ大学所蔵）と確認した遺構との関係は特定できなかった。

第44図　江戸長屋跡調査区遺構配置図（S＝1/150）

引用文献・主要参考文献

・大嶋和則 2007「高松城跡の発掘成果から」『港町の原像―中世港町・野原と讃岐の港町―』四国村落遺跡研究会

・小川賢・片桐節子編 2004『高松城跡（松平大膳家上屋敷跡）』新ヨンデンビル別館建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高松市教育委員会

・小川賢編 2008『高松城跡（江戸長屋跡Ⅰ）』高松市教育委員会

・小野正敏 1982「15、16世紀の染付碗、皿の分類とその年代」『貿易陶磁研究No.2』日本貿易陶磁研究会

・大橋康二 2000『九州陶磁の編年　九州近世陶磁学会10周年記念』九州近世陶磁学会

・佐藤竜馬 1993「香川県十駄山窯跡群における須恵器編年」『関西大学考古学研究室開設四十周年記念考古学論叢』関西大学考古学研究室

・佐藤竜馬 2000「『西村堰土器椀』の系譜」『香川県埋蔵文化財センター紀要』Ⅷ　香川県埋蔵文化財センター

・佐藤竜馬編 1995『国分寺楠井遺跡』香川県教育委員会

・佐藤竜馬編 2000『空港跡地遺跡Ⅳ』香川県教育委員会

・佐藤竜馬編 2003『高松城跡（西の丸町地区）Ⅱ』香川県教育委員会

・白神典之1992：「堺擂鉢考」『東洋陶磁　第19号』

・中西克也編 2005『高松城跡（無量寿院跡）』高松市教育委員会

・乗岡実 2002『岡山城三之曲輪跡―表町―』『目地区再開発ビル建設に伴う発掘調査―』岡山市教育委員会

・松本和彦編 2003a『高松城跡（西の丸地区）Ⅲ』香川県教育委員会

・松本和彦編 2003b『高松城跡（丸の内地区）』香川県教育委員会

・松本和彦 2007a「中世野原の景観～前提としての地形復元～」『『シンポジウム　港町の原像』準備会会報』四国村落遺跡研究会事務局

・松本和彦 2007b「野原の景観と地域構造―発掘調査成果を中心に―」『港町の原像―中世港町・野原と讃岐の港町―』四国村落遺跡研究会

・森村健一 2002『福建省漳州窯系陶磁器について』『大坂城跡発掘調査報告Ⅰ』（財）大阪府文化財センター

・山本信夫 2000『大宰府条坊跡』ＸⅤ―陶磁器分類編―太宰府市教育委員会

出土瓦観察表

（ ）内の数値は復元値を表す

図版番号	法量（cm） 種類	全長	幅	厚さ	焼成	胎土	色調	調整
3	軒平			1.7	良好	1mm以下の石英・長石含む	灰N5/	凹：ナデ　凸：ナデ
4	平	18.8+	24.1	1.4	良好	密　2mm以下の石英・長石を含む	暗灰N3/	凹：ナデ　凸：ヨコ方向のナデ、タテ方向のナデ
6	軒丸			2.4	良	やや粗　1mm以下の石英・長石を含む	橙7.5YR 7/6	凹：ナデ　凸：ナデ
24	軒丸			2.0	良好	密　1mm以下の石英・長石を含む	暗灰N3/	凹：ヨコナデ　凸：タテヘラ削り
25	軒丸			1.5	良好	密　1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	凹：ナデ　凸：ナデ
26	軒丸				良	やや粗　1~2mm以下の石英・長石を含む	暗灰N3/	凹：布目　ナデ　凸：タテ方向のナデ
27	軒丸			2.0	良	やや密　1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	にぶい黄橙10YR7/3	瓦当裏：ナデ　瓦当：はなれ砂
28	軒平			1.4	良好	密　1mm以下の石英・長石を含む	灰白N7/	凹：ナデ　凸：ナデ
29	軒平			1.9	良	密　1mm以下の石英・長石を含む	黄灰2.5Y4/1	凹：ナデ　凸：ナデ
30	軒平			1.5	良	やや粗　1~2mm以下の石英・長石を含む	灰白2.5Y7/1	凹：ナデ　凸：タテ方向のナデ
31	丸	10.2+	7.8+	2.0	良好	密　1mm以下の石英・長石を含む	灰黄2.5Y7/2	凹：布目　凸：ナデ
32	丸			2.4	良好	密　1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	凹：布目　ヘラケズリ　凸：ナデ
33	平	16+	11.9+	2.0	良好	粗　1~4mm以下の石英・長石を含む	暗灰N3/	凹：ナデ　凸：ナデ
34	平	15.6+	9.8+	1.5	良好	密　1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR7/1	凹：布目
35	平	17.3+	12.0+	1.8	良好	密　1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	凹：糸切りナデ　凸：ナデ
36	平	18.9+	12.8+	1.9	良	密　1mm以下の石英・長石を含む	暗灰N3/	凹：ナデ　凸：ナデ
54	軒丸			2.1	良	密　1mm以下の石英・長石を含む	黄灰2.5Y4/1	凹：ナデ（コビキB）　凸：ナデ
55	道具瓦	18.5	14.9+	1.9	良	やや密	黄灰2.5Y6/1	凹：ナデ　凸：ナデ
56	丸	23.0	(12.5)	1.6	良	密　1mm以下の石英・長石を含む	灰白N7/	凹：ナデ　凸：布目　コビキB
57	丸	13.4	11.6	2.4	良好	密　1mm以下の石英・長石を含む	暗灰N3/	凹：布目　凸：ナデ
58	丸	18.4	9.9	1.7	良好	密　1mm以下の石英・長石を含む	灰N6/	凹：布目　凸：ナデ
59	丸	26.2	14.3	2.3	良	やや粗　1mm以下の石英・長石を含む	灰褐7.5YR5/2	凹：コビキB　凸：タテ方向のナデ
75	丸	9.1+	5.5+	2.0	良	粗　3mm以下の石英・長石を含む	灰2.5GY5/	凹：コビキB　凸：ヨコナデ
76	軒丸			2.0	良	やや粗　1~2mm以下の石英・長石を含む	表：灰N7/　裏：灰N6/	凹：ナデ　凸：ナデ
77	軒丸			2.0	良好	粗　1mm以下の石英・長石を含む	灰N4/	凹：ナデ　凸：ナデ
78	軒丸			2.0	良	やや粗　1mm以下の石英・長石を含む	青灰5PB4/1	凹：コビキB　ケズリ　凸：ナデ　釘穴
100	軒丸			1.8	良好	密　1mm以下の石英・長石を含む	暗灰N3/	凹：タテ方向のナデ　凸：ヨコ方向のナデ
101	軒平			1.5	良好	密　1mm以下の石英・長石を含む	灰N6/	凹：ナデ
102	道具瓦	11.8+	11.0+	1.4	良	やや粗　1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	凹：ナデ　凸：ナデ
132	軒丸			1.4	良	細	表：灰N6/　裏：暗灰N3/	
133	丸	21.9	12.0	1.6	良	細	暗灰N3/　灰白N7/	凹：ナデ　板ナデ　凸：ナデ　コビキB
134	丸	(11.7)	12.9	1.7	良	細	凹：灰N4/　凸：灰N6/	凸：布目
135	平	13.5+	20.4+	1.6	良	細　灰白N8/0　1mm以下の砂粒を少量含む	暗灰N3/	凹：ナデ　面取り　凸：板状工具　ナデ
136	平	(21.5)	(14.1)	1.6	良	細　2mm以下の砂粒を含む	暗灰N3/	凹：ナデ　凸：板ナデ
140	道具瓦	7.8+	11.2+	2.9	良好	密　1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	凹：ナデ　凸：ナデ
153	軒丸			1.6	良	細	凹：灰N4/　凸：灰N6/	凹：板ナデ　凸：ナデ
154	軒丸			1.1	良	細	灰N4/	凹：板ナデ　凸：布目　指おさえ　ナデ
155	軒丸			1.15	良	細　白色の砂粒を含む	灰10Y6/1	凹：ナデ
156	丸	20.4	12.5	1.6	良好	やや粗　1mm以下の石英・長石を含む	黄橙7.5YR 7/8	凹：輪足叩き　凸：ナデ
201	軒丸			1.4	良	やや粗　砂粒僅かに含む	灰白N7/	凹：コビキB　凸：キウコ　板ナデ
202	軒丸			1.5	良	やや密　1mm以下の石英・長石を含む	灰白N7/	凹：ナデ
203	軒丸			1.7	良好	密	灰N6/	凹：ナデ
204	軒平			1.6	良	やや密　1mm以下の石英・長石を含む	灰白N6/	凹：ナデ　凸：ナデ
205	平	17.5	16.2	1.6	良	粗　1~2mm以下の石英・長石・角閃石を含む	灰N4/	凹：ナデ　凸：粗いナデ
217	軒丸			1.5	良好	やや密　1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	凹：ナデ　凸：ナデ
218	軒平			1.5	良	やや粗　砂礫を含む	灰N5/	凹：ナデ　凸：ヨコナデ
231	道具瓦	(13.2)	(6.0)	2.0	良	細	外：N4/　内：灰N7/	
256	軒丸			1.8	良	密　砂粒を含む	灰N4/	凹：コビキB　凸：ナデ　釘穴
257	軒平			1.4	良	やや密　1mm以下の石英・長石を含む	黄灰2.5Y6/1	凸：ヨコナデ　ケズリ
258	軒平			1.4	良	やや粗　1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	褐灰5YR4/1	凹：ナデ　凸：ナデ
265	軒丸			1.5	良	密　砂粒を多く含む	外：灰白N7/　内：灰N4/	凹：ナデ　板ナデ　凸：板ナデ　ナデ　布目
278	軒丸			1.35	良	細	外：灰N7/　内：灰白5Y7/1	凹：回転ナデ
279	軒丸			2.0	良	細	外：暗灰N3/　内：灰白7.5Y7/1　灰N5/	凹：板ナデ　凸：糸切り　ナデ
280	軒丸			1.6	良	細　1cm以下の砂粒を含む	灰白2.5Y7/1	凹：回転ナデ
281	軒丸			1.7	良	細　白色の砂粒を含む	灰N5/	
282	軒丸			1.5	良	細　赤色粒少量含む	灰N4/	凹：板ナデ　凸：ナデ　板ナデ
283	軒丸			1.7	良	細	灰N5/	凹：ナデ
284	軒丸			1.1	良	細	表：灰N4/　裏：灰白N7/	凸：板ケズリ
285	軒平			1.7	良	細	凹：灰黄2.5Y7/2　凸灰N4/	凹：板ナデ　凸：ナデ
286	軒平			1.8	良	細　茶褐色、白色の砂粒を含む	暗灰N3/　灰白5Y7/2	はなれ砂
287	軒平			1.7	良	細　赤色粒を含む	灰N6/　灰N5/	凹：ナデ　板ナデ　凸：ナデ
288	軒丸			1.2	良	細　1mm以下の砂粒少量含む	凹：灰白N7/　凸：暗灰N3/	凹：ナデ　板ナデ　凸：ナデ

報文番号	法量（cm）				焼成	胎土	色調	調整
	種類	全長	幅	厚さ				
289	軒平			2.1	良	緻 2mm以下の砂粒を含む	灰N5/	凹：縦方向のナデ 凸：ナデ
290	軒平			1.9	良好	緻 角閃石を含む	凹：灰白2.5Y7/1 凸：灰N5/	凹：ナデ 凸：ナデ
291	軒平			1.35	良	粗 白色の砂粒を含む	暗灰N3/	凹：ナデ 凸：ナデ
292	軒平			1.7	良	粗 結晶片岩を含む	凹：灰白10Y7/1 凸：灰N4/	凸：ナデ
293	丸	25.9	13.0	1.7	良	粗	灰N4/	凹：板ナデ 凸：コビキB ナデ
294	平	24.1	15.8+	1.7	不良	緻	にぶい橙7.5YR6/4	凹：板ナデ 凸：ナデ
295	平	26.3	22.3	1.8	良	緻	灰N4/	凹：ナデ 凸：板ナデ
308	軒丸			1.8	良	密 砂粒を含む	灰5Y5/1	凹：ナデ 凸：ナデ
319	軒丸			1.6	良	やや粗 1mm以下の砂粒を含む	褐灰7.5YR4/1	凹：指ナデ
324	軒丸			1.5	良	やや粗 1mm以下の石粒を含む	灰N4/	凹：ナデ 凸：ナデ
327	軒丸			1.6	良好	やや密 石英・長石を含む	灰N4/	凹：ナデ 凸：板ナデ
329	丸	23.3	22.7	1.5	良好	密	灰N4/	凹：布目 凸：ナデ
330	丸	15.8+	1.6+	1.2	良	密 砂礫を少し含む	黒10Y2/1	凹：布目 コビキB 凸：縦方向の板ナデ
331	丸	14.0+	13.1	1.8	良	粗 白色の砂粒を含む	暗灰N3/	凹：布目 凸：縦方向のナデ
332	丸	10.4+	9.5+	1.8	良	粗 黒色の砂粒を含む	灰N4/	凹：布目 凸：板ナデ [illegible]厚さ
416	軒丸			1.4	良	やや密 1mm以下の石粒を含む	灰N6/	凹：ナデ コビキB 凸：ナデ
417	軒丸			2.3	良	粗 1〜2mm以下の石英・長石・角閃石を含む	灰N3/	凹：ナデ 凸：ナデ
418	軒丸	24.5	13.4	1.7	良好	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	凹：布 コビキB 凸：ハケ ナデ
419	軒丸			1.7	良	密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	凹：ナデ
420	軒丸			1.7	良	粗 1〜2mm以下の石英・長石・角閃石を含む	灰N5/	凹：布目 凸：ナデ
421	軒丸			1.7	良好	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N7/	凸：ナデ
422	軒平			1.4	良	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白2.5Y8/2	凸：ナデ 粗い調整
423	軒平			1.4	良好	密 砂粒を含む	灰N5/	
424	軒平			1.4	良	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N4/	凹：ナデ 凸：ナデ
425	丸	26.3	13.2	1.7	良	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N6/	凹：コビキB 凸：粗いハケ ナデ
426	丸	24.3+	11.4	1.6	良好	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N4/	凹：布目 コビキB 凸：タテ方向のナデ
427	丸	12.5−	12.1−	1.4	良好	密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N4/	凹：コビキB 凸：ナデ
428	丸	12.3−	12.5−	1.6	良好	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	凹：布目 凸：ナデ
429	丸	14.5+	13.1	1.7	良	やや粗 1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	凹：コビキB 凸：ナデ
430	丸	11.1+	7.0+	1.2	良	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N6/	凹：ナデ 凸：縄目タタキ ナデ
431	丸	12.2+	7.0+	1.6	良好	密 砂粒を含む	暗灰N3/	凹：コビキB 凸：ナデ
432	丸	18.3+	11.9	1.7	良好	密 砂粒を含む	灰N4/	凹：布 コビキB 凸：横ナデ
433	丸	22.2+	13.1	1.8	良好	やや粗 1mm以下の石英・長石を含む	暗灰N3/	凹：コビキB 凸：ナデ
434	丸	1.7+		1.6	良	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N4/	凹：布目 凸：タテ方向のミガキ
435	丸	10.8+	13.0	1.6	良	密	灰N4/	凹：コビキB 凸：ナデ
436	平	24.2	22.3+	1.7	良	密 砂礫を含む	灰N6/	凸：ナデ
437	平	24.1	21.3	1.6	良	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	凹：ナデ 凸：ナデ
438	平	24.3	21.6	1.4	良	密	灰N5/	凸：ナデ
445	丸	10.5+	7.2+	1.6	良好	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N4/	凹：布目 凸：ナデ
446	丸	10.1+	10.3+	1.8	良好	密 砂粒を含む	暗灰N3/	凹：コビキB 凸：ナデ
459	軒丸			1.6	良	密	にぶい黄橙10YR7/3	凹：ナデ 凸：ナデ
460	丸	17.8+	12.3	1.4	良好	密 砂粒を含む	灰N5/	凸：板ナデ 釘穴
461	丸	14.6+	12.0	1.6	良	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N4/	凹：ナデ 凸：縄目タタキ ナデ
509	軒丸	24.3	12.9	1.6	良好	密 砂粒を含む	灰N4/	凹：コビキB 凸：板ナデ 釘穴
510	軒丸	20.1	12.5	1.7	良好	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	黄灰2.5Y5/1	凹：布目 コビキB 凸：縦ナデ
511	平	17.1+	15.9+	1.7	良好	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	凹：ナデ 凸：ナデ
526	軒丸				良	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白2.5Y8/[illegible]	凹：ナデ 凸：ナデ
527	平	16.6−	11.1−	1.4	良	密	灰Y5/	凹：ヨコ方向のナデ 凸：タテ方向の粗いナデ
528	丸	17.5−	10.3−	1.4	良好	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N4/	凹：コビキB 凸：ナデ
534	丸	19.1−	11.7−	2.2	良	やや密 1mm以下の砂粒を含む	灰N4/	凹：布目 コビキB 凸：ナデ
536	軒平			1.6	良	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N4/	凹：ナデ 凸：粗いナデ
554	平	16.1+	12.5+	2.2	良	やや密 砂粒を含む	暗灰N3/	凹：粗い縦方向のナデ 凸：横方向のナデ
564	軒丸	25.7	13.7	2.2	良	やや密 1〜2mm以下の石英・長石を含む	灰N3/	凹：布目 凸：ナデ
568	軒丸			1.6	良	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	外：ナデ 内：ナデ
569	丸	24.2	12.9	1.9	良	砂粒 1mm以下の白色の砂を含む	灰5Y6/1	外：布目 内：ナデ
570	軒平			1.8	密		N4/0灰	外：ナデ 内：ナデ
571	軒平			1.6	良	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰5Y5/1	凹：ナデ
572	その他	10.7+	8.4+	3.5	良	密	灰N5/	凹：ナデ 凸：ナデ
573	丸	16.5+	9.2+	2.0	良好	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N5/	凹：布目 凸：ナデ
574	丸	16.2+	11.7+	1.4	良	密	灰N6/	凹：コビキB 凸：ナデ

出土陶磁器・土器観察表

（ ）内の数値は復元値を表す

挿図番号	法量(cm) 口径	器高	底径	胎土	色調1（釉上）	色調2（施釉、絵柄）	調整
1	(10.1)	1.6+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR8/2		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
2		2.6+		密	灰白N8/	淡緑色5G 7/1	－
5	11.6	3.5+		密	灰白2.5Y8/2	灰白7.5Y8/1	－
7		2.5+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：橙5YR6/6 内：にぶい橙5YR6/4		外：ケズリ 内：ナデ
8		3.0+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい橙7.5YR6/4 内：にぶい橙7.5YR7/4		－
9	(10.5)	1.1	(5.8)	密 1mm以下の石英・長石を含む	外：灰白7.5YR8/2 内：浅黄橙7.5YR8/3		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
10	(6.4)	1.1	3.0	密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR8/2		外：ナデ 内：ナデ
11	(11.6)	2.4	8.4	密 1mm以下の石英・長石を含む	外：浅黄橙10YR8/3 内：にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
12	11.4	5.9	6.6	密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR8/2		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
13	(24.6)	14.4+		やや密 2mm以下の石英・長石・角閃石を含む	外：にぶい赤褐2.5YR5/3 内：にぶい橙2.5YR6/4		外：指おさえ ナデ 内：ナデ
14		3.1+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい橙7.5YR7/3 内：浅黄橙10YR8/3		外：ナデ 内：ハケ ナデ
15		2.0+		密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白7.5Y7/1		外：ナデ 内：ナデ
16		2.9+	(10.0)	密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N3/		外：ヨコナデ 内：板ナデ
17		1.25		密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N6/		外：ナデ 内：ナデ
18	(12.3)	2.2+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白7.5YR8/2		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
19		0.5+	(6.8)	密 1mm以下の石英・長石を含む	外：浅黄橙10YR8/4 内：にぶい橙7.5YR7/4		外：ヘラ切り ヨコナデ 内：ヨコナデ
20		1.5+	(5.6)	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙5YR6/4		外：糸切り ヨコナデ 内：ヨコナデ
21	(12.8)	3.4+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N3/		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
22	(21.0)	2.0+		密	にぶい橙5YR7/3	赤褐5YR5/6	－
23		1.5+	(4.8)	密 1mm以下の砂粒を含む	灰N6/0	緑	
37	11.5	3.9	4.5	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	橙2.5YR6/8		外：ナデ 内：ナデ
38	(9.2)	1.0		密	外：暗灰N3/1 内：灰N4/		外：ナデ 内：回転ナデ
39	(10.6)	2.3	7.2	密 赤褐色の砂粒を含む	外：にぶい橙7.5YR7/4 内：灰白10YR8/2		外：ナデ 内：ナデ
40		1.6+		密 1mm以下の石英・長石を含む	浅黄橙7.5YR8/3		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
41		1.1+		密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙5YR7/4		
42		3.2+		密 2mm以下の石英・長石を含む	にぶい黄橙10YR6/3		内：ナデ
43		8.8+		やや粗 赤色粒子・角閃石を含む	にぶい橙7.5YR6/4		外：ナデ 内：ナデ
44	(17.2)	6.9	(9.0)	密 1mm以下の石英・長石を含む	外：灰黄2.5Y7/2 内：灰白2.5Y8/1		外：ナデ 内：ナデ
45	(14.3)	3.0+		密 1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	外：にぶい橙2.5YR6/4 内：にぶい橙2.5YR6/3		外：ヨコナデ
46		1.0+		密	灰白10YR8/1		外：ナデ 内：ナデ
47	(16.8)	7.6+		やや密 1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	外：黒褐7.5YR3/1 内：灰褐7.5YR4/2		外：ナデ 指おさえ 内：板ナデ
48		2.6+		やや粗 2mm以下の石英・長石・[illegible]を含む	にぶい橙7.5YR7/3		外：回転ナデ 内：回転ナデ
49		13.0−		やや粗 1~2mm以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	外：橙5YR6/6 内：にぶい橙7.5YR6/3		内：ナデ 指おさえ
50	(9.2)	1.1	(6.8)	やや密	灰白10YR8/2		外：糸切り後ヘラおこし ナデ 内：ナデ
51		2.4+		密 1mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい橙5YR7/4 内：灰褐5YR7/2		外：ヨコナデ 内：ミガキ
52		2.7+		やや粗 1mm以下の石英・長石を含む	外：橙2.5YR7/6 内：橙2.5YR6/6		外：ナデ 内：ナデ ハケ
53		2.0+	(4.7)	密	灰白5Y7/1	オリーブ黄5Y6/3	
60	(20.6)	3.8+		やや粗 1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	にぶい赤褐2.5YR5/4		外：ハケメ 内：ハケメ ケズリ
61	(8.0)	4+		密 1mm以下の砂粒を含む	灰白10YR8/2		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
62	(8.7)	1.6+		やや密	外：浅黄橙10YR8/3 内：浅黄橙10YR8/?		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
63	(12.0)	1.8+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：灰白10YR8/2 内：浅黄橙7.5YR8/3		外：ナデ 内：ナデ
64	(13.6)	2.7	8.0	密	灰白2.5Y8/2		外：ナデ ヘラ切り 内：ナデ
65		0.5−	(7.0)	密 1mm以下の石英・長石を含む	外：浅黄橙10YR8/4 内：橙5YR7/6		外：ヨコナデ ヘラ切り 内：ナデ
66	(14.6)	3.6		密	橙2.5YR6/6		外：ナデ 内：ナデ
67		1.4−	5.6	やや粗 1~2mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい橙7.5YR7/4 内：浅黄橙7.5YR8/4		外：ナデ
68		1.0−	(7.0)	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR8/1		
69		1.4−	(7.4)	密 1mm以下の石英・長石を含む	外：灰白N8/ 内：明緑灰5GY6/1		外：ナデ 内：ナデ
70		3.7−		密 1mm以下の石英・長石を含む	灰N4/		外：格子目タタキ 内：板ナデ
71		2.5−		密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR8/2		外：ヘラミガキ ナデ 内：ナデ
72		1.5−		やや密 2mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい赤褐5YR5/4 内：にぶい橙7.5YR6/3		外：ナデ 指おさえ 内：ナデ
73		1.6	(1.5)	密 砂粒を含む	灰白	透明釉	－
74	(32.2)	6.7−		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：灰N4/ 内：灰N5/		外：ナデ 内：ナデ
79	(38.4)	6.5−		やや粗 1mm以下の石英・長石・金雲母を含む	にぶい橙7.5YR6/4		外：ナデ 内：ナデ
80		7.3−		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR8/1		外：ナデ 指おさえ 内：ハケ ナデ
81	(38.6)	8.7−		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR8/2		外：ナデ 指おさえ 格子目 タタキ 内：ナデ
82	(23.1)	8.8−		やや粗 1mm以下の石英・長石を含む	外：浅黄橙10YR8/3 内：にぶい黄橙10YR7/4		外：ナデ 指おさえ 内：ナデ 指おさえ
83	(20.0−)	3.1		やや密 1mm以下の石英・長石・金雲母を含む	にぶい黄橙10YR7/4		外：ナデ 内：ハケ 指おさえ
84		1.1		密 1mm以下の石英・長石を含む	外：灰白10YR8/2 内：浅黄橙10YR8/3		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
85		1.8−	5.2	密 1mm以下の石英・長石・茶褐色の砂粒を含む	外：灰白10YR8/2 内：灰白2.5Y8/2		－
86		1.9		やや粗 2mm以下の石英・長石・雲母を含む	外：黒褐10YR3/2 内：褐7.5YR4/3		外：ナデ 内：ハケ ナデ
87	(14.8)	1.1−		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR5/4		外：ナデ 手捏ね 内：ナデ
88	(12.6)	1.0−	(4.0)	密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：ナデ 内：ナデ
89	(6.8)	1.9	5.0	密 1mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい橙7.5YR7/4 内：橙5YR7/6		外：ナデ 内：ナデ
90		2.9−	(10.0)	密	外：浅黄橙7.5YR8/3 内：浅黄橙7.5YR8/4		外：ナデ 内：ナデ
91		2.3−		密	灰N5/		外：ナデ 内：ナデ
92		3.6−		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ 内：ナデ ハケ
93	3.4	8.5		やや粗 2mm以下の石英・長石を含む	にぶい黄橙10YR7/3		外：ナデ
94		3.7−		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい黄橙10YR7/3 内：浅黄橙7.5YR8/3		外：ナデ
95	(13.6)	3.0		密 1mm以下の石英・長石を含む	外：灰白5Y8/2 内：灰白2.5Y8/1		
96	(10.2)	2.7−		密	灰7.5Y6/1	外：灰N6/ 内：オリーブ黄5Y6/3	－
97		1.75−	(8.0)	密 1mm以下の石英・長石を含む	外：暗灰N3/ 内：灰5YR5/6		外：回転ナデ 内：回転ナデ
98	(32.6)	3.0−		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰黄2.5Y6/2		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
99		1.8−	(3.6)	密	灰白N8/	明緑灰10GY7/1 貫入	
103	(8.3)	1.5		緻	灰白N8/	透明 貫入 上絵：赤10R4/6	－
104		2.0−	(6.8)	緻	灰白N8/	透明 明青・淡青	－
105		2.6		緻	灰白N8/	透明	－
106		2.0−	(10.0)	緻	灰白5Y8/2	灰釉2.5Y5/6	－
107		8.4		粗 1mm程度の石英・長石・雲母・黒色砂粒を含む	外：橙7.5YR7/6 内：にぶい黄橙10YR7/4		外：ナデ 内：ナデ
108		15.3+		密 2mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR6/4		内：回転ヘラケズリ 回転ナデ 指おさえ
109	(7.4)	1.5		密	外：明赤褐2.5YR5/6 内：にぶい赤褐2.5YR4/4		外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ ナデ
110	(3.0)	6.0+		やや粗 0.5~1.5mm以下の石英・長石を含む	外：橙5YR6/6 内：明赤褐2.5YR5/8		外：ナデ 内：布目圧痕
111		0.7−	(3.6)	やや粗	外：灰5Y6/1 内：灰N6/		外：回転ナデ 内：ナデ
112		1.9−	(4.2)	緻		灰釉 貫入	－
113	(10.1)	3.8−		緻	灰5Y6/1	灰白5Y8/2	
114	(8.2)	2.6−		緻	赤10R4/6	透明 上絵：灰白2.5Y8/2	－
115	(10.6)	4.7	3.8	緻	褐灰5YR4/1	鉄釉	－
116				緻	橙5YR6/8		外：ナデ 内：ナデ
117		10.5−		やや粗 1mm以下の長石・角閃石・雲母を多く含む	外：橙5YR6/6 内：にぶい橙7.5YR6/4		内：ヨコハケ
118		4.7	(18.2)	緻 1mm以下の長石・石英を含む	外：浅黄橙10YR8/3 内：浅黄橙10YR8/4		
119	6.6	2.5	2.6	緻	灰白	透明	－
120		3.5	(3.0)	緻	灰白N8/	透明 明青・淡青	
121	(8.2)	2.9	(4.0)	緻	灰白N8/	透明 明青・淡青	－
122		2.3	4.2	緻	灰白N8/	透明 明青・淡青	
123		1.5	(3.4)	緻	灰白N8/	透明 明青・淡青	－
124	8.2	2.4	4.2	緻	灰白	透明 明青・淡青	－
125	(10.7)	3.5		緻	灰白N8/	透明 明青・淡青	－
126		3.4−		緻	灰白	透明 明青・淡青	－
127		1.5		緻	橙5YR6/6	透明	
128	(12.1)	2.1+		緻	灰白N8/	透明 明青・淡青	－
129		3.5		緻	灰白	透明 上絵：オリーブ黒5Y3/2 赤10R4/6 緑灰10GY6/1	
130	(8.4)	8.3	(9.0)	緻	灰白N8/	透明 貫入	－
131	23.0	2.4	5.4	密	白色	透明	
137	(8.0)	1.0	6.0	密 1mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい橙7.5YR7/4 内：にぶい黄橙10YR7/3		外：ナデ 内：ナデ
138		1.3+	(6.5)	密	浅黄橙10YR8/3 浅黄橙	浅黄橙10YR8/4	－
139		2.6	3.2	密	灰白N8/	半透明 青	－
141	10.3	1.7+		緻	外：にぶい橙7.5YR7/3 内：にぶい橙7.5YR7/4		外：回転ナデ 内：ナデ
142		1.2	(4.8)	緻 1mm程度の長石を含む	にぶい橙7.5YR6/4	透明	
143	(10.4)	4.4+		緻	にぶい橙7.5YR7/4	浅黄2.5Y8/4 鉄釉	－
144		6.2+		密 1mm以下の石英・長石を含む	橙2.5YR6/8		外：指おさえ
145	(6.4)	3.0	(2.7)	緻	灰白N8/	透明 明青・淡青	－
146	(23.7)	5.4+		密 1mm程度の長石を多く含む	外：黒褐5YR2/1 内：黒7.5Y2/1		内：ヨコナデ
147		6.9+	(9.0)	密 砂粒を含む	灰白	透明 明青・淡青	－
148	(14.6)	5.1	7.9	緻	灰白N8/	透明	
149	(22.1)	5.4+		密 0.5mm以下の砂粒を多く含む	オリーブ黒5Y3/1		外：粗いハケ 内：細いハケ

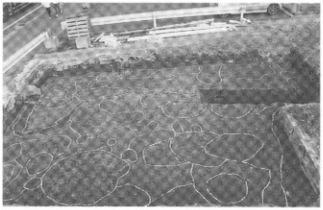
番号	形容詞（句）・動詞・連語	発音	意味	派生語（名詞・形容詞）	反意語（動詞・形容詞）	熟語
356	副 about	副 əbáut	～のあたりを[に]; ～について			
357	副 above	副 əbʌ́v	上に[へ]; ～以上で			
358	副 abroad	副 əbrɔ́ːd	外国に[へ]; 広く			
359	副 absolutely	副 ǽbsəlùːtli	絶対に; 全く			
360	副 accordingly	副 əkɔ́ːrdiŋli	したがって; それゆえに			
361	副 actually	副 ǽktʃuəli	実際に; 現に			
362	副 afterward	副 ǽftərwərd	その後; 後で			
363	副 again	副 əgéin	再び; また			
364	副 ahead	副 əhéd	前に; 先に			
365	副 almost	副 ɔ́ːlmoust	ほとんど; もう少しで			
366	副 already	副 ɔːlrédi	すでに; もう			
367	副 always	副 ɔ́ːlweiz	いつも; 常に			
368	副 anywhere	副 éniwèər	どこへ[に]でも			
369	副 apart	副 əpáːrt	離れて; ばらばらに			
370	副 around	副 əráund	周りに; 回って			
371	副 aside	副 əsáid	わきに; 離れて			
372	副 away	副 əwéi	離れて; 去って			
373	副 back	副 bæk	後ろに; 戻って			
374	副 backward	副 bǽkwərd	後ろに; 逆に			
375	副 badly	副 bǽdli	ひどく; 悪く			
376	副 barely	副 bέərli	かろうじて; やっと			
377	副 beautifully	副 bjúːtəfəli	美しく; 見事に			
378	副 before	副 bifɔ́ːr	前に; 以前に			
379	副 behind	副 biháind	後ろに; 遅れて			
380	副 below	副 bilóu	下に; 以下で			
381	副 beneath	副 biníːθ	下に; 劣って			
382	副 beside	副 bisáid	そばに; わきに			
383	副 besides	副 bisáidz	その上; さらに			
384	副 between	副 bitwíːn	間に; 中間に			
385	副 beyond	副 biɑ́nd	向こうに; 越えて			
386	副 carefully	副 kέərfəli	注意深く; 慎重に			
387	副 carelessly	副 kέərlisli	不注意に; 軽率に			
388	副 certainly	副 sə́ːrtnli	確かに; 必ず			
389	副 clearly	副 klíərli	はっきりと; 明らかに			
390	副 closely	副 klóusli	接近して; 密接に			
391	副 completely	副 kəmplíːtli	完全に; 全く			
392	副 consequently	副 kɑ́nsikwèntli	その結果; したがって			
393	副 considerably	副 kənsídərəbli	かなり; 相当に			
394	副 constantly	副 kɑ́nstəntli	絶えず; 常に			
395	副 correctly	副 kərέktli	正しく; 適切に			
396	副 daily	副 déili	毎日; 日ごとに			
397	副 deeply	副 díːpli	深く; 心から			
398	副 definitely	副 défənətli	明確に; 確かに			
399	副 differently	副 dífərəntli	異なって; 違って			
400	副 directly	副 dirέktli	直接に; すぐに			
401	副 downward	副 dáunwərd	下へ; 下向きに			
402	副 easily	副 íːzili	容易に; 楽に			
403	副 effectively	副 iféktivli	効果的に; 有効に			
404	副 elsewhere	副 élshwèər	どこかよそで[に]			
405	副 enough	副 inʌ́f	十分に; 必要なだけ			
406	副 entirely	副 intáiərli	全く; 完全に			
407	副 equally	副 íːkwəli	等しく; 平等に			
408	副 especially	副 espéʃəli	特に; 格別に			
409	副 eventually	副 ivéntʃuəli	結局; ついに			
410	副 everywhere	副 évriwèər	どこでも; 至る所に			
411	副 exactly	副 igzǽktli	正確に; 厳密に			
412	副 extremely	副 ikstríːmli	極端に; 非常に			
413	副 fairly	副 fέərli	かなり; 公平に			
414	副 faithfully	副 féiθfəli	忠実に; 誠実に			
415	副 fast	副 fæst	速く; しっかりと			
416	副 finally	副 fáinəli	ついに; 最後に			
417	副 forever	副 fərévər	永遠に; 絶えず			
418	副 formerly	副 fɔ́ːrmərli	以前は; かつて			
419	副 forward	副 fɔ́ːrwərd	前に; 将来に			
420	副 frankly	副 frǽŋkli	率直に; 遠慮なく			
421	副 frequently	副 fríːkwəntli	しばしば; 頻繁に			
422	副 fully	副 fúli	十分に; 完全に			
423	副 generally	副 dʒénərəli	一般に; 普通は			
424	副 gently	副 dʒéntli	優しく; そっと			
425	副 gladly	副 glǽdli	喜んで; 快く			
426	副 greatly	副 gréitli	大いに; 非常に			
427	副 happily	副 hǽpili	幸せに; 運よく			
428	副 hardly	副 hɑ́ːrdli	ほとんど～ない; 決して～ない			
429	副 heavily	副 hévili	重く; ひどく			
430	副 highly	副 háili	高く; 大いに			
431	副 hopefully	副 hóupfəli	願わくは; 希望を持って			
432	副 immediately	副 imíːdiətli	すぐに; 直接に			
433	副 importantly	副 impɔ́ːrtntli	重要なことに; 大切なことに			
434	副 increasingly	副 inkríːsiŋli	ますます; 一層			
435	副 indeed	副 indíːd	実に; 本当に			
436	副 independently	副 indipéndəntli	独立して; 自主的に			
437	副 indoors	副 indɔ́ːrz	屋内で[に]; 家の中で[に]			
438	副 inside	副 insáid	内側に; 中に			
439	副 instead	副 instéd	その代わりに; 代わりに			
440	副 instinctively	副 instíŋktivli	本能的に; 直感的に			
441	副 interestingly	副 íntərəstiŋli	興味深いことに; 面白いことに			
442	副 internally	副 intə́ːrnəli	内部に; 内面的に			
443	副 internationally	副 intərnǽʃnəli	国際的に; 国際上			
444	副 interpersonally	副 intərpə́ːrsnəli	対人的に; 人間関係上			
445	副 interpretively	副 intə́ːrpritivli	解釈的に; 解釈上			
446	副 intimately	副 íntəmitli	親密に; 内密に			
447	副 intrapersonally	副 intrəpə́ːrsnəli	個人的に; 内面的に			
448	副 intuitively	副 intjúːitivli	直感的に; 本能的に			
449	副 invariably	副 invέəriəbli	常に; 変わらず			
450	副 irregularly	副 irégjələrli	不規則に; 変則的に			
451	副 jointly	副 dʒɔ́intli	共同で; 連帯して			
452	副 kindly	副 káindli	親切に; 優しく			
453	副 knowingly	副 nóuiŋli	意識的に; 故意に			
454	副 largely	副 lɑ́ːrdʒli	大部分は; 主に			
455	副 lastly	副 lǽstli	最後に; 終わりに			
456	副 lately	副 léitli	最近; 近ごろ			
457	副 later	副 léitər	後で; 後ほど			
458	副 lightly	副 láitli	軽く; 軽率に			
459	副 literally	副 lítərəli	文字通り; 実際に			
460	副 locally	副 lóukəli	地元で; 局所的に			
461	副 logically	副 lɑ́dʒikəli	論理的に; 当然			
462	副 longer	副 lɔ́ːŋgər	もはや～ない; これ以上～ない			
463	副 loosely	副 lúːsli	ゆるく; だらしなく			
464	副 loudly	副 láudli	大声で; 騒々しく			
465	副 lovingly	副 lʌ́viŋli	愛情を込めて; 優しく			
466	副 luckily	副 lʌ́kili	幸運にも; 運よく			
467	副 mainly	副 méinli	主に; 大部分は			
468	副 meanwhile	副 míːnhwàil	その間に; 一方			
469	副 merely	副 míərli	単に; ただ			
470	副 mildly	副 máildli	穏やかに; 軽く			
471	副 mostly	副 móustli	大抵は; 主に			
472	副 naturally	副 nǽtʃərəli	当然; 自然に			
473	副 nearly	副 níərli	ほとんど; 危うく			
474	副 necessarily	副 nèsəsérili	必然的に; 必ず			
475	副 nervously	副 nə́ːrvəsli	神経質に; 緊張して			
476	副 normally	副 nɔ́ːrməli	普通は; 通常			
477	副 nowadays	副 náuədèiz	最近は; 今日では			
478	副 obviously	副 ɑ́bviəsli	明らかに; 当然			
479	副 occasionally	副 əkéiʒnəli	時々; たまに			
480	副 officially	副 əfíʃəli	公式に; 正式に			
481	副 often	副 ɔ́ːfn	しばしば; 頻繁に			
482	副 openly	副 óupənli	公然と; 率直に			
483	副 originally	副 ərídʒənəli	最初は; もともと			
484	副 outdoors	副 àutdɔ́ːrz	屋外で[に]; 野外で[に]			
485	副 outside	副 àutsáid	外側に; 外で			
486	副 overall	副 óuvərɔ̀ːl	全体として; 概して			
487	副 overseas	副 óuvərsíːz	海外に[へ]; 外国に[へ]			
488	副 partly	副 páːrtli	部分的に; 一部は			
489	副 passionately	副 pǽʃənitli	情熱的に; 熱烈に			
490	副 patiently	副 péiʃəntli	辛抱強く; 我慢して			
491	副 perfectly	副 pə́ːrfiktli	完全に; 申し分なく			
492	副 personally	副 pə́ːrsnəli	個人的に; 自分で			
493	副 physically	副 fízikəli	肉体的に; 物理的に			
494	副 plainly	副 pléinli	明らかに; 率直に			
495	副 politically	副 pəlítikəli	政治的に; 政治上			
496	副 poorly	副 púərli	貧しく; 下手に			
497	副 positively	副 pɑ́zitivli	積極的に; 確かに			
498	副 possibly	副 pɑ́səbli	可能に; ひょっとすると			
499	副 powerfully	副 páuərfəli	強力に; 力強く			
500	副 practically	副 prǽktikəli	実際的に; ほとんど			
501	副 precisely	副 prisáisli	正確に; まさに			
502	副 presently	副 prézntli	現在; まもなく			
503	副 primarily	副 praimérili	主に; 第一に			
504	副 privately	副 práivitli	個人的に; 内密に			
505	副 probably	副 prɑ́bəbli	恐らく; 多分			
506	副 properly	副 prɑ́pərli	適切に; 正しく			
507	副 publicly	副 pʌ́blikli	公に; 公然と			
508	副 purely	副 pjúərli	純粋に; 全く			
509	副 quickly	副 kwíkli	速く; すぐに			
510	副 quietly	副 kwáiətli	静かに; 穏やかに			
511	副 quite	副 kwait	かなり; 全く			
512	副 rapidly	副 rǽpidli	急速に; 速く			
513	副 rarely	副 rέərli	めったに～ない; 滅多に～ない			
514	副 really	副 ríːəli	本当に; 実際に			
515	副 reasonably	副 ríːznəbli	合理的に; かなり			
516	副 recently	副 ríːsntli	最近; 近ごろ			
517	副 regularly	副 régjələrli	規則的に; 定期的に			
518	副 relatively	副 rélətivli	比較的に; 相対的に			
519	副 reliably	副 riláiəbli	確実に; 信頼して			
520	副 remarkably	副 rimáːrkəbli	著しく; 目立って			
521	副 repeatedly	副 ripíːtidli	繰り返して; 何度も			
522	副 respectively	副 rispéktivli	それぞれ; 各々			
523	副 roughly	副 rʌ́fli	荒く; 大まかに			
524	副 rudely	副 rúːdli	無礼に; 乱暴に			
525	副 sadly	副 sǽdli	悲しく; 残念ながら			
526	副 safely	副 séifli	安全に; 無事に			
527	副 scarcely	副 skέərsli	ほとんど～ない; 辛うじて			
528	副 seldom	副 séldəm	めったに～ない; 滅多に～ない			
529	副 separately	副 sépərətli	別々に; 個別に			
530	副 seriously	副 síəriəsli	真剣に; 深刻に			
531	副 sharply	副 ʃáːrpli	鋭く; 急に			
532	副 shortly	副 ʃɔ́ːrtli	まもなく; 短く			
533	副 sideways	副 sáidwèiz	横に; 斜めに			
534	副 significantly	副 signífikəntli	著しく; 重要なことに			
535	副 silently	副 sáiləntli	静かに; 黙って			
536	副 similarly	副 símələrli	同様に; 似て			
537	副 simply	副 símpli	単に; 簡単に			
538	副 sincerely	副 sinsíərli	心から; 誠実に			
539	副 slightly	副 sláitli	わずかに; 少し			
540	副 slowly	副 slóuli	ゆっくりと; 遅く			
541	副 smoothly	副 smúːðli	滑らかに; 順調に			
542	副 socially	副 sóuʃəli	社会的に; 社交的に			
543	副 softly	副 sɔ́ftli	柔らかく; 静かに			
544	副 solely	副 sóulli	単独で; ただ			
545	副 somehow	副 sʌ́mhàu	どうにかして; なぜか			
546	副 somewhat	副 sʌ́mhwɑt	いくらか; やや			
547	副 somewhere	副 sʌ́mhwèər	どこかに[へ]; どこかで			
548	副 soon	副 súːn	すぐに; まもなく			
549	副 sorrowfully	副 sɑ́roufəli	悲しげに; 悲嘆して			
550	副 specifically	副 spisífikəli	具体的に; 特に			
551	副 steadily	副 stédili	着実に; 絶えず			
552	副 strangely	副 stréindʒli	奇妙に; 不思議に			
553	副 strictly	副 stríktli	厳密に; 厳格に			
554	副 strongly	副 strɔ́ːŋli	強く; 強力に			
555	副 subsequently	副 sʌ́bsikwəntli	その後; 続いて			
556	副 substantially	副 səbstǽnʃəli	実質的に; 大幅に			
557	副 successfully	副 səksésfəli	成功して; うまく			
558	副 suddenly	副 sʌ́dnli	突然; 急に			
559	副 sufficiently	副 səfíʃəntli	十分に; 必要なだけ			
560	副 suitably	副 súːtəbli	適切に; ふさわしく			
561	副 supposedly	副 səpóuzidli	恐らく; 推定で			
562	副 surely	副 ʃúərli	確かに; 必ず			
563	副 surprisingly	副 sərpráiziŋli	驚くほど; 意外に			
564	副 surrounding	副 səráundiŋ	周囲に; 取り巻いて			
565	副 sweetly	副 swíːtli	甘く; 優しく			
566	副 swiftly	副 swíftli	速く; 迅速に			
567	副 tenderly	副 téndərli	優しく; そっと			
568	副 tightly	副 táitli	きつく; しっかりと			
569	副 together	副 təgéðər	一緒に; 共に			
570	副 tomorrow	副 təmɔ́rou	明日; 将来			
571	副 tonight	副 tənáit	今夜; 今晩			
572	副 totally	副 tóutəli	全く; 完全に			
573	副 toward	副 tɔ́ːrd	～に向かって; ～の方へ			
574	副 truly	副 trúːli	本当に; 真に			
575	副 typically	副 típikəli	典型的に; 普通は			
576	副 ultimately	副 ʌ́ltimitli	最終的に; 結局			
577	副 unbelievably	副 ʌnbilíːvəbli	信じられないほど; 驚くべきことに			
578	副 underneath	副 ʌndərníːθ	下に; 下方に			
579	副 understandably	副 ʌndərstǽndəbli	理解できるように; 当然			
580	副 unfortunately	副 ʌnfɔ́ːrtʃənitli	不幸にも; 残念ながら			
581	副 uniformly	副 júːnifɔ̀ːrmli	均一に; 一様に			
582	副 unlikely	副 ʌnláikli	ありそうもなく; 恐らく～ない			
583	副 unnecessarily	副 ʌnnèsəsérili	不必要に; 無駄に			
584	副 unquestionably	副 ʌnkwéstʃənəbli	疑いなく; 確かに			
585	副 upon	副 əpɑ́n	～の上に; ～に基づいて			
586	副 upstairs	副 ʌpstέərz	上の階に[へ]; 階上で[に]			
587	副 usually	副 júːʒuəli	普通は; 通常			
588	副 vaguely	副 véigli	漠然と; ぼんやりと			
589	副 variously	副 véəriəsli	様々に; 異なって			
590	副 vastly	副 vǽstli	広大に; 非常に			
591	副 verbally	副 və́ːrbəli	口頭で; 言葉で			
592	副 vertically	副 və́ːrtikəli	垂直に; 縦に			
593	副 very	副 véri	非常に; とても			
594	副 violently	副 váiələntli	激しく; 暴力的に			
595	副 visually	副 víʒuəli	視覚的に; 目で			
596	副 vocally	副 vóukəli	声に出して; 口頭で			
597	副 voluntarily	副 vɑ̀ləntérili	自発的に; 志願して			
598	副 warmly	副 wɔ́ːrmli	暖かく; 心から			
599	副 weakly	副 wíːkli	弱く; 力なく			
600	副 wearily	副 wíərili	疲れて; 倦怠感を持って			
601	副 weekly	副 wíːkli	毎週; 週ごとに			
602	副 wholly	副 hóulli	全く; 完全に			
603	副 widely	副 wáidli	広く; 広範囲に			
604	副 wildly	副 wáildli	荒々しく; 無茶苦茶に			
605	副 willingly	副 wíliŋli	喜んで; 自発的に			
606	副 wisely	副 wáizli	賢く; 賢明に			
607	副 wonderfully	副 wʌ́ndərfəli	素晴らしく; 驚くほど			
608	副 worldwide	副 wə́ːrldwáid	世界的に; 全世界で			
609	副 worriedly	副 wə́ːridli	心配そうに; 不安げに			
610	副 worthily	副 wə́ːrðili	立派に; 価値を持って			
611	副 yearly	副 jíərli	毎年; 年ごとに			
612	副 yesterday	副 jéstərdèi	昨日; 過去に			
613	副 yet	副 jet	まだ; 既に			

報文番号	法量(cm) 口径	器高	底径	胎土	色調1 (釉上)	色調2 (釉薬、釉色)	調整
301		2.2+	4.1	密	灰白	透明 [illegible]	–
302	6.1	1.0	0.1	–	–		–
303		14.5+	23.2	やや粗	にぶい橙7.5YR6/3		外：ナデ 内：指おさえ 板ナデ
304	(9.6)	0.9+		密 1mm以下の石英・長石を含む	橙7.5YR7/6		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
305	8.9	1.0	6.4	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい橙5YR7/3 内：にぶい橙5YR7/4		外：ヨコナデ 糸切り ナデ 内：ヨコナデ
306	(5.6)	2.3	(10.6)	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ 糸切り 内：ナデ
307		2.4+		緻	灰白7.5Y7/1	灰白7.5Y7/2	–
308	9.15	3.7	1.1	緻	にぶい黄橙10YR7/2		ナデ 指おさえ
309	(11.0)	4.6	3.6	やや粗	灰白色	浅黄5Y7/3 釉薬 暗オリーブ	–
310	(5.9)	4.1		緻	にぶい橙7.5YR7/3	灰白2.5Y8/2 灰褐7.5YR5/2	
311	(22.2)	7.8	(12.0)	緻	橙2.5YR6/8	赤10R5/6	–
312		3.8		緻	灰白N8/	透明	–
313	(8.7)	4.33	(3.2)	緻	灰白色	透明	–
314	6.8	6.0	3.9	緻~密	灰白色	黄灰2.5Y6/	–
315		1.1+		密 1mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい橙7.5YR7/4 内：にぶい橙7.5YR6/4		外：ナデ 内：回転ナデ
316	(8.6)	3.65+		緻	灰白	透明 青	–
317		1.4+		緻	灰白N8/	透明 淡青	
320	(10.0)	1.1+		密	灰白10YR8/2		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
321		2.5+		密	灰白10YR8/2		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
322		3.3+	4.3	緻	灰白N8/	透明 染付	–
323		3.9	(7.8)	密	灰白N8/	透明	
325	(17.0)	1.3+		密 1~3mm以下の石英・長石・角閃石を含む	外：にぶい赤褐5YR5/4 内：赤褐5YR4/6		–
326		2.4		やや粗 1mm以下の石英・長石を含む	外：橙5YR7/6 内：灰N4/		外：ナデ 内：横ハケ 指おさえ
328	2.8	0.5	0.5	–	褐灰10YR5/1		–
333	(5.8)	1.1	(7.0)	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい橙5YR7/4 内：にぶい橙5YR6/4		外：ヨコナデ 糸切り 内：ヨコナデ
334	(10.6)	1.6+		密	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
335	(5.1)	1.3	(5.1)	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ 内：ナデ
336	(8.6)	1.3	(6.0)	密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：糸切り ヨコナデ 内：ヨコナデ
337		0.7		密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ 糸切り 内：ヨコナデ
338		0.8+	(5.4)	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：回転糸切り 板目状圧痕 内：ナデ
339	(21.8)		(19.6)	やや密 1mm以下の石英・長石・金雲母を含む	にぶい橙7.5YR7/4		内：板ナデ
340	8.4	1.0	5.8	緻 微細砂を若干含む	にぶい黄橙10YR7/4		外：回転ナデ 糸切り 内：回転ナデ
341		0.6+	(3.2)	緻	灰オリーブ 5Y6/2	透明	–
342		1.1+	(4.2)	緻	灰白	透明 明青	–
343	(5.4)	3.7+		緻	灰白	透明 青白	–
344		2.8+		緻	灰白N8/	透明	–
345		6.3+	(13.4)	粗 2mm以下の砂粒・雲母・角閃石・赤褐色粒を含む	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい橙7.5YR7/4		–
346		14.3+	28.1	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：赤黒2.5YR2/1 内：褐10YR4/6		内：接合痕
347				やや粗 1~2mm以下の砂粒を含む	灰黄2.5Y6/2	鉄釉	–
348	7.4	1.2	0.5	–	–		–
349		6.25+	(12.4)	密 1mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい橙7.5YR6/2 内：にぶい黄橙10YR6/3		内：ヨコナデ
350	(9.2)	4.3+		緻	灰白色	透明 [illegible]	
351		4.2+		緻	灰白10Y8/1	透明	–
352		1.5+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：ナデ 内：ナデ
353		2.6+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
354		1.0+	(7.2)	密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR8/1		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
355	(11.6)	2.0+		密	外：灰白7.5YR7/2 内：灰白N7/		外：ナデ
356		5.3+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/3		外：ナデ
357		1.9+	16.0	密	外：灰N6/ 内：灰白N7/		–
358	(10.6)	6.1	4.8	密	にぶい橙7.5YR7/4	透明	–
359	6.8	2.7	3.0	密	灰白5Y8/1	透明	–
360		5.3		密	灰白N7/1	黄灰2.5Y6/1	–
361	(12.2)	2.6	(6.8)	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白2.5Y8/2		
362		3.4+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：黒褐10YR3/1 内：褐灰10YR4/1		外：指おさえ ヨコナデ 内：板ナデ
363	(15.2)	3.1+		緻	灰白2.5Y7/2	オリーブ黄5Y6/4	–
364		4.3+	(11.4)	やや粗 1mm以下の石英・長石を含む	外：褐灰10YR4/1 内：灰白10YR8/1		外：回転ヘラケズリ ナデ
365		1.5+	(5.4)	緻	灰白2.5Y8/2	明緑灰10GY8/	–
366	(7.0)	2.5	(3.0)	緻	白色	透明 呉須 染付	–
367	(9.2)	1.9+		密 長石質の粒を含む	白色	透明 青白	
368		1.8+	7.0	密	外：明褐灰7.5YR7/2 内：明褐灰5YR7/2		外：ハケ ナデ 内：ミガキ
369	6.6	2.0	7.0	やや粗 1mm以下の石英・長石・角閃石・雲母を含む	外：橙5YR6/6 内：橙2.5YR6/6		外：ナデ 内：布目
370	(29.0)	2.7+		やや粗 1mm以下の石英・長石を含む	外：黒褐10YR3/1 内：褐灰7.5YR5/1		外：指おさえ ヨコナデ 内：ヨコナデ 後方向のハケ
371		2.3+		緻	灰5Y6/1	透明	
372		1.8+	(5.0)	密	灰白N8/1	灰オリーブ5Y6/2	–
373		1.9+		密	灰白10YR7/1	灰白5Y7/1	
374	7.8	4.5	6.0	やや密 2mm以下の長石・石英を含む	にぶい黄橙10YR7/4		–
375	7.0	2.3+		密	灰白N8/	透明	
376	(9.0)	2.9+		密	灰白N8/	透明	–
377	10.0	2.0+		密	灰白N8/	透明	
378		1.5+	4.2	密	灰白	透明	–
379	(6.8)	1.2+		やや密 1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	灰白10YR8/2		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
380	(11.0)	2.0	(4.4)	密 白色の1mm以下の砂粒を含む	外：灰白5Y7/1 内：灰白2.5Y8/2		外：ヨコナデ ヘラ切り 内：ヨコナデ
381	(11.0)	1.5+		密	外：浅黄橙10YR8/4 内：浅黄橙10YR8/3		外：ナデ
382		3.4+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい黄橙10YR6/3 内：にぶい橙7.5YR6/3		外：ケズリ ナデ 内：ハケ ナデ
383	(20.0)	1.3+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：黒褐10YR3/1 内：灰白2.5Y7/1		外：指おさえ ナデ 内：ナデ
384	(23.6)	5.6+		やや粗 2mm以下の長石・石英を含む	外：黄灰2.5Y5/1 内：灰白5Y7/1		外：指おさえ 内：板ナデ
385	(20.0)	6.5+		密	外：黒5Y2/1 内：灰黄色2.5Y6/2		外：指おさえ 内：ハケ後ナデ
386	(10.4)	1.9+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	浅黄2.5Y8/3	透明	
387	(9.8)	4.2+	(3.4)	密 砂粒	灰白2.5Y8/2	透明 茶 緑	–
388		2.1+	(3.3)	密	浅黄2.5Y8/3	灰白7.5Y7/2	
389		1.3+	(4.6)	密	灰白N7/	オリーブ灰10Y6/2	–
390	(28.6)	1.4+		やや密 大粒の石英・長石を少し含む	赤10R5/6	暗赤褐10R3/2	
391	(34.0)	2.6+		密	灰N4/	灰白N8/ 暗オリーブ灰2.5GY4/1	–
392	(13.4)	1.3+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	明赤褐2.5YR5/6	灰白7.5Y8/1	
393	(7.6)	2.3+		密	灰白N8/	透明	–
394	(7.8)	3.5+		緻	灰白N8/	透明	
395	(10.2)	3.0+		密	灰白N8/	透明	–
396		1.6+	(1.4)	密	灰白N8/	透明	
397	(9.5)	4.5+		密	灰白N8/	透明	–
398	(7.4)	5.1	3.7	緻	灰白N8/	透明	
399		1.3+		密	灰白N8/	灰白2.5GY8/1	–
400		1.1+		緻	灰白N8/	透明	
401	9.2	2.5	6.8	密	白色	白 暗青灰5B3/1	–
402		2.3+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：灰白10YR8/2 内：浅黄橙10YR8/2		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
403		1.2+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR8/2		内：ヨコナデ
404	15.8	3.0+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：淡橙5YR8/4 内：灰白7.5YR8/1		外：ヨコナデ ヘラケズリ 内：ヨコナデ
405	(16.0)	2.25+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白7.5YR8/2		外：回転ナデ 板状圧痕 内：回転ナデ
406	17	2.5+		やや密 1mm以下の石英・長石・雲母を含む	外：灰白7.5YR8/2 内：灰白10YR8/2		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
407	(13.6)	2.6+		密	灰白10YR8/1		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
408		2.1+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	外：明赤褐2.5YR5/6 内：灰褐5YR4/2		外：格子目タタキ 内：ハケ
409		3.7+		やや粗 2mm以下の長石・石英を含む	にぶい橙7.5YR7/3		外：ヨコナデ 指おさえ 内：ナデ
410		4.2+		密 1mm以下の石英・長石を含む	赤褐10R4/3	透明	
411	(23.0)	3.5+		やや粗 1mm以下の石英・長石を含む	橙2.5YR6/6		–
412		5.1+	(14.2)	やや密 1mm以下の石英・長石を含む	橙2.5YR6/6	赤褐2.5YR4/6	
413		7.8+	(16.5)	やや粗 1mm以下の石英・長石を含む	外：赤10R5/6 内：橙2.5YR6/8		外：ナデ
414		6.7+		密 1mm以下の石英・長石を含む	外：暗赤灰10R3/1 内：灰赤7.5R4/2		外：ヨコナデ
415	(10.0)	3.5+		密	灰白N8/1	明青灰5B7/1	–
439	(10.9)	1.6+		密 1mm以下の石英・長石を含む	にぶい黄橙10YR7/4		外：回転ナデ 内：回転ナデ
440	(13.0)	2.5+		やや密 1mm以下の砂粒を含む	外：にぶい橙7.5YR7/4 内：にぶい橙5YR6/4		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
441		2.1+	(5.8)	やや粗 1mm以下の石英・長石を含む	灰N6/		外：回転ヘラケズリ 内：回転ナデ
442	6.2	2.2	2.2	密	灰白N8/	透明	–
443		4.3+		やや粗 2mm以下の石英・長石を含む	外：赤褐10R5/3 内：赤褐10R4/3		外：ナデ 内：ナデ
444	(30.4)	3.6+		やや粗 1mm以下の石英・長石を含む	外：黒褐5YR3/1 内：灰褐7.5YR5/2		外：ナデ 指おさえ 内：細いハケ ナデ
447	(10.8)	2.0+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR8/2		外：回転ナデ 内：回転ナデ
448		1.3+	(9.0)	やや粗 1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR8/2		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ
449	(13.6)	2.8+		やや密 1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR8/2		外：回転ナデ 内：回転ナデ
450		8.3+	1.3	やや粗 2mm以下の石英・長石・角閃石を含む	にぶい赤褐5YR5/4		–
451	(9.0)	4.2+		密	浅黄2.5Y8/3	透明 [illegible]	–

挿図番号	法量（cm） 口径	器高	底径	胎土	色調1（胎土）	色調2（釉薬、釉色）	調整
452	(10.2)	3.8−		密	にぶい黄2.5Y6/3	にぶい黄橙10YR6/3	−
453	(10.6)	6.6	(4.1)	密	にぶい橙7.5YR7/4	淡黄2.5Y8/4	
454	6.9	2.7	3.0	密　1mm以下の砂粒を含む	灰白	透明	−
455		1.9	2.9	密	灰白10YR8/2	透明	
456	(10.0)	3.3−		密　砂粒を含む	灰白	透明	−
457	(10.9)	3.4−		密	灰白N8/	透明	−
458		3.0−		密	灰白N8/	透明	
462	19.4+	7.2	10.7	−			−
463		0.9		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	灰白10YR8/2		外：ヨコナデ　内：ヨコナデ
464	(8.0)	0.6		密	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ　内：ヨコナデ
465	(7.9)	1.1−		密	外：にぶい橙5YR7/4　内：橙5YR7/6		外：ヨコナデ　内：ヨコナデ
466	(8.0)	1.0		密	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ　内：ヨコナデ
467	(8.4)	1.1−		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：ナデ　内：ナデ
468	(9.4)	0.7		密	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ　内：ヨコナデ
469	9.1	1.0	7.4	密	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ　内：ナデ
470	8.4	1.1	4.7	やや密　1mm以下の石英・長石・赤褐色の砂粒を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ　内：ヨコナデ
471	(8.0)	1.1	(5.9)	やや密　1mm以下の石英・長石を含む	橙5YR7/6		外：ナデ　糸切り　内：ナデ
472		1.7−		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ　内：ヨコナデ
473	(7.9)	0.8	(5.6)	やや密　1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：ナデ　糸切り　内：ナデ
474	(9.6)	1.2		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	外：淡赤橙2.5YR7/4　内：にぶい橙5YR7/		外：ヨコナデ　糸切り　内：ヨコナデ
475	7.3	1.2		密	灰白10YR8/2		外：ヨコナデ　内：ヨコナデ
476	(8.7)	1.3	(4.8)	やや密　1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/3		外：ヨコナデ　糸切り　内：ナデ
477	(8.6)	0.9	(6.6)	密	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ　糸切り　内：ヨコナデ
478	(7.8)	1.4−		密	外：にぶい橙7.5YR6/3　内：褐7.5YR4/3		外：ケズリ　内：ヨコナデ
479	(11.4)	1.8−		密	浅黄橙10YR8/3		外：ヨコナデ　内：ヨコナデ
480	(11.8)	2.0	(5.6)	やや密　1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：ヨコナデ　ヘラ切り　内：ヨコナデ
481	(15.0)	2.1−		密　1mm以下の赤褐色2～3mmの砂粒を含む	灰白10YR8/2		外：ヨコナデ　内：ヨコナデ
482		1.0	(10.0)	密	外：灰白10YR8/2　内：浅黄橙10YR8/3		外：ヨコナデ　糸切り　内：ヨコナデ
483	(13.5)	3.0	(11.0)	やや密　1mm以下の石英・長石を含む	外：にぶい橙5YR7/3　内：にぶい橙5YR6/4		外：ヨコナデ　糸切り　内：ヨコナデ
484	(23.2)	4.7−		密	外：灰黄2.5Y4/1　内：灰黄2.5Y7/2		外：指おさえ　内：ハケ
485	(31.6)	6.2−		密　1mm以下の白色砂粒を多量に含む	黒褐5YR2/1		外：指おさえ　内：ハケ後ナデ
486	(10.9)	5.1	4.5	密	にぶい黄橙10YR7/3	にぶい黄色2.5Y6/3	−
487		2.5		密	灰N5/	赤褐10R4/3	−
488		1.5−	(2.2)	密	灰白N8/	灰白5GY8/1	−
489	6.4	3.5	2.8	密	灰白N8/	透明	−
490	(6.6)	2.5	(3.0)	密	灰白N8/	透明	
491	(6.4)	2.9	(3.0)	密	灰白N8/	透明	−
492	(6.7)	2.9	(2.6)	密	灰白N8/	灰白N8/	
493	(8.6)		1.9+	密	灰白7.5Y8/1	透明	−
494	8.6	2.7		密	灰白N8/	透明	−
495	(8.4)	5.3	3.5	密	灰白N8/	淡灰白、淡青	−
496	(10.0)	4.3		密	灰白	透明	−
497	(10.4)	2.2−		密	灰白	透明	
498	11.6	3.8−		密	灰白N8/		−
499	(13.0)	4.9−		密	灰白N8/	透明	
500	(13.0)	5.0−		密	灰白	透明	−
501		5.0		密	灰白	透明	−
502		2.1−	4.0	密	灰白N8/	透明	
503	5.5	5.5	3.6	密	灰白N8/	透明	−
504	(16.0)	4.4	(10.0)	密	灰白N8/	透明　緑青	
505	(17.8)	6.5	(9.4)	密	灰白N8/	透明　緑青	−
506		2.5−	(11.2)	密	灰白N8/	透明	
507	(12.8)	1.4		密	淡黄2.5Y8/4	淡黄2.5Y8/4	−
508	4.2	1.0		−	−		−
512		5.4−		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	灰褐7.5YR6/2		外：ナデ　内：ナデ
513		1.2	(4.3)	密	灰白2.5Y8/2	透明	−
514		1.0−		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	外：褐灰7.5YR4/1　内：褐灰10YR5/1		外：ヨコナデ　内：ヨコナデ
515		3.3		やや粗　1mm以下の石英・長石・角閃石を含む	外：にぶい赤褐5YR5/4　内：にぶい黄2.5Y6/3		外：指おさえ　ヨコナデ　内：ヨコナデ
516	(13.6)	3.2−		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	灰N4/		外：ナデ　指おさえ　内：ナデ　ヘラミガキ
517	(10.3)	5.0−		密	にぶい黄橙10YR7/4	にぶい黄橙10YR7/4	−
518	(6.6)	2.3−		密	灰白N7/	灰白7.5Y7/	−
519	6.7	2.85	2.9	密	灰白N8/	灰白N8/	−
520	28.4	1.6		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	にぶい黄橙10YR7/3		外：ナデ　内：細いハケ
521	(10.6)	3.6−		密	灰白N8/	透明	
522	(9.6)	5.7	(3.6)	密	灰白N8/	明緑灰10GY8/1	−
523	10.6	5.0	4.4	密	灰白N8/	透明	
524		3.2−	4.0	密	灰白2.5Y8/2	灰白8/1	−
525		2.6−	6.8	密	灰白N8/	灰白N8/	
529	3.7+	1.0	3.4	−	−		−
530	1.8	1.0	0.3	−	−		−
531	7.3+	2.3−		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/3		外：ナデ
532		1.5	(6.0)	やや密　1mm以下の石英・長石を含む	灰白2.5YR8/2		外：ヨコナデ
533		11.5+		密　1mm以下の石英・長石を含む	灰白N5/	灰オリーブ7.5Y6/2	
535	21.7	11.5	3.7		−		−
537		1.5−		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	外：橙5YR7/6　内：橙2.5YR7/8		外：ヨコナデ　内：ヨコナデ
538	(8.0)	1.4−		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	にぶい橙7.5YR7/4		外：ナデ　内：ナデ
539		3.9−	(6.0)	密	灰白N8/	透明	−
540		5.0−	(6.0)	密	灰白2.5Y8/2	灰黄褐10YR6/2	−
541		2.8−	3.0	密	灰白5Y8/1	灰白5Y7/2	−
542		1.2−	(10.2)	密	灰白2.5Y7/1	暗赤褐2.5YR3/4	
543		3.1		やや粗　1mm以下の石英・長石を含む	明褐灰7.5YR7/2		外：ナデ　内：ナデ　指おさえ
544		3.7−		やや粗　1～3mm以下の石英・長石・雲母・角閃石を含む	外：にぶい橙5YR6/3　内：灰褐7.5YR6/2		外：ナデ　指おさえ　内：ナデ　指おさえ
545		1.7	6.0	やや粗　3mm以下の石英を含む	灰白2.5Y8/2		外：ナデ　内：ナデ
546		3.0−		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	にぶい赤褐2.5YR5/4		外：ナデ
547	(11.0)	2.4−		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	灰5Y4/1		−
548	10.4	1.2−		密	灰白5Y7/2	灰オリーブ7.5Y6/2	
549	(12.3)	3.0−		密	灰白5Y6/1	灰10Y6/1	−
550	(9.6)	3.8−		密	灰白N8/	透明	−
551	(8.8)	3.6−		密	灰白N8/	透明	
552		2.4−	4.6	密	灰白N8/	透明	−
553	(13.6)	5.4−		密	灰白N7/	青灰10BG6/1	
554	4.0	0.9			−		−
556	(17.4)	6.25+		密　1mm以下の長石を含む	外：灰黄2.5Y6/2　内：にぶい橙7.5YR6/4		外：ケズリ　指おさえ　内：板ナデ　ハケ
557	(13.0)	3.1		密	褐灰N8/		外：ナデ　押おさえ　内：ナデ　ミガキ
558	(11.2)	2.8−		密	灰白N8/		
559		1.1	(7.2)	密	灰白N8/	透明	−
560	12.1−	4.1		密	灰白5Y6/1	透明	−
561	(7.5)	3.0	(2.5)	密	灰白N8/	透明	−
562	(7.8)	3.0−		密	灰白7.5Y8/1		−
563	(10.3)	5.3	(4.2)	密	灰白N8/	透明	
565	(7.2)	1.3−		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	7.5YR7/4にぶい橙		外：ヨコナデ　内：ヨコナデ
566		1.5−		密	灰白N8/	明緑灰7.5GY8/1	
567	16.0	2.9−		やや密　1mm以下の石英・長石を含む	外：7.5YR8/4浅黄橙　内：10YR8/1灰白		外：ヨコナデ　ケズリ　内：ヨコナデ

図　　版

写真図版１

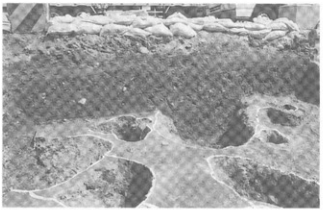


１．第１遺構面検出状況（西から）

２．第１遺構完掘状況（南から）

３．調査区西壁土層（東から）

４．調査区東壁土層（西から）

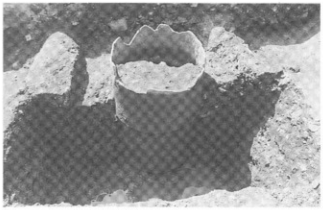


５．調査区北壁土層①（南から）

６．調査区北壁土層②（南から）

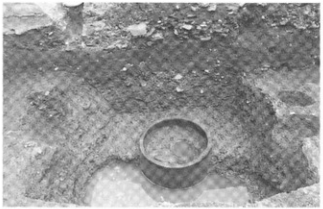
７．調査区と良櫓（太鼓櫓台跡）

８．調査風景

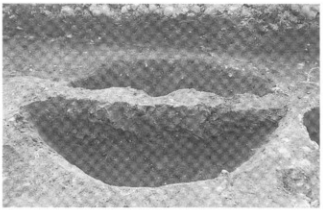


1．SE101堆積状況（東から）

2．SE101土層下層（東から）

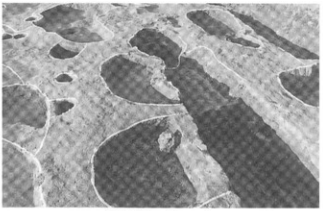


3．SE101最下層井側検出状況（東から）

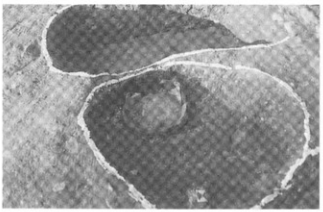


4．SK108土層堆積状況（東から）

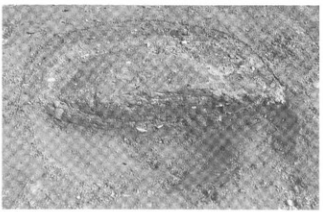
5．SK109土層堆積状況（南から）



6．SK111・112完掘状況（南から）

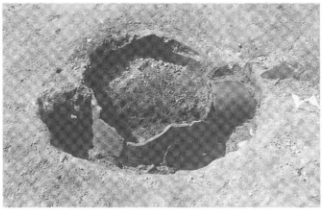


7．SK118完掘状況（南から）



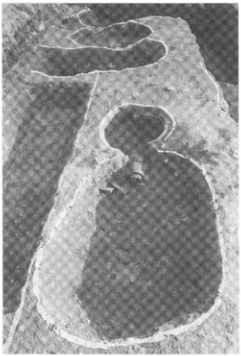
8．SP101土層堆積状況

写真図版3

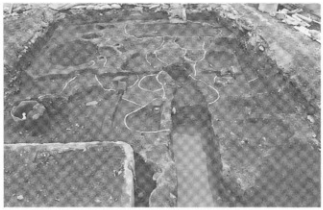


1．SP108半截状況（東から）

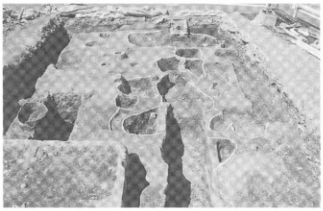
2．SP108完掘状況（SK117から）



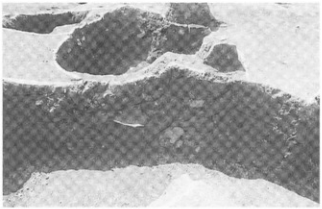
3．SP108・SK117完掘状況（北から）



4．第1遺構面下層遺構検出状況（南から）

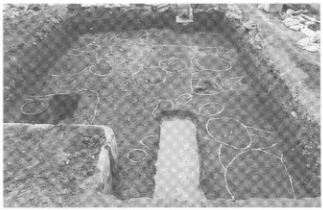


5．第1遺構面下層遺構完掘状況（南から）

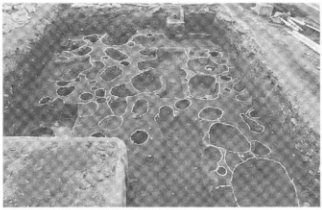


6．SKb104土層堆積状況（東から）

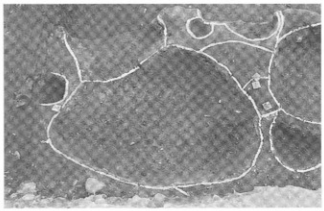
7．SKb101土層堆積状況（西から）



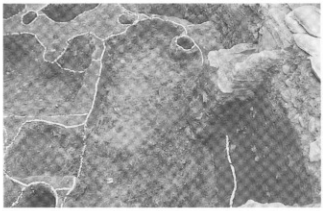
1．第２遺構面検出状況（南から）



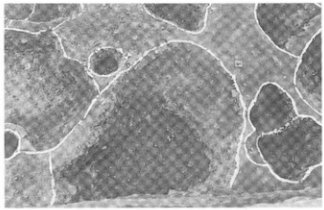
2．第２遺構面完掘状況（南から）



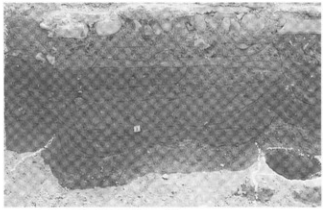
3．SK212完掘状況（東から）



6．SX201完掘状況（東から）

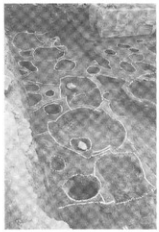


4．SK213完掘状況（北から）



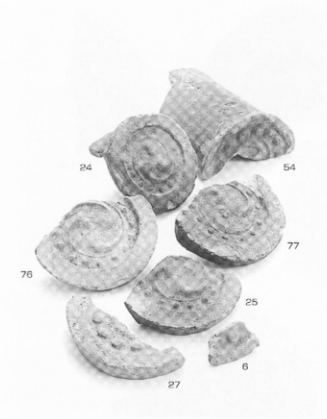
7．SX201土層断面（西から）

5．SK215完掘状況（西から）

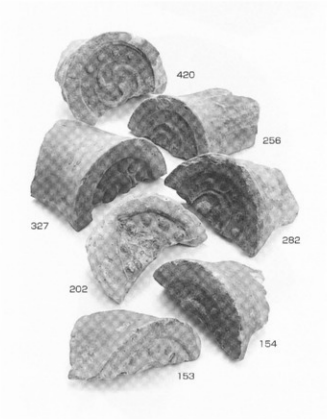


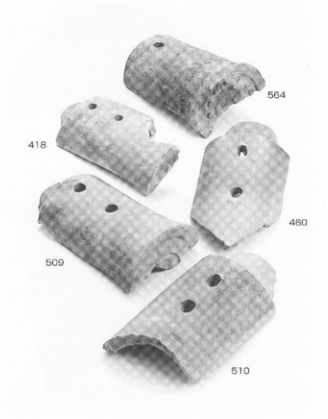
8．第２遺構面
調査区東側完掘状況

203
278
526
459
155
324
132
280
281
283
319


24
54
76
77
25
6
27

201
417
279
265
416
421
100


420
256
327
282
202
154
153


564
418
460
509
510

422

287

423

29

204

289

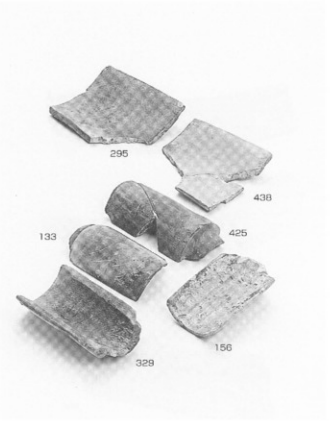
571

28

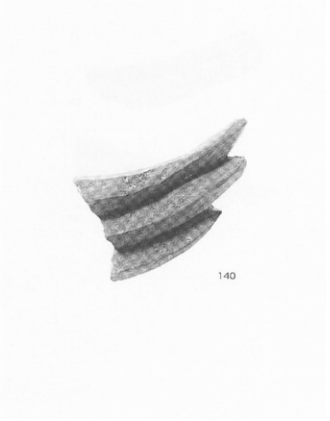
257

30

3


295
438
133
425
156
328

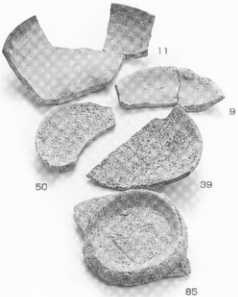
574

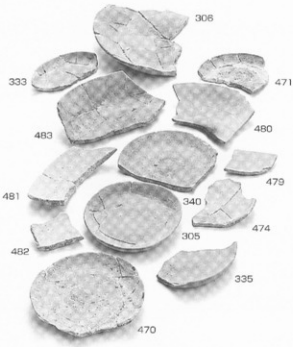

140

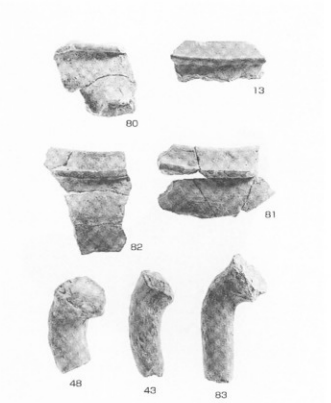
102

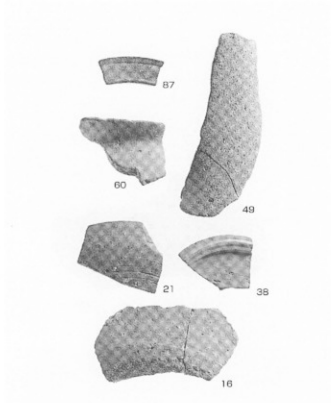
231

462






80
13
82
81
48
43
83


87
60
49
21
38
16

12

37

報 告 書 抄 録

ふりがな	たかまつじょうあと（えどながやあとⅡ）
書名	高松城跡（江戸長屋跡Ⅱ）
副書名	高松海岸線街路事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告
シリーズ名	高松市埋蔵文化財調査報告
シリーズNo.	第123集
編集者名	渡邊 誠
編集機関	高松市教育委員会
所在地	〒760-8571 香川県高松市番町一丁目8番15号 TEL087(839)2660
発行年月日	平成21年3月31日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号					
高松城跡（江戸長屋跡Ⅱ）	高松市（たかまつし）丸の内（まるのうち）	37201		34°20′53″	134°3′6″	H20.4.1～H20.4.28	約62㎡	高松海岸線街路事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高松城跡（江戸長屋跡Ⅱ）	集落	室町時代	土坑等	中国産青・白磁 土師質土器	
	城館	江戸時代	井戸，土坑等	国産陶磁器，土師質土器類，近世瓦，金属製品	

要約	中世以前の遺構が確認したほか，近世以降については，近世初期の武家屋敷の存在を示す軒瓦が多数出土した。しかし，建物遺構を確認することはできなかった。

高松城跡（江戸長屋跡Ⅱ）

編　集　高松市教育委員会
　　高松市番町一丁目８番15号

発　行　高松市教育委員会

発行日　平成21年３月31日

印　刷　若葉プリント